

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

1 学校法人名 昭和大学 2 大学名 昭和大学

3 研究組織名 昭和大学口腔ケアセンター

4 プロジェクト所在地 東京都品川区旗の台1-5-8

5 研究プロジェクト名 口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
美島 健二	歯学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 60 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
美島 健二	歯学部・教授	口腔環境に変化を与える要因としての唾液腺加齢システムの解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
中村 雅典	歯学部・教授	加齢と歯の喪失に伴う口腔粘膜のバリア構造の変化と口腔環境の関係解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
桑田 啓貴	歯学部・教授	口腔内と上気道部の粘膜バリアによる口腔環境の恒常性維持機構の解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
井上 富雄	歯学部・教授	口腔環境の恒常性を司る下顎・舌・口唇・頬の協調機構の解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
上條 竜太郎	歯学部・教授	口腔粘膜炎に伴う口腔環境恒常性破綻と全身性疾患の相互作用解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
高見 正道	歯学部・教授	硬組織代謝調節剤が口腔環境の恒常性と破綻に及ぼす影響の解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
弘中 祥司	歯学部・教授	効果的機能回復のための口腔ケアのギアチェンジ条件の最適化	口腔機能回復のための技術基盤構築
佐々木 康綱	医学部・教授	骨吸収抑制剤誘導性顆骨壊死における抜歯以外のリスクファクターの同定	口腔機能回復のための技術基盤構築

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

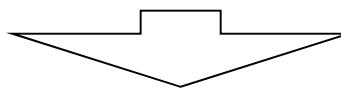
中牧 �剛	医学部・教授	造血幹細胞移植時の口腔機能障害に対して行う口腔ケアの有用性の解析	口腔機能回復のための技術基盤構築
馬場 一美	歯学部・教授	口腔機能と健康を維持するための”汚れない”補綴装置の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
槇 宏太郎	歯学部・教授	高齢者の口腔機能回復のための超微弱力矯正システムの応用	口腔機能回復のための技術基盤構築
高橋 浩二	歯学部・教授	口腔機能回復のための新規嚥下機能検査法の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
(共同研究機関等)			
阪井 丘芳	大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座顎口腔機能治療学教室・教授	唾液腺発生・再生と口腔環境維持におけるホルモン作用機構の解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
角 保徳	国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター 歯科口腔先端診療開発部 部長	要介護高齢者への安全な口腔ケア・口腔機能向上手法の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
岸本 裕充	兵庫医科大学歯科口腔外科学・主任教授	経口挿管患者における新しい口腔ケアシステムの開発	口腔機能回復のための技術基盤構築

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

疾患や加齢によって低下した摂食、発声、呼吸などの口腔機能の回復・維持は、心身の健康と QOL の向上を図るために火急の対応を要する課題であり、その方策として次世代を見据えた口腔の衛生管理、疾患治療およびリハビリテーションシステムの開発が極めて重要である。本プロジェクトでは、口腔関連分野の先鋭な専門家を加えることで、粘膜、唾液、歯、神経などの口腔環境の恒常性維持・破綻機序を詳細に解析し、得られたエビデンスに基づいて嚙下、顎骨壊死、補綴、矯正、口腔ケアなどを対象とした高度で革新的な医療技術を開発する。すなわち本プロジェクトは、口腔機能維持・回復のための研究拠点を確立し、国民の健康と QOL の向上を促進するとともに、わが国における将来の医療を担う優秀な人材を育成することを目的とする。研究計画としては疾患特性に合わせた口腔機能維持・管理・回復システムの実態と口腔内環境の問題点を症例より抽出し、どのようなアプローチで解決するか、臨床および基礎的視点から調査・研究フローを組み立て、口腔機能障害の症例を重症度や患者数などを指標として分類する。それらの発症機序を解明するための研究手法を構築し、次世代型口腔機能維持・管理・回復システムを考案するための科学的エビデンスを収集し、それに基づき口腔機能に関する臨床評価体制とエビデンスに基づいた新たな口腔機能回復技術を確立する。さらに開発した口腔機能回復技術を用いて口腔機能の臨床的評価を実施し、最終的にその有効性を従来技術と比較するとともに問題点を改善し、次世代型口腔機能維持・管理・回復システムを確立する。

(2)研究組織

本プロジェクト全体の研究活動は、研究代表者（美島健二・大学院歯学研究科教授）のもとで「昭和大学大学院歯学研究科」が統括した。本委員会は、研究機器の管理運営、サブプロジェクトの連携・調整、研究成果の公表、リスク・マネジメント、プロジェクトの評価などを行った。当該研究計画は、2つのグループにより遂行された。すなわち、口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムを解明する基礎研究グループ（7名：美島、中村、桑田、井上、上條、高見、阪井）と、次世代の新しい口腔ケアシステムを確立する臨床研究グループ（8名：弘中、佐々木、中牧、馬場、楨、高橋、角、岸本）計 15 名から組織されている。これらのグループの構成員は、本領域において卓越した業績をあげている本学口腔ケアセンターおよび医・歯学部の基礎・臨床研究者に加え、唾液腺発生・再生の専門家として大阪大学、周術期口腔ケアの専門家として兵庫医科大学、および老年歯科医療の専門家として国立長寿医療研究センターの研究者からなり、異分野の研究者が参画する異分野横断型のチーム編成となっている。

- ・研究代表者の役割

研究の総括・推進を効率的かつ機動的に果たすために昭和大学大学院歯学研究科にて、2つのサブプロジェクトの連携・調整、研究機器の管理・運営、研究の進捗状況の把握を行った。

- ・各研究者の役割分担や責任体制の明確化

プロジェクト全体は研究代表者、サブプロジェクトは各サブプロジェクトのリーダー、個々の課題は当該研究分担者、研究装置・設備の管理・運営は歯学部研究活動委員会（上條委員長）が責任を負った。個々の研究装置・設備は、主に使用する研究分担者（弘中、上條、高見、桑田、中村、井上、美島）が管理・運営を行った。

- ・研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・PD の状況

歯学研究科の研究分野を網羅する研究者が参加した。主体は教授・准教授・講師・助教だが、同研究科博士課程の大学院生 45 名が参加し、研究経験、研究分野の両面でバランスのとれた研究組織であった。

- ・研究チーム間の連携状況

参加研究者の多彩な知識と技術を共有し、プロジェクトの効果的な推進を図った。すなわち、基礎研究グループの構成メンバーが、*in vitro* の解析で必要とされる分子生物学的な技術を駆使して臨床研究グループと連携し、より客観的なエビデンスの構築を担った。加えて、臨床研究グループは得られた基盤となる基礎データを背景に臨床応用可能な技術・材料開発を推進した。

- ・研究支援体制

昭和大学 1 号館 RI 共同研究室、同遺伝子組換え実験室、同動物実験施設、同基礎系電子顕微鏡室、同歯科病院プロジェクトから施設の維持・管理面の支援を受けた。基礎系研究室所属研究補助員による実験準備・各種手続き・報告書作成等で、エフォート 30%程度の協力体制が確立した。

- ・共同研究機関等の連携状況

大阪大学、国立長寿医療研究センターおよび兵庫医科大学と密接に連携し、研究を遂行した。

(3)研究施設・設備等

別添資料 1 参照

(4)研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<研究成果の概要>

1. <プロジェクト 1> 口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明

1-1 口腔環境に変化を与える要因としての唾液腺加齢システムの解析(美島)

臓器特異的に存在する幹細胞(組織幹細胞)の老化が、臓器のみならず全身の老化に関連していることが明らかになりつつある。当該研究の目的は唾液腺老化と幹細胞老化の関連性を明らかにし、唾液腺老化のメカニズムを解明することにある。本研究の成果としては、まず、CD133 をマーカーとした唾液腺幹細胞の分取方法を確立できたことが挙げられる。すなわち、マウス嚙下腺における CD133 陽性細胞の割合は 3% であり、その局在は介在部導管であった。また、CD133 陽性細胞は幹細胞活性の指標であるスフェア形成能が高いことが示された。さらに、マウス唾液腺損傷モデルへの移植により腺組織再構築能を有することがわかり、CD133 陽性細胞は唾液腺幹細胞の濃縮された細胞集団であることが明らかとなった。CD133 陽性細胞の幹細胞性を制御する因子を同定する目的で、RNA seq を用いて遺伝

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

子発現プロファイルを作成した結果、CD133 陽性細胞では陰性細胞と比較して Sox9 を高発現していることが明らかとなった。加えて、CD133 陰性細胞に Sox9 を強制発現すると、スフェア形成能が上昇することが明らかとなった（論文リバイス中）。これらの結果より、CD133 を指標に唾液腺幹細胞の単離が可能であることが明らかとなったので、若齢、壮齢および老齢マウス唾液腺から CD133 を指標に唾液腺幹細胞を採取し、その数的および質的变化を解析した。具体的には、6 週齢(若齢)、20 週齢(壮齢)、80 週齢(老齢) のマウス顎下腺からフローサイトメトリーを用いて CD133 陽性細胞をそれぞれ単離し、その割合と機能を比較した。若齢、壮齢マウスの CD133 陽性細胞はともに顎下腺細胞中で約 4%という割合に対し、老齢マウスでは約 2%と減少していた。また、CD133 陽性細胞は若齢、壮齢、老齢マウスいずれも介在部導管に局在し加齢による局在の変化は認められなかった。加えて、老齢マウス CD133 陽性細胞では若齢マウスと比較してスフェア形成能が低下していた。したがって、マウス顎下腺幹細胞は老化とともに数のみならず機能も低下することが明らかとなった。さらに、RNAseq を用いて作製した若齢マウスと老齢マウスの唾液腺幹細胞遺伝子発現プロファイルを比較検討することにより、幹細胞老化ないしその機能回復に関与する候補遺伝子の同定を行った。現在、*最近、我々が開発に成功した唾液腺オルガノイドを応用して、同定された候補遺伝子の機能解析を進めている (Tanaka et al. 2018)。

1-2 唾液腺発生・再生と口腔環境維持におけるホルモン作用機構の解析(阪井)

ホルモン受容体を介した唾液腺分枝形態形成機構を解析するために、胎生マウス唾液腺の器官培養系にエストロゲン、プログステロンおよびメラトニンをそれぞれ添加し、各ホルモンの分枝形態形成への関与を検証した。興味深いことに*メラトニンは胎生期唾液腺の分枝形態形成を抑制する作用を有していた (Obana-Koshino et al 2015)。メラトニンは松果体から分泌され、血流を介して全身に行き渡り、唾液中からも検出されると考えられているが、本研究によって初めて、胎生期の唾液腺から強く分泌されていることが明らかになった。さらに胎生期初期から唾液腺そのものもメラトニン受容体を有しており、オートクライン的に臓器形成に影響を与えることが示唆された。それらの調整作用はアポトーシスや細胞増殖には大きな影響を与えず、上皮の細胞接着に変化を与えながら臓器形成を調節していることが明らかとなった。以前に性腺への発達に対する影響を示唆する報告をされているが、本結果によって別の機構で外分泌腺の形成に関与することが示された。さらに我々は性ホルモンの働きに注目した。性ホルモンの生理的役割を理解することは、男女で好発する疾病的予防や治療戦略を立てる上で重要である。性ホルモンと関与が示唆される Runx に注目し、唾液腺の形態形成にアンドロゲンが関わる役割を検討した。Runx1 を上皮特異的に欠損させたマウス (Runx1cKO) を作成し検討を行い機能学的解析および形態学的解析を行った。その結果、Runx1 は顎下腺の導管、特に細胞増殖因子を分泌する顆粒性導管に強く発現していた。Runx1cKO の成体雄マウスでは唾液分泌量の低下を認め、免疫組織染色で水チャネル AQP5 の局在に変化が認められた。WT の唾液腺との形態学的比較すると Runx1cKO では顆粒性導管の割合が顕著に減少しており、それに伴う細胞増殖因子の発現低下が認められた。さらに、Runx1cKO の雄マウスでは血中アンドロゲンに変化はないが、唾液腺組織中の Crisp3 の遺伝子発現が低下していた。*Runx1cKO における唾液腺の機能的低下および導管形成不全を認めたことから、唾液腺の導管形成はアンドロゲン依存的に制御され、Runx1 が導管形成および分化において重要な役割を果たしていることを明らかにした (Ono Minagi et al 2017)。*iPS 細胞を用いた唾液腺再生では奇形腫の形成が危惧されているが (Ono et al 2015)、肥大化や腫瘍化の抑制を含めてホルモンの有効活用は新たな展開が期待される。

1-3 加齢と歯の喪失に伴う口腔粘膜のバリア構造の変化と口腔環境の関係解明(中村)

頭頸部領域の加齢変化に関する研究のうち、ヒト口腔領域の加齢や歯牙喪失に伴う構造的機能的変化に関する研究は極めて少ない。しかし、口腔領域は上皮や生体内外のバリアーとして最前線に位置することから、構造の異常が全身に影響を与える可能性は極めて高い。そこで我々は、ヒトの加齢に伴う顎顔面口腔の構造学的変化を詳細に検討するため、人体解剖実習に供されるご遺体に着目した。ご遺体は固定液を用いて約 1 年間固定され、抗原が失活することから免疫組織学的解析には適さないと考えられてきたが、我々は組織標本の固定処理方法の改変と抗原賦活化により染色性を向上させる方法論を確立した。そして他の部位に比べてステロイドホルモンに反応性が高いとされる顔面皮膚に焦点を絞り、皮膚組織中の抗原提示細胞に関する免疫組織学的解析を検討した。昭和大学歯学部にご献体をいただいたご遺体(男性の有歯顎者 6 名・無歯顎者 7 名、女性の有歯顎者 7 名・無歯顎者 6 名)の皮膚試料を使用した。大腿動脈から 10% 中性ホルマリンを注入したご遺体から、上唇部、頬骨部、前頭部ならびに背側皮膚を摘出した。試料は 4% パラホルムアルデヒドによる 1 週間浸漬固定後、通法に従いパラフィン切片を作製し、HE 染色と免疫組織化学的染色を行った。使用した一次抗体は抗 HLA-DR Antigen Alpha-Chain 抗体と抗 S-100 抗体で、ABC 法により検出した。光学顕微鏡下で単位幅における各々の陽性細胞数を計測し、形態学的解析と併せて比較検討を行った。結果、全ての部位の口腔粘膜上皮および表皮で HLA-DR 陽性細胞と S-100 陽性細胞が基底層～有棘層に散在していた。*顔面部皮膚は背側皮膚に比較して優位に細胞数が多い傾向を示した。また、性差を比較すると、男性の方が若干多くなる傾向を示したもの、有意差はみられなかった。さらに、有歯顎と無歯顎で比較すると、無歯顎者において上唇部の両細胞数が減少する傾向が認められた (柳澤ら 2014)。以上のことから、抗原提示細胞は頭頸部に多いという部位特異性が見られた一方、性差による特異性は見られなかった。無歯顎者の上唇において抗原提示細胞数が減少することから、歯の喪失が免疫の低下に関わる可能性が考えられた。今後は症例数を増やし、歯の移動や加齢に伴う構造的変化についてより詳細に検討する必要があると思われる。

1-4 口腔環境の恒常性を司る下顎・舌・口唇・頬の協調機構の解明(井上)

適切に咀嚼や嚥下を行うためには、下顎・舌・口唇・頬・咽頭の協調が必要である。この協調機構を明らかにするため、次の 2 点について研究を行った。①心臓移植時に行われる体外循環法を動物に適用した、咀嚼および嚥下運動の実験モデルを確立する。②摂食に関与する脳内アミンがこれらの運動調節にどのように関与しているか解明する。1 ～ 3 年目で研究①を行った。体外循環法を動物に適用した実験モデルは、酸素化した人工の脳脊髄液を下行大動脈よりポンプで送り込み、各組織に酸素を直接届けることを特徴とする。そのため、循環・呼吸中枢が存在する脳幹への実験操作により、動物の状態が悪化して、実験が継続出来なくなる恐れが軽減される。1 年目では、*横隔神経の吸息

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

活動を指標に調べたところ、この方法で充分な量の酸素が中枢神経系に送られていた。また、人工脳脊髄液の二酸化炭素分圧を上げ、標本をアシドーシス状態にすると、上気道を形成する舌根や喉頭の筋を支配する神経の活動が、横隔神経の活動に先行して起こるようになることもわかった (Tachikawa et al. 2016)。2年目には、この実験モデルを用いて、嚥下時の舌・咽頭の運動とその協調に係わる神経機構を調べるためにモデルの確立を行った。咽頭への水を注入もしくは上喉頭神経の電気刺激の2つの方法で、安定して嚥下を誘発することが出来るようになった。さらに3年目には、脳幹網様体への電気刺激によって顎舌骨筋神経および舌下神経にリズム活動が出現することを見いだし、咀嚼運動のモデルを確立した。4、5年目では研究②を行った。4年目には、*セロトニンが閉口筋運動ニューロンの樹状突起において後シナプス性グルタミン酸性応答をどのように増強するかに焦点を当て、2A型受容体およびSrcキナーゼの活性化を介して Glu2A 含有 NMDA 受容体の機能を増強することを見いだした (Dantsuji et al. 2019)。5年目には、*同じセロトニンが三叉神経中脳路核から閉口筋運動ニューロンへの入力をシナプス前からの神経伝達物質の放出を抑えることで抑制していることを明らかにした (Nagata et al. in press)。咀嚼・嚥下の協調運動を解析するための実験モデルの確立に成功したほか、セロトニンによる顎運動の調節機構もその一部を明らかに出来たことから、目標は概ね達成できたと判断している。

1-5 口腔内と上気道部の粘膜バリアによる口腔環境の恒常性維持機構の解明(桑田)

口腔粘膜環境における恒常性維持必須の因子として常在細菌叢の存在が重要と考えられている。健常者における細菌叢構成細菌の一つとして、*Mitis* レンサ球菌は、小児期において乳歯萌出以前より口腔粘膜への定着開始が認められる、齲歯原性 *Mutans* レンサ球菌と負の相関が認められるなど、疫学的な調査から口腔健全性の維持に有益であることが示されてきている。*Mitis* レンサ球菌の特徴として、過酸化水素産生能が知られている。粘膜組織に存在している自然免疫細胞(マクロファージ等)は、血管を巡回している通常の免疫細胞とは異なり、常在細菌に常時接觸していることから、普段は過剰な免疫応答が起きないよう活性化が厳密に抑制されている。我々は、*Mitis* レンサ球菌の產生する過酸化水素がマクロファージに作用し、細胞骨格リモデリングを抑制することで、自然免疫受容体シグナルに対して抑制的に働くことを見出した。このように、口腔内の恒常性維持には、*常在性レンサ球菌の産生物による自然免疫細胞活性化制御が重要なファクターであることが示唆された(Matsushima et al. 2017, Okahashi et al. 2016)。

また、我々は食物アレルギーモデルマウスを作製し、全身に過剰な免疫応答が起きているときの口腔内環境の変化を調べた。アレルギー群マウスの糞便では、*Citrobacter* 菌群が有意に増加していた。この *Citrobacter* 菌群はマウス腸管上皮細胞から IL-33 の発現を促進することでアレルギー症状を増悪させていた。さらに、食物アレルギーモデルマウスでは唾液中の IgA が増加しており、口腔内では IgA 結合細菌が増加し、過酸化水素産生菌が減少していた。これらのことから、食物アレルギーによって変化した腸内細菌叢は IgA を増加させ、この IgA が唾液中に移行することで口腔内細菌叢も変化させていることが示唆された。そして、過酸化水素産生菌の減少は、酸化ストレスを抑制してアレルギー症状を抑えるための生体防御反応のひとつであると推測される。このように、口腔粘膜環境における恒常性維持には、口腔内細菌叢の構成とそれに対する免疫応答の精密な相互作用が不可欠であることが明らかとなった。

1-6 口腔粘膜炎に伴う口腔環境恒常性破綻と全身性疾患の相互作用解明(上條)

歯周病原菌の感染は破骨細胞による歯槽骨破壊を引き起す。骨芽細胞が発現する破骨細胞分化誘導因子 RANKL と同抑制因子 OPG は破骨細胞分化を制御する。炎症下では RANKL/OPG 比が上昇し骨破壊が進行する。我々は歯周病原菌の一種が产生するリシン特異的ジンジパイン(Kgp)が OPG を分解し、破骨細胞分化を促進することを発見した。炎症性サイトカインは歯周病性骨破壊で重要な役割を果たす。炎症性サイトカインによる破骨細胞分化に対する Kgp の効果を解析したところ、*OPG と比較した炎症性サイトカインの Kgp による分解に対する安定性の違いにより、各サイトカイン依存性の破骨細胞分化に対する Kgp の効果を説明できた。さらに、OPG の Kgp による分解部位を同定した (Akivama et al. 2014)。炎症メディエーターである NO の新規シグナル分子として 8-N₂-cGMP が同定された。我々は*成長板増殖軟骨細胞で生じる 8-N₂-cGMP が軟骨細胞の増殖を促進し骨伸長を促進することを見出した (Hoshino et al. 2017)。さらに骨は骨吸収と骨形成を繰り返す、いわゆる骨リモデリングにより維持され、その乱れは骨量が減少あるいは増加する疾患の原因となる。破骨細胞と骨芽細胞の分化における 8-N₂-cGMP の役割を解析したところ、*8-N₂-cGMP は破骨細胞分化を促進する一方(Kaneko et al. 2018)、骨芽細胞分化を抑制した。*炎症性サイトカインにより破骨細胞前駆細胞および骨芽細胞で 8-N₂-cGMP 産生が上昇することから (Kaneko et al. 2018)、*炎症性の骨脆弱化における 8-N₂-cGMP の関与が示唆された(Nagayama et al. 2019)。一方、8-N₂-cGMP の分解を促進する活性イオウ分子種も破骨細胞分化を促進したことから、両者の作用点は異なると考えられた。損傷部位の組織再生の細胞源として神経堤由来細胞 (NCDCs) に着目しているが、口腔粘膜上皮形成における NCDCs の役割は不明である。そこで口腔組織を解析し他ところ、根尖部歯根膜、付着上皮、粘膜表皮、エナメル上皮に NCDCs が認められた。この知見は、口腔組織再生への NCDCs 利用のための基礎データとなることが期待される。

1-7 硬組織代謝調節剤が口腔環境の恒常性と破綻に及ぼす影響の解析(高見)

骨吸収抑制薬は破骨細胞形成や骨吸収機能を抑制し、骨密度を上昇させる作用をもつ。本プロジェクトにおいて*我々は、妊娠マウスに骨吸収抑制薬を投与すると、出生直後に新生児が死亡することを明らかにした (Okamatsu et al. 2017)。しかし出生後の成長過程の小児に対する骨吸収抑制薬の影響について、詳細は不明である。本研究では破骨細胞分化を阻害するデノスマブと破骨細胞の骨吸収機能を阻害するビスホスホネートを用いて、これらの骨吸収抑制薬がマウスの成長（身長・体重）や硬組織（骨・歯）に及ぼす影響について解析した。デノスマブはマウスの RANKL に結合しないため、本研究では同等の作用を持つ抗マウス RANKL 抗体を使用した。また窒素含有型ビスホスホネート製剤としてゾレドロネートを用いた。これらの骨吸収抑制薬を生後 1 週目に単回投与のみ、もしくは生後 1 週目から週 1 回ずつ計 7 回腹腔内投与し、毎週体長・体重を計測した。8 週目に頭蓋骨・大腿骨・脛骨を採取し Micro-computed tomography (μ CT) で骨形態計測をおこなうとともに、組織標本を作製して骨芽細胞と破骨細胞の解析を行った。各薬物の投与量（抗マウス RANKL 抗体：2.5 mg/kg、ゾレドロネート：0.1 mg/kg または 3.0 mg/kg）はヒト投与量および過去の文献を参考に設定し、対照群には生理食塩水または抗マウス RANKL 抗体のアイソタイプコントロールとして

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

ラット IgG を用いた。なお、本実験は昭和大学動物実験委員会の承認を得ている（承認番号 16022）。抗 RANKL 抗体投与群では対照群と比較し、単回および 7 回投与群で体長や体重、大腿骨長に有意な差は認められなかつたが骨量は有意に増加した。一方、ゾレドロネート投与群（3.0mg/kg）では単回・7 回投与のいずれも著しい体長と体重、大腿骨長の抑制と骨量増加を認めた。この時、抗 RANKL 抗体投与群では脛骨の破骨細胞数が減少したのに対し、ゾレドロネート投与群では変化は認められなかつた。また、これらのマウスの歯を解析したところ、抗 RANKL 抗体投与群では正常な歯の萌出を認めたが、下顎臼歯部歯槽骨において破骨細胞数が著しく減少していた。一方、ゾレドロネート投与群では、単回・7 回投与のいずれにおいても臼歯の歯根伸長が抑制され萌出不全を生じていた。歯冠部には異常は認められず、歯槽骨における骨芽細胞数の顕著な減少と破骨細胞数の有意な増加を認めた。抗 RANKL 抗体はマウスの成長発育に異常を及ぼさなかつたが、ゾレドロネートは成長および臼歯部の歯根伸長を抑制した。これは抗 RANKL 抗体とゾレドロネートの薬物動態および作用機序の違いに起因すると推察される。以上より、ゾレドロネートはデノスマブよりも小児に対する有害作用が大きく、この薬剤が小児の成長や歯の発育に悪影響を及ぼすことが明らかとなつた（現在論文投稿中）。

2. 〈プロジェクト 2〉 口腔機能回復のための技術基盤構築

2-1 効果的機能回復のための口腔ケアのギアチェンジ条件の最適化（弘中）

①入院患者に対する口腔健康管理の質の向上に関する基礎的研究：神経筋電気刺激装置（Neuromuscular Electrical Stimulation, 以下 NMES）は、高齢者における嚥下関連筋のリハビリテーションでその効果が実証されており、VitalStim Plus®は、厳密にキャリブレーションされた微弱電流が特殊専用電極を通じ筋肉群の運動神経を刺激する NMES である。嚥下障害を有する脳性麻痺児の症例において、NMES を併用した治療を行つたところ、約 1 年後には嚥下反射を認め、その後経口摂取可能となつた事例がある。NMES に限らずリハビリテーションの様々な手技においては、患者の不快感やストレスの発生は、リハビリの効果を左右する要因となることや運動神経刺激による高次脳機能への影響も考慮する必要性がある。そこで本研究では、脳機能測定として機能的近赤外法（以下、fNIRS）を併用し、NMES 刺激による不快感やストレス発生の可能性について前頭前野の脳活動測定による検討を試みた。嚥下機能に障害のある症例では、NMES 電流強度 5.0mA 程度が最も嚥下反射回数の増加に効果的であったが、今回の条件検討の対象者は嚥下機能に問題がないため、2.0mA で前頸部に違和感を生じ、3.0mA では明らかに痛み刺激が強く、電流強度を上げることは困難であった。fNIRS 測定では、前頸部に違和感を生じた 2.0mA で oxy-Hb の増加を認めたが、同時に表情筋および側頭筋のノイズによるアーチファクトも発生しており、複数名での比較検討を実施するためには、フィルタリング処理を含めた fNIRS の解析条件を明確にする必要性が示唆された。②第 2 報 簡易型脳活動センサーと音響鼻腔測定器を用いた検討：入院患者の口腔ケアは、対象患者の病態だけでなく、ベッドサイド周囲の各種機器や経口挿管など様々な環境要因は同一の処置内容であっても患者・術者双方に少なからず影響を与えると考えられる。特に、意思疎通困難な患者では、口腔ケア実施中の不快感を訴えることは難しいが、口腔健康管理の質の向上のためには、何らかの指標が必要である。そこで、1) 口腔ケア実施中の患者のストレス発生を簡易型脳活動センサーでモニタリングできるか？2) 口腔ケア実施中の鼻閉のリスク評価に音響鼻腔測定器を応用できるか？の 2 点について検討を行つた。1) 脳活動計測装置 XB-01（株 Neu 社製）を患者に装着した状態で、様々な条件下で口腔ケアを実施した際の患者のストレス発生をモニタリング可能であるか検証した結果、体位を変化した場合でも、XB-01 は前頸部に装着可能であり、前頭前野の脳活動をモニタリングすることは可能であった。視覚遮断や声掛けの有無により、脳血流変化を簡易的にモニタリングできることから、意思疎通困難者や経口挿管患者に対する口腔ケア実施時のストレス発生の予測に応用できる可能性が示唆された。2) 音響鼻腔測定器 A1 EXECUTUVE (GM 社製) は、非侵襲的に鼻腔断面積を瞬時に計測することが可能である。しかしながら、計測は、90 度座位姿勢で行うことが、ガイドラインに規定されている。ベッドサイドケアを想定し、被験者の姿勢を①90 度②60 度③水平位に変えた場合においても、同様の計測値が得られるか、検証した。結果、体位により、値の変動が生じたのは、鼻腔粘膜や分泌物が重力の影響を受けているものと推察された。最小鼻腔断面の部位が、鼻孔入口からの距離とともに計測可能であること、鼻腔容積の左右差を瞬時に測定可能であることから、NG チューブの挿入や鼻腔吸引の際の目安として使用できる可能性が示唆された。

2-2 要介護高齢者への安全な口腔ケア・口腔機能向上手法の開発（角）

誤嚥を疑う患者への水を使って洗浄する口腔ケアの施行は、肺炎起炎菌を誤嚥させるリスクを伴う。我々は、口腔ケア時の誤嚥予防の為に、口腔ケア用ジェルと吸引嘴管を使用した『水を使わない口腔ケア』のシステムの確立を目指している。本研究では水の代替として口腔ケア用ジェルを用いた口腔ケアの施行の為に必要なジェルの開発とそのジェルを使用したブラークの除去効果を検討した。日本歯科薬品（株）との産官共同研究にて、誤嚥予防が可能で口腔ケアに適したジェル（お口を洗うジェル）を新規に開発し、市販された「お口を洗うジェル」を使用してブランシングを行うことで、ブラークを効果的に除去できることを明らかにした。口腔ケア時の誤嚥性肺炎発症のリスクを軽減させる可能性が示唆され、今後、本研究の成果である『水を使わない口腔ケア』を普及させていきたい。また、高齢外来患者の 19.1% は 1 歯以上の残根歯を有し、そのうちの 74.4% は根面未処置歯であったと報告されている。しかし、要介護高齢者の有する残根歯の実態は明らかにされていない。そこで、残根歯の保有率と処置の有無、残根歯の形態別・表面性状別のブラーク付着状況の実態を明らかにすることを目的として、要介護高齢者の残根歯の実態を調査した。その結果、要介護高齢者における残根歯の保有率は 46.7% であり、既報の高齢外来患者の保有率よりも高く、また、そのほとんどが根面未処置歯であった。さらに、残根歯のブラーク付着率は残根歯の形態および表面性状に関係性があることが明らかとなつた。加えて、口腔乾燥があり、かつ義歯を装着している高齢者は様々な問題を抱えやすく、義歯安定剤や口腔用保湿ジェルを使用せざるを得ないことが多い。本研究では、口腔乾燥症患者用の義歯安定剤に必要な物性を検討し、口腔乾燥症患者用の義歯安定剤を開発した。新たに開発した義歯安定剤は水分のない環境（重度口腔乾燥モデル）で十分な保持力を発揮し、押し出し抵抗値が低く、除去の容易性は十分であった。これらの結果は、新しく開発した義歯安定剤が口腔乾燥症患者に対して適切な物理的性質を有することを示していると考えられた。

2-3 骨吸収抑制剤誘導性顎骨壊死における抜歯以外のリスクファクターの同定（佐々木）

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

わが国では、がん患者の口腔衛生状態の向上によって口腔合併症などの予防、軽減、すべてのがん患者が安心して歯科治療を受けることができる社会基盤の構築を推進している。昭和大学病院はがん診療連携拠点病院であり、本事業開始にあたり、多職種からなる「医科歯科連携ワーキンググループ」を設置した。当科（腫瘍内科）においてがん薬物療法を実施する予定の患者を地域歯科医院に紹介する際に使用するフォーマット「医科歯科がん医療連携情報提供書」を作成し、医科歯科連携が機能するかを前向きに調査した。また、ビスホスホネート製剤（BP 製剤）や抗 RANKL 抗体など骨代謝調節薬を投与予定の骨転移を有するがん患者を対象に、経時的に評価を行うことで、顎骨壊死等有害事象の発症頻度や危険因子について、院内の歯科（歯科・歯科口腔外科）とも連携を開始した。さらに研究分担者である佐々木康綱は昭和大学腫瘍分子生物学研究所所長を併任し、臨床と基礎を結ぶ TR(Translational Research)を推進し、標準的治療法の確立と次世代のがん治療の発展に貢献した。平成 29 年度上半期では、33 症例（乳がん 11 例、結腸・直腸がん 9 例、肺がん 7 例）について 27 の地域歯科医院へ紹介が行われた。依頼内容は、化学療法開始前精査が 27 例、骨転移に対する BP 製剤や抗 RANKL 抗体投与前もしくは投与中の精査依頼が 9 例であった（重複あり）。結果、当初の予想より紹介症例が少なく、院内の医師間でも医科歯科連携について認識に差があることが判明した。また、紹介先の地域歯科医院から返信がない事例もあり、今後も当院近隣の歯科医師会との更なる連携の確立が課題であると考えられた。院内の歯科との連携では、治療途中のレジメンに沿った口腔内管理も行っている。平成 30 年度では、27 症例について依頼を行った。疾患は、消化器がんが 15 例と約半数を占めた。依頼内容は、BP 製剤開始前評価が 18 例、化学療法開始前評価が 3 例、化学療法中の口腔粘膜障害や口腔内腫瘍の精査依頼が 5 例、義歯製作依頼が 1 例であった。口腔内評価の結果、抜歯の必要ありと判断された 9 例のうち抜歯を行ったのは 1 例であり、行わなかった 8 例の理由として、患者による抜歯の拒否、全身状態の悪化、口腔内評価を受けての薬剤の使用延期または中止などが挙げられた。院内歯科から地域歯科医院への紹介は 4 例であった。院内歯科の役割として、口腔内管理の必要性の周知、患者教育を徹底していくべきであると考えられた。

2-4 造血幹細胞移植時の口腔機能障害に対して行う口腔ケアの有用性の解析(中牧)

当科では難治性造血器疾患に対する治癒的治療として造血幹細胞移植療法 (stem cell transplantation, SCT) を積極的に行ってきました。本研究期間での SCT 症例数は 114 症例で、自家移植 21 例、同種移植 (allo-SCT) 93 例であった。顕著な造血および免疫機能の抑制を伴う SCT で、口腔機能維持はその治療成績に重要な影響を与える。本研究ではこれらの症例を対象としてその成績向上へ向けて、SCT において*口腔機能に影響を与える因子を解析し (Saito et al. 2014, 2015)、*口腔の病態と感染症など移植後合併症との関連を解析 (Saito et al. 2016, 2017, 2018)、その機能維持に資する方法を模索した。昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座との共同研究で VITEK-MS を用い、*allo-SCT 患者の口腔内細菌叢の推移について、前方視的解析を行い、移植前に比較し、口腔内では coagulase 隆性ブドウ球菌 (CNS) や Enterococcus が優位となることを明らかにした (Osakabe et al. 2017)。その変化は好中球数など感染防御に重要な免疫担当細胞が回復する移植後 30 日以内に明らかとなる。*当科では高齢者 (60 歳以上) の allo-SCT は 40% に及ぶ。その約 57% に移植後 33 日を peak として敗血症を合併し、その起炎菌として CNS (staphylococcus epidermidis) や bacillus などグラム陽性菌が 78% を占めていた (Saito et al. 2018)。allo-SCT 前後の口腔内細菌叢の変化は敗血症の起炎菌と密接に関連することが明らかとなった。また、口腔内細菌叢と関連した敗血症の予防的管理は allo-SCT の治療成績改善に重要であるが、allo-SCT は①移植前処置強度（治療毒性）、②移植幹細胞ソース、③予防的抗菌薬、④GVHD 予防薬など、相互に関連する複数の要素よりなる。当科では allo-SCT をうける患者は、移植前にすでに十分な口腔ケアをうけており、口腔内細菌と関連した敗血症の発症抑制には治療関連毒性、特に粘膜障害に留意した移植治療が重要と考えられた。本研究では上記④に着目し、従来法と比較し遜色のない GVHD の制御を前提として、加えて口腔粘膜への毒性軽減を目的としてソトレキセート (MTX) 投与量を減ずる*very low dose MTX の有用性を報告した (Saito et al. 2016)。口腔粘膜侵襲の軽減は実臨床で主たる allo-SCT 対象：(a) 高齢者 (60 歳以上)、(b) 脘帶血移植 (血球回復に長期間を要する)、(c) 難治性造血器腫瘍患者 (骨髄破壊的前処置を必要とする) でとりわけ重要である。

2-5 経口挿管患者における新しい口腔ケアシステムの開発(岸本)

がんの手術の周術期等における口腔に関連した合併症には、手術部位感染や口内炎をはじめ多種多様なものがある (岸本 2014) が、研究開発拠点形成の観点から、医科からのニーズが高く、かつ予防によるインパクトが大きい課題として、当初計画していた「48 時間以上の経口的気管挿管患者に生じやすい人工呼吸器関連肺炎 (VAP) (岸本 2015)」に加え、*「ビスホスホネート (BP) 関連顎骨壊死 (BRONJ) (首藤ら 2014)」も対象に加えて研究を進めた。

VAP 予防ための口腔ケアを主に担うのは ICU の看護師であり、ケアプランの前提となる口腔のアセスメントの充実を図るために、*研究分担者が開発した評価シートである COACH (clinical oral assessment chart) をベースに、「口腔のバイタルサイン」として「清浄度」と「湿潤度」をモニタリングすることを提唱した (岸本ら 2016)。歯科ではう蝕・歯周病予防の観点から歯垢の除去が重視されてきたが、*VAP 予防のための口腔ケアにおいては、歯面に付着していた歯垢が飛散し、重力に従って咽頭部へ落下することがリスクであり、歯垢を含めた「汚染物の回収」を意識した手技が不可欠である (岸本 2014)。*当院救命救急センターの ICU に収容された患者を対象としたランダム化比較試験において、「口腔・咽頭を洗浄せず吸引機付きの歯ブラシの使用」によって、「口腔を洗浄し通常の歯ブラシを使用する従来の口腔ケア」よりも咽頭の菌量が減少し、VAP 発症率も低下することを明らかにした。BRONJ に関しては、*研究分担者が主導した兵庫県での調査で、その 5 年前に比較して患者数が 10 倍以上に増加したことを示し (首藤ら 2015)、*これは全国調査でも追認できた (Shibahara et al. 2018)。BRONJ 患者数増加の背景として、BP 休薬や抜歯の制限が背景にあると考えられため、*経口 BP 使用中の患者の抜歯において、BP を休薬せずに抜歯すると抜歯窓の治癒は遷延するものの、BRONJ を発症せずに施術できることを明らかにした (Shudo et al. 2018)。*BRONJ には骨髄炎型と骨壊死型がある (Kishimoto et al. in press) と考えられ、骨髄炎型の予防には適切なタイミングでの抜歯は、確実な感染源の除去による BRONJ の発症予防を期待できる。*従来は「できるだけ抜歯を控える」、「抜歯時には休薬」が主流であったが、それらとは真逆の対応の必要性を、歯科も含めた多職種および一般市民にわかりやすく解説した (岸本 2018、高岡ら 2019、玉岡ら 2019)。

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2-6 口腔機能と健康を維持するための”汚れない”補綴装置の開発(馬場)

我々は東京大学大学院工学系研究科石原研究室との連携の下、優れた生体親和性とタンパク吸着抑制能を有する MPC ポリマー(2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine)に注目し、汚れない義歯の開発を目指した。まず MPC ポリマーを義歯にコーティングするため、グラフト重合法という手法を用いて共有結合を持つ密な MPC コーティングを基板表面上に獲得することに成功した。このコーティングにより強固なバイオフィルムを形成する **S. mutans* によるバイオフィルム形成を 90%以上抑制し、また機械的刺激に対しても耐久性を持つことを明らかにした(Takahashi et al. 2014)。しかしながらグラフト重合法による MPC コーティングは抑制効果や耐久性に優れるものの、専用の機器が必要であること、重合時間が長時間であること、多量の MPC が必要なため高コストである等の問題があり、歯科臨床において実用化することは困難であった。そこで、東京大学石原研究室と共同で紫外線を利用した光感応型 MPC ポリマー(PMBPAz)を開発し、PMMA 表面へのコーティングを行うことに成功した。この方法は*2 分間の紫外線照射のみで従来と同程度のバイオフィルム抑制効果を有するコーティングが可能であることが明らかにされた(Ikeya et al. 2016)。また、この PMBPAz を用いて PMMA 上にコーティングを行ったところ、**S. mutans* バイオフィルム形成が約 90% 抑制されることを見出した(Fukunishi et al. 2017)。本法は紫外線照射によりアクリルレジン表面と共有結合により直接結合するため、従来の方法と比較して*機械的刺激への耐久性が向上した。さらに酸やアルカリ溶液への化学的耐久性も十分であることが実証された(Fukunishi et al. 2017)。以上のことから本法は診療室内において、簡単にコーティングが行えるため、患者の使用する義歯に臨床応用することが可能だと考えられた。次に、PMBPAz を用いて実際の患者が使用している義歯に対して臨床試験を行った。コーティングの評価はデンチャープラークの付着面積を測定と付着したデンチャープラークの定量を測定する方法を用いて比較を行った。その結果、デンチャープラーク染色面積は PMBPAz により*義歯の研磨面、粘膜面ともに 60%以上減少していることが分かった(Ikeya et al. 2017)。また、定量したデンチャープラークの比較では PMBPAz により約 80%減少していたことが実証された(Ikeya et al. 2017)。さらに本コーティングは、少なくとも*2 週間の期間有効であり、義歯を通常の清掃を行っても十分に耐えられる耐久性を有していたことが明らかになった(Ikeya et al. 2017)。

2-7 高齢者の口腔機能回復のための超微弱力矯正システムの応用(横)

口唇圧を客観的に評価するために、牽引速度を一定に設定したモーター式電動スライダーを作製し、定速で牽引を行い、口唇からボタンが外れた時点の最大牽引力を以下の条件で測定した。1) ボタン直径：直径 25mm のボタンで計測を行った、2) 牽引方向：ボタンから測定器までの距離を 20cm とし、FH 平面と床が平行になるように頭部を位置づけ、牽引方向は水平になるようにした、3) 牽引速度：45 mm/s で計測を行った。上記の方法にて、63 名（男性 26 名、女性 37 名）の計測を行った。口輪筋肉最大牽引力の計測、口輪筋筋電図の記録、側面頭部 X 線規格写真の分析を行った。**その結果、最大牽引力とオトガイのくぼみの大きさに関して有意な正の相関関係が認められた。また、オトガイのくぼみと下顎前歯歯軸傾斜角に有意な正の相関関係が認められた* (古谷 2015)。問題点として、ボタンプル計測装置が大きく複雑であるため、実用化が困難である。より簡便に評価する計測系を考案する必要が生じた。また、口唇閉鎖時には口輪筋ならびにオトガイ筋による下唇の押し上げが起こっていることより、ボタンプルは他の口唇圧計測方法と比べて、オトガイ筋も含め評価している可能性があることが示唆された。一方で頬、舌および口唇などの口腔周囲筋群は咬合、歯列弓に作用を及ぼし口腔顎顔面の形態や機能などと複雑に関係しているため、口唇圧だけでなく頬圧、舌圧も評価できるような新しい計測系を確立する必要が示唆された。今までに様々な装置を用いて口腔内圧の測定が行われてきた。しかしながら、同一装置で頬圧、舌圧、口唇圧を測定できる装置はない。そこで空気圧を利用して口唇圧、頬圧、舌圧を同一装置で計測できる口腔内圧測定装置を、株式会社吉田製作所との共同研究により新たに開発した。各種口腔内圧の測定は以下の条件で行った。1) 測定部位：口唇圧用を上下口唇間、頬圧用を上下顎臼歯部頬側面、舌圧用を上顎前歯部口蓋側にエアパッドを位置付けた、2) 測定方法：口唇圧、頬圧、舌圧に関しては水飲み嚥下時圧力を計測し、また口唇閉鎖圧として最大圧力を計測した。上記の方法にて 60 名を対象に計測を行った。結果、口唇圧平均は 2.5KPa、頬圧平均は 15.0KPa、舌圧平均は 22.9KPa、口唇閉鎖圧平均は 21.8KPa となった。開発した装置の口腔内圧の標準値を算出するために、今後さらに被験者を増やす必要がある。その後、歯列形態等で分類し、口腔内圧と顎顔面形態との関連について検討を行う予定である。

2-8 口腔機能回復のための新規嚥下機能検査法の開発(高橋)

頸部聴診法 (Cervical Auscultation) は食塊を嚥下する際に咽頭部で生じる嚥下音ならびに嚥下前後の呼吸音を頸部より聴診し、嚥下音の性状や長さおよび呼吸音の性状や発生するタイミングを聴取して、主に咽頭相における嚥下障害を判定する方法である。本法は非侵襲的に誤嚥や下咽頭部の貯留などを判定するスクリーニング法としてベッドサイドでも極めて簡便に行えるため、嚥下障害に対応する医療や介護の現場で広く用いられている。本法は米国で開発され、研究分担者である高橋により 1992 年に日本に紹介された摂食時に嚥下障害をスクリーニングする唯一の方法である。またスクリーニング法として単独に用いられるだけでなく、フードテストや直接訓練時に本法を併用することにより、検査の判定精度を上げたり、より安全に訓練を施行することができる。しかし頸部聴診で判定の対象とする嚥下音および嚥下前後の呼吸音については、音源および音の音響学的特性、音產生時の生理的現象については不明な点も少なくない。そこで研究分担者らは嚥下音產生時の生理的現象を明らかとするため、健常成人 15 名を被験者として嚥下内視鏡検査時に嚥下音を頸部より収音し、嚥下音產生時の嚥下動態を解析した。その結果、**大多数の嚥下音が鼻咽腔閉鎖時に產生されることを明らかとした* (音產生開始 81.3%、音產生終了 73.1%) (Furuya et al. 2015)。続いて 51 名の嚥下障害患者を有する頭頸部癌術後患者を対象として嚥下造影検査時に嚥下音、嚥下前後の呼吸音、嚥下前の自発的產生呼気音と母音/a/を頸部より収音し、異なる臨床経験年数を有する嚥下障害担当医療者 12 名に自発的產生呼気音と母音について聴覚的印象を判定させ、嚥下障害所見との関連を検討した。その結果、**聴覚的に湿性と判定された嚥下前の自発的產生呼気音と母音については極めて高い精度で、その後の嚥下において喉頭侵入あるいは誤嚥(気管内侵入)が確認され、臨床経験年数による判定精度の有意差は認められなかった。また有意差はないものの若干ではあるが嚥下前の自発的產生母音は自発的呼気音より湿性と判定される音が多いことが明らかとなつた*

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

(Yamakawa et al. 2017)。

<優れた成果が上がった点>

1. <プロジェクト1>

1-1 膜抗原である CD133 を指標に唾液腺幹細胞の単離が容易に行えるようになった点が上げられる。さらに、CD133 を指標に若齢、壮齢、老齢マウスそれぞれの唾液腺幹細胞の数と機能を解析した結果、老齢マウスにおいては若齢、壮齢マウスに比べて唾液腺幹細胞の数と機能が共に低下していることが明らかとなった点が挙げられる。

1-2 メラトニンはホルモンとして松果体から分泌され、血流を介して全身に行き渡り、唾液中からも検出されることが示されてきた。本研究から個別の臓器からも分泌すること、胎生期にも分泌されていることが明らかになった。

1-3 人体を用いた口腔粘膜部位における免疫担当細胞の局在差や有歯顎・無歯顎における相違に関する研究報告は皆無であった。本研究におけるこれまでのデータで、部位による相違が初めて示されると共に、歯の喪失が抗原提示細胞数に影響する可能性が示唆された。

1-4 下顎・舌・口唇・頬・咽頭の協調運動は、循環・呼吸中枢に近い脳幹部で調整されているため、その部位への実験操作は実験動物の状態を悪化させ実験継続が困難であったが、脳幹への操作が容易な実験モデルを確立できた。

1-5 Mitis レンサ球菌から產生された過酸化水素がマクロファージの活性化を抑制することを、マイクロアレイ解析により明らかにした。また、食物アレルギーによって口腔内細菌叢の構成が変化し、過酸化水素產生菌が減少することを示した。

1-6 破骨細胞分化の新たな制御機構としてプロテアーゼによる OPG 分解を提示できた。また、NO の新規シグナル分子 8-NO₂-cGMP が骨リモデリングの調節因子であり、炎症時の骨脆弱化に関与する可能性を見出した。さらに、口腔粘膜における神経堤由来細胞の分布を明らかにした。

1-7 骨吸収抑制薬が発育に及ぼす影響について解析した結果、デノスマブはマウスの成長発育に異常を及ぼさなかつたが、ゾレドロネートは成長および臼歯部の歯根伸長を抑制した。以上より、ゾレドロネートはデノスマブよりも小児に対する有害作用が大きく、この薬剤が小児の成長や歯の発育に悪影響を及ぼすことを発見した。

2. <プロジェクト2>

2-1 本研究を通じて、口腔健康管理の質を向上する取組が、看護師や主治医の意識改革につながった点が優れた成果である。fnIRS を用いた研究は、快・不快の判断には良好な結果が得られているが、条件設定にハードルがあると考えられた。

2-2 国立長寿医療研究センターと日本歯科薬品（株）による産官共同で口腔ケア専用ジェル「お口を洗うジェル」および口腔乾燥症患者用の義歯安定剤『ピタッと快適ジェル』の製品化を行い、要介護高齢者の QOL の向上に寄与したことが挙げられる。

2-3 本事業にあたって「医科歯科連携ワーキンググループ」を設置したことにより、近隣歯科医師会との連携が開始された点。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士といった多職種が属するため、当科をはじめとするがん診療科と院内歯科との連携も強化された点。

2-4 同種移植造血幹細胞移植前後の口腔内細菌叢の変化を網羅的に比較し、移植後の敗血症との関連を解析、その重要性を明らかにできた。従来の報告は多くが後方視的観察であることに比較し重要な知見と考えられる。これらの知見をもとに口腔粘膜への侵襲軽減を視野に置いた薬物療法を提案できた。

2-5 *経口 BP 使用中の患者の抜歯において、BP を休薬せずに抜歯しても BRONJ を発症しないことを明らかにした(Shudo et al. 2018)。研究成果は、骨粗鬆症領域のトップジャーナルに掲載された。今後の医歯薬連携の強化に大きく寄与できるであろう。

2-6 チェアーサイドでもコーティングが行える程簡便である MPC ポリマーのコーティングに成功したことは優れた成果である。また本法は基板上ではバイオフィルム形成を 90%以上抑制し、実際の臨床評価においてもデンチャープラナーの付着を 80%抑制することに成功した。

2-7 口唇圧を客観的に評価するボタンプル法の精度検証を実施した。電動スライダーを用いた装置を開発したことにより、通常の Oral myofunctional therapy では考慮しなければならないバネ特性の影響を受けることなく、検証を行うことが可能となった。*最大牽引力とオトガイのくぼみの大きさに関して有意な正の相関関係が認められた。また、オトガイのくぼみと下顎前歯歯軸傾斜角に有意な正の相関関係が認められた (古谷 2015)。

2-8 摂食時に嚥下障害をスクリーニングする唯一の方法である頸部聴診法は、嚥下障害に対応する医療や介護のほとんどでの現場で広く用いられている。聴診で判定の対象とする嚥下音および嚥下前後の呼吸音について不明であった音产生時の嚥下動態を明らかとしたとともに、今まで検討されていなかった湿性音と聴覚的に判定する精度を明らかとした。

<課題となった点>

1. <プロジェクト1>

1-1 問題点としては、老齢マウス（72 週齢～）の作出に時間がかかる点であり、克服方法としては可及的に多数のマウスを飼育し、順次、若齢マウスと比較検討を進めることができられる。また、マウス顎下腺細胞の中でも腺房細胞の分散化が難しく、条件検討に時間を要した。

1-2 現在のところ、実用化や特許申請に至る副次的な効果はないが、研究成果の活用を目指すように進めたい。

1-3 固定方法および方法論の確立に時間を費やしたが、結果として安定した方法論を確立することが出来た。今後は献体数を増やして解析を進めると共に、歯の移動や加齢に伴う構造的変化について、より詳細に検討する必要がある。

1-4 脳幹部を、膜電位感受性色素を用いて染色し、咀嚼および嚥下リズムの形成回路の存在部位を同定しようと試みたが、人工脳脊髄液の体循環による標本の揺れで、現象をうまく分離できなかった。カルシウム感受性タンパクによるイメージングや脳幹の切断実験など別の方法も適用してみる必要がある。

1-5 食物アレルギーマウスの口腔内細菌叢を解析するときに MALDI-TOF-MS を用いたが、この方法では同定できない菌

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

種が多かった。次世代シーケンサーによる解析で菌叢の変化は捉えられたが、生菌の正確な同定方法を確立する必要がある。

1-6 炎症下に 8-N₂O-cGMP の産生が高まり、これが骨量現象に関わる可能性が示唆され、重要な分子の発現変動を捉えているが、その上流の標的分子および 8-N₂O-cGMP とは異なると予想される活性イオウ分子種の標的分子の同定が課題として残されている。

1-7 グレドロネットは歯根の形成や萌出過程を阻害したが、詳しい解析の結果、骨芽細胞の形成が抑制されていることが判明した。今後の課題として、グレドロネットがいかなる作用機序で骨芽細胞の形成を抑制するか解明すること、およびグレドロネットの小児への使用が推奨できない可能性があることを報告していくことが挙げられる。

2. 『プロジェクト 2』

2-1 fNIRS を用いた研究は、快・不快の判断には良好な結果が得られているが、条件設定にハードルがあると考えられたことが、大きな課題である。病棟内は、モニターやその他の音で、あふれているため、かなり条件付しなければ、良好な結果が得られないと思った。

2-2 本報告作成時点では、口腔乾燥症患者用の義歯安定剤『ピタッと快適ジェル』の基礎研究は十分施行されたが、実際に患者に応用した臨床評価が十分行われていないことが今後の課題である。さらに、「お口を洗うジェル」を用いた『水を使わない口腔ケア』の普及活動が途上であることが、課題として残った。

2-3 がん治療で化学療法を行う診療科においては、医科歯科連携の重要性の認識は高まっているが、医師間の認識の差がある点。また、患者においてはその認識は薄く、周知を徹底していくべきである。地域の歯科医院、歯科医師会との連携も強化が求められていると考えられた。

2-4 病態が明らかにできていない味覚障害・食欲不振が造血幹細胞移植後に持続することがある。経験的に副腎皮質ステロイドの局所投与ではなく全身投与が著効する症例が存在する。抗炎症作用や中枢神経への作用が想定されるが、口腔機能異常を含めた病態解明と副腎皮質ステロイドの適切な投与指針の確立が望まれる。

2-5 ICU での看護業務は多岐にわたり、通常の口腔ケアを実施する時間を確保するのも容易ではなく、多忙な時にスキップされやすいケアの一つとされている。口腔ケアの介入研究には、今回のように「菌量の測定」は不可欠と思われるが、ルーティン業務に含まれるものではないため、研究の協力を得るのが難しかった

2-6 本コーティング法は基板上に MPC が存在することで高い付着抑制効果を示す方法であり、コーティング層の存在を調査するために行う方法がなく、評価方法に課題となった。また実際の臨床試験では高い抑制効果を示したもの、被験者数と研究デザインについてはまだ見直す点があるため課題となっている。

2-7 開発した口腔内圧測定装置の口唇圧、頬圧、舌圧、口唇閉鎖圧おのの標準値を算出するために、今後さらに被験者を増やす必要がある。形態学的不正咬合との関連から対象群を区分し、各種口腔内圧と顎顔面形態との関連について検討を行う予定である。

2-8 嘸下音产生時の嚥下動態については嚥下造影検査を用いて、多くの被検者を対象として動態をさらに詳しく解析する必要がある。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

1. 『プロジェクト 1』

1-1 老齢マウスを用いた研究は、マウスの週齢が 70 週齢以上と解析可能な週齢になるまで長期間を要する。本研究では、唾液腺幹細胞の単離方法を新たに開発することにより、限られた数のマウスからの効率よい唾液腺幹細胞の単離が可能となり、当該研究期間内に研究成果をあげることが可能となった。

1-2 現在のところ、問題点はない。効率的に研究を進めていきたい。

1-3 当初の予定以上に方法論の確立が困難であり部分的に進捗の停滞があったが、結果的に安定した方法論を確立すると共に部位特異性、歯の喪失に伴う免疫担当細胞数の変化を示し、学会発表にて研究成果の報告を行い社会へ成果を還元し得た。以上のことから研究の進捗は概ね良好であり、停滞についても適切に対応できたと考える。

1-4 年に数回、研究グループ内で議論を行い、進捗状況・研究計画を確認した。研究①咀嚼および嚥下運動の実験モデルの確立は、概ね計画通りに進めることができた。また、研究②脳内アミンの咀嚼・嚥下運動への関与についても期間内に十分な結果を得ることができ、咀嚼、嚥下の調節メカニズムの解明を今後の研究課題とした。

1-5 研究期間中に、*口腔レンサ球菌が產生した過酸化水素がマクロファージの活性化を制御することを発表した (Matsusima et al. 2017, Okahashi et al. 2016) ので、概ね順調である。また、食物アレルギーによる口腔内細菌叢の変化については論文を投稿中である。

1-6 口腔内の炎症性疾患の発症機序を解明するという課題に対して、常に自己評価を行いつつ研究を進めてきた。その結果、歯周病における骨破壊の新たなメカニズムを報告できた。さらに、細胞内シグナル分子 8-N₂O-cGMP が炎症性骨破壊に関わる可能性を提案できた。

1-7 研究を進めていく上で、当初の予定であったコンピューター解析システムの導入に時間と労力がかかり、大きな成果を得ることができなかつたことは自己評価として低い。しかし、その対応策を早急に構築し、当初の目的であった薬物の口腔に対する影響について極めて重要な成果をあげることができたことは高く評価できる。

2. 『プロジェクト 2』

2-1 中間報告等で自己評価を実施したところ、やはり fNIRS を用いた研究は、快・不快の判断には良好な結果が得られているが、条件設定にハードルがあると考えられたことが、大きな課題であった。ノイズキャンセリング等で工夫したが、静かな研究室の方が結果が良好であった。

2-2 5 年の研究期間に産官共同研究で口腔ケア中の誤嚥を予防する口腔ケア専用ジェル「お口を洗うジェル」および口腔乾燥症患者用の義歯安定剤『ピタッと快適ジェル』の製品化が行われたことは、特記すべき事項と考えている。

2-3 がん治療で化学療法を行う診療科においては、医科歯科連携の重要性の認識は高まっているが、医師間の認識の差がある点。地域の歯科医院、歯科医師会との連携について、学内アンケートを実施したが、連携がスムーズな診療

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

科ほど連携書を頻繁に書いていた。その点は改善したい。

2-4 歯学部、基礎医学講座との共同研究が行えたことは画期的な成果と評価できる。

2-5 研究分担者は毎年度末の研究成果発表会で発表し、参加者からの貴重な意見を研究に反映させることができた。BRONJ に関しては、患者数の増加および非休薬下での抜歯でも BRONJ を生じないことを示し、順調に研究が進行した。VAP 予防の論文が期間内にアクセプトされなかつたことは反省点である。

2-6 本研究により課題としていた項目を数多く解決することができ、大きく前進することができた。また研究を進める上でポリマーの開発元である東京大学石原研究室との交流だけでなく、マーケティング等の面でサポートしてくれる企業との協力を受け進むことができた。

2-7 ボタンブル法の精度検証と、同一装置での口唇圧・頬圧・舌圧・最大口唇閉鎖圧の測定が可能となった。しかしながら、当初最終目標としていた、高齢者における超微弱力による矯正治療法を適応するための治療ストラテジーの確立までは至っていないため、今後も研究を継続する予定である。

2-8 現在も嚥下造影検査時ならびに嚥下内視鏡検査時にはルーティンに嚥下時產生音を検査動画像とともに記録を行い、将来行う解析に備えている。具体的には本年度の夏季休暇期間を経た後に、大学院生を中心として解析を進める。(別添資料 2 参照)

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

外部評価者による評価結果としては、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の目的と目標に十分達した実績と評価できる。今後は、私立大学医療系拠点校として、トランスレーショナル研究の更なる強化を期待したい。」との評価を受けており、課題として臨床への応用が挙げられた。このことから、中間報告以降は基礎研究においては、臨床応用可能なシーズの開発に重点が置かれ、その結果、国際的にも評価の高い peer-review journal への多数論文掲載がなされ臨床応用の基盤となる多くの知見が得られた。また、実際に臨床応用がなされた例としても、産官共同で口腔ケア専用ジェル「お口を洗うジェル」および口腔乾燥症患者用の義歯安定剤『ピタッと快適ジェル』の製品化が挙げられる。加えて、「汚れにくい義歯材料の開発」を目的に実施された研究からも、チアーサイドでもコーティングが行える MPC ポリマーのコーティング材開の開発に成功したことが挙げられ、当該研究プロジェクトにおいて一定の成果が得られたものと考えられる。

＜研究期間終了後の展望＞

1. 《プロジェクト 1》

1-1 当該研究により、若齢マウスと比較して老齢マウスの唾液腺幹細胞の数と機能ともに低下していることが明らかとなった。加えて、若齢マウスと老齢マウス唾液腺幹細胞の遺伝子発現プロファイルを比較しており、この結果から、唾液腺幹細胞老化に関する遺伝子が明らかになれば、唾液腺老化メカニズム解明に役立つものと期待される。

1-2 唾液腺発生・再生と口腔環境維持におけるホルモン作用機構の解析をおこなってきた。今後、メラトニンやアンドロゲンをはじめとするホルモンの唾液腺における役割や作用および作用機序についてさらなる研究を進め、細胞内伝達経路明らかにしていく。

1-3 有歯顎・無歯顎のご遺体数と男女数を調整しながら、これまで行ってきたご遺体の固定法と免疫組織化学染色法を用いてデータの取得を行う。これらのデータは医療に対し極めて貴重な情報を提供するものであり、部位あるいは咬合状態の相違が口腔粘膜組織の免疫学的特異性に影響する可能性を示すことが期待される。

1-4 本研究で確立した実験モデルを用い、咀嚼中枢やその入出力の制御機構、また咀嚼時の下顎・舌・口唇・頬の協調機構への嚥下・呼吸の影響を明らかにすることによって、口腔環境維持のために適切な咀嚼・嚥下機能検査法の開発の基礎データが得られることが期待される。

1-5 当該研究により、免疫応答の変化と口腔内細菌叢の変化は緊密に相互作用していることが明らかとなった。今後はさらに他の免疫疾患と口腔内細菌叢との関連性について検討し、免疫疾患に対する口腔内細菌からの治療アプローチを探っていく。

1-6 骨芽細胞および破骨細胞における 8-NO₂-cGMP および活性イオウ分子種の標的分子の同定は、種々の骨代謝疾患の予防・治療に大きな示唆を与えると期待している。プロテアーゼによる骨吸収制御については、宿主プロテアーゼの役割を引き続き解析を進めていく。

1-7 骨吸収抑制薬は小児に使用されているが、ゾレドロネートよりもデノスマブの方が、副作用が小さい可能性があるため、その根拠をより詳細に示すための研究を実施していく。その結果に基づいて、小児や小児歯科に関連する学会で本研究成果を紹介し、骨吸収抑制薬の重要性と危険性について医師および歯科医師とともに共同で研究を進めていく。

2. 《プロジェクト 2》

2-1 今後は、研究室で得られた結果と共に音響測定も追加して、研究を実施したいと考えている。fNIRS は非常にわかりやすい原理を持っているため、口腔内の快・不快だけではなく、疼痛等にも応用していく必要性がある。

2-2 「お口を洗うジェル」を用いた『水を使わない口腔ケア』の普及活動をより進めて、要介護高齢者の QOL の向上に寄与したい。日本発、世界初の製品化された口腔乾燥症患者用の義歯安定剤『ピタッと快適ジェル』の普及にも力を注ぐ予定である。

2-3 本学で「医科歯科連携ワーキンググループ」を設置したことにより、研究終了後も継続的ながん化学療法対策が構築されている。今後は、本学は8つの病院を有するため、各付属病院間の医科歯科連携ワーキングを発足し、ひいては地域の医師会歯科医師会の連携につなげたい。

2-4 造血幹細胞移植療法の対象患者は①薬物療法に抵抗性の難治例や②高齢者例が増加してゆくことが予想される。移植前処置の強度は①の克服には重要であるが、口腔粘膜障害など②に対しては十分な配慮を必要とする。造血幹細胞移植療法は本来相互に相反する複数の要素よりなる。エビデンスに基づく治療戦略の指針作成は容易ではないと思われる。

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2-5 日本集中治療医学会と日本クリティカルケア看護学会の合同で、「気管挿管患者の標準的口腔ケア手順」を策定中で、研究分担者はその合同委員会に所属している。現在修整中である本プロジェクトの研究成果が専門誌に掲載されれば、適切な口腔ケア手順のエビデンスの1つとなり得る。

2-6 MPC ポリマーによる特異的に抑制される細菌の調査と MPC ポリマーを用いた大規模臨床評価を計画している。また、開発元である東京大学石原研究室とはポリマーのアップグレード等も検討していく予定である。

2-7 我々が開発した微弱な矯正力による新たな矯正治療法における機能的变化(口唇圧、顎運動、発音、咬合圧、咀嚼筋筋電図など)を検討し、高齢者への適応を検討する。また、新しい矯正治療法の効果と解決すべき課題を整理し、高齢者に新しい矯正治療法を適応するための治療ストラテジーを確立する。

2-8 今後、ルーティンにデータを集積し、本年度の夏季休暇を経た後に解析を進める予定であるが、さらに音響学的分析も加え、湿性音の聴覚的評価と周波数特性を主とした音響学的特徴との関連を検討する予定である。

＜研究成果の副次的效果＞

1. 《プロジェクト1》

1-1 超高齢社会を背景に益々唾液分泌障害に起因する疾患が増加することが想定され、本研究成果により老化による唾液分泌障害のメカニズムが解明されると、唾液腺の機能障害を抑制する薬剤の開発につながる可能性がある。

1-2 実用化や特許申請に至る副次的な効果はないが、研究成果の活用を目指すように進めたい。

1-3 本研究は人体を用いた研究であり、極めて重要な知見を臨床に提供できる貴重な研究であると考える。性差あるいは有歯顎・無歯顎における相違が明確になれば、これから歯科医療の戦略は大きく変わることは明らかである。

1-4 嘸下・吸啜・呼吸など複数のリズムの誘発が出来ることから、脳幹に中枢がある咀嚼以外の運動における下顎・舌口唇・頬の協調運動や、運動間の相互調節機構などについても調べることが可能となる。

1-5 小児の口腔内恒常性の維持や、免疫疾患の予防と治療に有効な口腔内細菌カクテルの経口投与法を開発することが可能となる。また、常在細菌叢が持つ未知の病原性を明らかにする一助となり、新たな化学療法薬を開発することが可能になる。

1-6 8-NO₂-cGMP が炎症性骨吸収のメディエーターであることが示唆されたことから、8-NO₂-cGMP の分解を促進し、炎症性骨破壊を抑制できると考えた活性イオウ分子種が破骨細胞分化を促進することが明らかとなった。このことは、破骨細胞分化のレドックス制御機構の解析を進めるきっかけとなった。

1-7 本研究に若手研究者を複数参画させ、研究を指導しながら成果をあげることができたため、若手研究者の育成に役立った。また、本研究成果が全身の様々な器官に関連していることから、歯科医学の研究分野だけでなく、小児科の研究分野に本研究成果が波及した。さらに、昭和大学のブランド形成にも役立った。

2. 《プロジェクト2》

2-1 fNIRS を用いている被験者は、どのような刺激が来るのかを想像するが故に非常に集中する、あるいは不安になる結果が得られた。今後の fNIRS 等を用いた研究デザインにかなり応用できる可能性が広がった。

2-2 本研究を遂行することで、初めて研究を行う若手研究者が成長し、単に学位論文を書くための分析的研究に留まらず、社会に新たな製品を提供しうる創造的研究の意義を確認し、その過程を経験出来たことは望外の喜びであった。

2-3 医科歯科連携を強化したところ、多職種との連携が深まった。がんという疾患は、医師や歯科医師のみで治療するわけではなく、本学の建学精神に根ざした「チーム医療」が具現化されている。また、職種間でのリーダーシップが見えるようになり、チームの中で、顔の見える連携が深まった。

2-4 造血幹細胞移植療法にめぐり、医師・歯科医のみならず、看護師・理学療法士・栄養士など複数の職種間でのチーム医療の構築を進めることができた(大日本住友製薬ドクターメッセージ)。昭和大学病院では、学生実習でも口腔機能に配慮した抗がん剤投与の実践を学ぶ機会を提供することができた。

2-5 「口腔のバイタルサイン」としての「清浄度」と「湿潤度」のモニタリングや、咽頭部の「汚染物の回収」の概念は、介護の現場における誤嚥性肺炎予防の口腔清掃にも応用可能である。また、BRONJ を予防するための医歯薬連携は、糖尿病や抗血栓薬を使用中など、さまざまな疾患有する患者の連携の強化へも展開できる。

2-6 本研究成果により、MPC ポリマーがデンチャープラーカーの付着を抑制することが明らかにされた。またそれに伴い、S. mutans のバイオフィルム形成を測定するプロトコールが得られた。さらに臨床試験を行うまでの手法を得ることができた。

2-7 今回開発を行った口腔内圧測定装置は、口唇圧、頬圧、舌圧、口唇閉鎖圧を同一装置で計測が可能である。装置は軽量で持ち運びが可能であり、患者でも簡便に各種口腔内圧を測定することができる。高齢者における口腔機能向上のためのトレーニングにも応用しやすいと考える。

2-8 嘸下時産生音について湿性音の聴覚的な判定精度が臨床経験年数によらず高いことが明らかとなり、嘸下障害診療に関わる若い医療・介護関係者が摂食中の唯一の嘸下障害のスクリーニング法である頸部聴診に取り組みやすくなつたものと思われる。

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| (1) <u>口腔機能</u> | (2) <u>唾液</u> | (3) <u>骨吸収</u> |
| (4) <u>高齢者</u> | (5) <u>口腔ケア</u> | (6) <u>硬組織</u> |
| (7) <u>口腔環境</u> | (8) <u>歯科医療</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

«プロジェクト 1»

1-1

- Kato M, Tanaka J, Aizawa R, Yajima-Himuro S, Seki T, Tanaka K, Yamada A, Ogawa M, Kamijo R, Tsuji T, Mishima K, Yamamoto M. Visualization of junctional epithelial cell replacement by oral gingival epithelial cells over a life time and after gingivectomy. *Sci Rep*, in press (査読有)
- Bin BH, Lee SH, Bhin J, Irié T, Kim S, Seo J, Mishima K, Lee TR, Hwang D, Fukada T, Cho EG. The epithelial zinc transporter ZIP10 epigenetically regulates human epidermal homeostasis by modulating histone acetyltransferase activity. *Br J Dermatol*, 180:(4):869-880, 2019 (査読有)
- *Tanaka J, Ogawa M, Hojo H, Kawashima Y, Mabuchi Y, Hata K, Nakamura S, Yasuhara R, Takamatsu K, Irié T, Fukada T, Sakai T, Inoue T, Nishimura R, Ohara O, Saito I, Ohba S, Tsuji T, Mishima K. Generation of orthotopically functional salivary gland from embryonic stem cells. *Nat Commun*, 11;9(1):4216, 2018 (査読有)
- Seki T, Aizawa R, Tanaka J, Yajima-Himuro S, Kato M, Tanaka K, Mishima K, Yamamoto M. Establishment of mouse gingival junctional epithelial cell line using a bioengineered tooth system. *Biochem Biophys Res Commun*, 497(1):167-172, 2018 (査読有)
- Bin B, Bhin J, Takaishia M, Toyoshima K, Kawamata S, Ito K, Hara T, Watanabe T, Irié T, Takagishi T, Lee SH, Jung HS, Rho S, Seo J, Choi DH, Hwang D, Koseki H, Ohara O, Sano S, Tsuji T, Mishima K, Fukada T. Requirement of zinc transporter ZIP10 for epidermal development: implication of the ZIP10-p63 axis in epithelial homeostasis. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 114(46):12243-12248, 2017 (査読有)
- Bin B, Bhin J, Seo J, Kim SY, Lee E, Park K, Choi DH, Takagishi T, Hara T, Hwang D, Koseki H, Asada Y, Shimoda S, Mishima K, Fukada T. Requirement of zinc transporter SLC39A7/ZIP7 for dermal development to fine-tune endoplasmic reticulum function by regulating protein disulfide isomerase. *J Invest Dermatol*, 137(8):1682-1691, 2017 (査読有)
- Takebe Y, Tatehara S, Fukushima T, Tokuyama-Toda R, Yasuhara R, Mishima K, Satomura K. Novel Cryopreservation Method for the Effective Collection of Dental Pulp Stem Cells. *Tissue Eng Part C Methods*, 2017 *Tissue Eng Part C Methods*, 23(5):251-261, 2017 (査読有)
- Inoue H, Kishimoto A, Nakayama RU, Hasaka A, Takahashi A, Ryo A, Muramatsu T, Ide F, Mishima K, Saito I. Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 59(2):107-112, 2016 (査読有)
- Ohashi W, Kimura S, Iwanaga T, Furusawa Y, Irié T, Izumi H, Watanabe T, Hijikata A, Hara T, Ohara O, Koseki H, Sato T, Robine S, Mori H, Hattori Y, Watarai H, Mishima K, Ohno H, Hase K, Fukada T. Zinc transporter SLC39A7/ZIP7 promotes intestinal epithelial self-renewal by resolving ER stress. *PLOS Genetics*, 12(10):e1006349, 2016(査読有)
- Yasuhara R, Irié T, Suzuki K, Sawada T, Miwa N, Sasaki A, Tsunoda Y, Nakamura S, Mishima K. The β-catenin signaling pathway induces aggressive potential in breast cancer by up-regulating the chemokine CCL5. *Exp Cell Res*, 338(1):22-31, 2015(査読有)
- Tanaka J, Irie T, Yamamoto G, Yasuhara R, Isobe T, Hokazono C, Tachikawa T, Kohno Y, Mishima K. ANGPTL4 regulates the metastatic potential of oral squamous cell carcinoma. *J Oral Pathol Med*, 44(2):126-33, 2015(査読有)
- Okada S, Irie T, Tanaka J, Yasuhara R, Yamamoto G, Isobe T, Hokazono C, Tachikawa T, Kohno Y, Mishima K. Potential role of hematopoietic pre-B-cell leukemia transcription factor-interacting protein in oral carcinogenesis. *J Oral Pathol Med*, 44(2):115-25, 2015 (査読有)
- Takahashi A, Inoue H, Mishima K, Ide F, Nakayama R, Hasaka, A, Ryo K, Ito Y, Sakurai T, Hasegawa Y, Saito I. Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. *PLoS One*, 10(1):e0116008, 2015(査読有)
- Hojyo S, Miyai T, Fujishiro H, Kawamura M, Yasuda T, Hijikata A, Bin BH, Irié T, Tanaka J, Atsumi T, Murakami M, Nakayama M, Ohara O, Himeno S, Yoshida H, Koseki H, Ikawa T, Mishima K, Fukada T. Zinc transporter SLC39A10/ZIP10 controls humoral immunity by modulating B-cell receptor signal strength. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 111(32):11786-91, 2014(査読有)
- Miyai T, Hojyo S, Ikawa T, Kawamura M, Irié T, Ogura H, Hijikata A, Bin BH, Yasuda T, Kitamura H, Nakayama M, Ohara O, Yoshida H, Koseki H, Mishima K, Fukada T. Zinc transporter SLC39A10/ZIP10 facilitates antiapoptotic signaling during early B-cell development. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 111(32):11780-5, 2014(査読有)
- Yajima-Himuro S, Oshima M, Yamamoto G, Ogawa M, Furuya M, Tanaka J, Nishii K, Mishima K, Tachikawa T, Tsuji T, Yamamoto M. The junctional epithelium originates from the odontogenic epithelium of an erupted tooth. *Sci Rep*, 4: 4867, 2014 (査読有)

1-2

- Okuno K, Ono Minagi H, Ikai K, Matsumura Ai E, Takai E, Fukatsu H, Uchida Y, Sakai T. The efficacy of nasal airway

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- stent (Nastent) on obstructive sleep apnoea and prediction of treatment outcomes. *J Oral Rehabil.* 46(1):51-57, 2019 (査読有)
2. Matsushita T, Sakai M, Yoshida H, Morita S, Hieda Y, Sakai T. Grhl2 regulation of SPINT1 expression controls salivary gland development. *Biochem Biophys Res Commun.* 504(1):263-269, 2018 (査読有)
 3. Sarper SE, Kurosaka H, Inubushi T, Ono Minagi H, Kuremoto KI, Sakai T, Taniuchi I, Yamashiro T. Runx1-Stat3-Tgfb3 signaling network regulating the anterior palatal development. *Sci Rep.* 8(1):11208, 2018 (査読有)
 4. Sarper SE, Inubushi T, Kurosaka H, Ono Minagi H, Kuremoto KI, Sakai T, Taniuchi I, Yamashiro T. Runx1-Stat3 signaling regulates the epithelial stem cells in continuously growing incisors. *Sci Rep.* 8(1):10906, 2018 (査読有)
 5. Minagi HO, Ikai K, Araie T, Sakai M, Sakai T. Benefits of long-term pilocarpine due to increased muscarinic acetylcholine receptor 3 in salivary glands. *Biochem Biophys Res Commun.* 503(2):1098-1102, 2018 (査読有)
 6. Araie T, Okuno K, Ono Minagi H, Sakai T. Dental and skeletal changes associated with long-term oral appliance use for obstructive sleep apnea: A systematic review and meta-analysis. *Sleep Med Rev.* 41:161-172, 2018 (査読有)
 7. Tokuhara Y, Morinishi T, Matsunaga T, Sakai M, Sakai T, Ohsaki H, Kadota K, Kushida Y, Haba R, Hirakawa E. Nuclear expression of claudin-3 in human colorectal adenocarcinoma cell lines and tissues. *Oncol Lett.* 15(1):99-108, 2018 (査読有)
 8. Minagi HO, Okuno K, Nohara K, Sakai T. Predictors of Side Effects With Long-Term Oral Appliance Therapy for Obstructive Sleep Apnea. *J Clin Sleep Med.* 14(1):119-125, 2018 (査読有)
 9. Uchida H, Nakamura TJ, Takasu NN, Obana-Koshino A, Ono H, Todo T, Sakai T, Nakamura W. The central clock controls the daily rhythm of Aqp5 expression in salivary glands. *J Physiol Sci.* 68(4): 377-385, 2018 (査読有)
 10. *Ono Minagi H, Sarper SE, Kurosaka H, Kuremoto KI, Taniuchi I, Sakai T, Yamashiro T. Runx1 mediates the development of the granular convoluted tubules in the submandibular glands. *PLoS One.* 12(9):e0184395, 2017 (査読有)
 11. Sakai M, Matsushita T, Hoshino R, Ono H, Ikai K, Sakai T. Identification of the protective mechanisms of Lactoferrin in the irradiated salivary gland. *Sci Rep.* 7(1): 9753, 2017 (査読有)
 12. Okuno K, Nohara K, Takai E, Sakai T, Fleetham JA, Najib TA, Lowe AA, Ryan CF, Almeida FR. Sleep Stage Coordination Respiration and Swallowing: A Preliminary Study. *Dysphagia* 31(4):579-586, 2016 (査読有)
 13. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska BT, Lowe AA, Ryan CF, Almeida FR. Endoscopy evaluation to predict oral appliance outcomes in obstructive sleep apnea. *European Respiratory Journal.* 47(5):1410-1419, 2016 (査読有)
 14. 阪井丘芳：唾液と口腔機能の関わり. 日本静脈経腸栄養学会雑誌 1-6, 2016 (査読有)
 15. 日景朱美、野原幹司、杉山千尋、田中信和、高井英月子、上田菜美、深津ひかり、阪井丘芳：協調運動障害が口蓋裂術後構音障害の発現に及ぼす影響. 日本口蓋裂学会雑誌、41(1):1-7, 2016 (査読有)
 16. 奥野健太郎、佐々生康弘、小野瞳、野原幹司、高井英月子、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP治療圧を用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置の治療効果予測. 睡眠口腔医学2(2):109-114, 2016 (査読有)
 17. 奥野健太郎、野原幹司、尾花綾、佐々生康弘、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP と口腔内装置の同時装着によってCPAP治療圧の減少とコンプライアンスが改善した重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の1症例. 睡眠口腔医学2(2):115-120, 2016 (査読有)
 18. Uchida H, Nakamura TJ, Takasu NN, Todo T, Sakai T, Nakamura W. Cryptochrome-dependent circadian periods in the arcuate nucleus. *Neurosci Lett.* 610:123-128, 2015 (査読有)
 19. Taketa H, Sathi GA, Farahat M, Rahman KA, Sakai T, Hirano Y, Kuboki T, Torii Y, Matsumoto T. Peptide-modified Substrate for Modulating Gland Tissue Growth and Morphology In Vitro. *Sci Rep.* 5:11468, 2015 (査読有)
 20. Sasao Y, Nohara K, Okuno K, Nakamura Y, Sakai T. Videoendoscopic diagnosis for predicting the response to oral appliance therapy in severe obstructive sleep apnea. *Sleep Breath.* 19(1):419-420, 2015 (査読有)
 21. Matsuno K, Nohara K, Fukatsu H, Tanaka N, Fujii N, Sasao Y, Sakai T: Videoendoscopic evaluation of food bolus preparation: A comparison between normal adult dentates and older adult dentates. *Geriatr Gerontol Int.* 17(2):226-231, 2015 (査読有)
 22. Islam MN, Itoh S, Yanagita T, Sumiyoshi K, Hayano S, Kuremoto K, Kurosaka H, Honjo T, Kawanabe N, Kamioka H, Sakai T, Ishimaru N, Taniuchi I, Yamashiro T. Runx/Cbf β signaling regulates postnatal development of granular convoluted tubule in the mouse submandibular gland. *Dev Dyn.* 244(3): 488-496, 2015 (査読有)
 23. Fukatsu H, Nohara K, Kotani Y, Tanaka N, Matsuno K, Sakai T. Endoscopic evaluation of food bolus formation and its relationship with the number of chewing cycles. *J Oral Rehabil.* 42(8):580-587, 2015 (査読有)
 24. *Ono H, Obana A, Usami Y, Sakai M, Nohara K, Egusa H, Sakai T. Regenerating Salivary Glands in the Microenvironment of Induced Pluripotent Stem Cells, *BioMed Research International* Article ID 293570, doi: 10.1155/2015/293570, 2015 (査読有)
 25. *Obana-Koshino A, Ono H, Miura J, Sakai M, Uchida H, Nakamura W, Nohara K, Maruyama Y, Hattori A, Sakai T. Melatonin inhibits embryonic salivary gland branching morphogenesis by regulating both epithelial cell adhesion and morphology. *PLoS One.* 10(4), e0119960, 2015 (査読有)
 26. 若杉葉子、野原幹司、奥野健太郎、深津ひかり、上田菜美、戸原 玄、阪井丘芳：嚙下内視鏡検査における誤嚙の有無と体内の炎症反応についての検討. 日本摂食嚙下リハビリテーション学会雑誌19(1):11-16, 2015 (査読有)
 27. 奥野健太郎、佐々生康宏、小谷泰子、野原幹司、阪井丘芳：閉塞性睡眠時無呼吸症候群の生理と臨床. アンチ・エイジング医学 日本抗加齢医学会雑誌11(2):207-213, 2015 (査読有)
 28. 奥野健太郎、佐々生康宏、小野 瞳、野原幹司、高井英月子、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP治療圧を用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置の治療効果予測. 睡眠口腔医学2(2):115-120, 2015 (査読有)
 29. 奥野健太郎、野原幹司、尾花綾、佐々生康宏、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP と口腔内装置の同時装着によってCPAP治療圧の減少とコンプライアンスが改善した重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の1症例. 睡眠口腔医学,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 148-153, 2015 (査読有)
30. Inada Y, Uchida H, Umemura Y, Nakamura W, Sakai T, Koike N, Yagita K. Cell and tissue-autonomous development of the circadian clock in mouse embryos. *FEBS Lett.* 588(3):459-465, 2014 (査読有)
31. Okuno K, Nohara K, Tanaka N, Sasao Y, Sakai T. The efficacy of a lingual augmentation prosthesis for swallowing after a glossectomy: a clinical report. *J Prosthet Dent.* 111(4):342-345, 2014 (査読有)
32. 畠西克己、吉村美紀、北元憲利、阪井丘芳：市販ゲル化剤を用いたゼリー食のテクスチャー特性と官能評価、日本食生活学会誌, 25(3), 2014 (査読有)
- 1-3
1. Nakamura M. Histological and immunological characteristics of the junctional epithelium. *Jpn J Dent Sci Rev.* 54:59-65, 2018. (査読有)
 2. Takito J, Inoue S, Nakamura M: The Sealing Zone in Osteoclasts: A Self-Organized Structure on the Bone. *International Journal of Molecular Sciences* 19 (4), 984, 2018. (査読有)
 3. Inoue S, Otsuka H, Takito J, Nakamura M: Decisive differences in the bone repair processes of the metaphysis and diaphysis in young mice. *Bone Reports* 8, 1-8, 2018. (査読有)
 4. Takito J, Inoue S, Nakamura M: Emerging role of actin flow in the organization of podosomes in osteoclasts *Macrophage* 4, e1614, 2017. (査読有)
 5. Takito J, Otsuka H, Inoue S, Kawashima T, Nakamura M: Symmetrical retrograde actin flow in the actin fusion structure is involved in osteoclast fusion. *Biology Open* 6, 1104-1114, 2017. (査読有)
 6. Kawashima T, Takito J, Shimada Y, Sato M, Inoue M, Miyazaki T, Miyata M, Rikitake Y, Takai Y, Nakamura M: Dynamic expression of nectins in enamel organs of mouse incisors. *Journal of Oral Biosciences* 59, 172-178, 2017. (査読有)
 7. Otsuka H, Soeta S, Yagi H, Endo Y Nakamura M: New Experimental Anemic Model by Using a Nitrogen-Containing Bisphosphonate. *Ann Nutr Disord & Ther* 4 (2), 1-5, 2017. (査読有)
 8. Narita K, Oda, Mayahara M, Umehara K, Umerahara M, Imamura E, Kataoka R, Kimura H, Nakamura M: Pilot Study of Bone Augmentation in Rat Calvaria Using Silicone Molds with Recombinant Human Bone Morphogenetic Protein-2-containing Atelocollagen Sponge. *Showa Univ J Med Sci* 29, 425-433, 2017. (査読有)
 9. Otsuka H, Yagi H, Endo Y, Soeta S, Nonaka N, Nakamura M: Nitrogen-containing bisphosphonate induces a newly discovered hematopoietic structure in the omentum of an anemic mouse model by stimulating G-CSF production. *Cell Tissue Res* 367:297-309, 2017. (査読有)
 10. Yamaguchi T, Hosomichi K, Yano K, Kim YI, Nakaoka H, Kimura R, Otsuka H, Nonaka N, Haga S, Takahashi M, Shirota T, Kikkawa Y, Yamada A, Kamijo R, Park SB, Nakamura M, Maki K, Inoue I: Comprehensive genetic exploration of selective tooth agenesis of mandibular incisors by exome sequencing. *Hum Genome Var.* 4:17005, 2017. (査読有)
 11. Yu Z, Saito H, Otsuka H, Shikama Y, Funayama H, Sakai M, Murai S, Nakamura M, Yokochi T, Takada H, Sugawara S, Endo Y: Pulmonary platelet accumulation induced by catecholamines: Its involvement in lipopolysaccharide-induced anaphylaxis-like shock. *Int Immunopharmacol.* 43:40-52, 2017. (査読有)
 12. Otsuka H, Takito J, Endo Y, Yagi H, Soeta S, Nonaka N, Nakamura M: The expression of embryonic globin mRNA in a severely anemic mouse model induced by treatment with nitrogen-containing bisphosphonate. *BMC Hematol* 16 (4):1-12, 2016. (査読有)
 13. Takio J, Kimura J, Kajima K, Uozumi N, Watanabe M, Yokosuka A, Mimaki Y, Nakamura M, Ohizumi Y: Nerve growth factor enhances the CRE-dependent transcriptional activity activated by nobiletin in PC-12 cells. *Canad J Physiol Pharmacol* 94:728-733, 2016. (査読有)
 14. Arai H, Otsuka H, Takito J, Yagi H, Inoue S, Yanagisawa N, Nonaka N, Endo Y, Nakamura M: Effect of minodronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, on collagen-induced arthritis in mice. *Cell Immunol Immunotherapeut* 1:1-12, 2016. (査読有)
 15. Matoba Y, Nonaka N, Takagi Y, Imamura E, Narukawa M, Nakamachi T, Shioda S, Banks WA, Nakamura M: Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide enhances saliva secretion via direct binding to PACAP receptors of major salivary glands in mice. *Anat Rec* 299:1293-1299. (査読有)
 16. Hirayama B, Anada T, Shiwaku Y, Miyatake N, Tsuchiya K, Nakamura M, Takahashi T, Suzuki O: Immunoe cell response and subsequent bone formation induced by implanted octacalcium phosphate in a rat tibia defect. *RSC Adv* 6:57475-57484, 2016. (査読有)
 17. Tadaki M, Anada T, Shiwaku Y, Nakamura T, Nakamura M, Kojima M, Fukumoto S, Suzuki O: A 3D culture model study monitoring differentiation of dental epithelial cells into ameloblast-like cells. *RCS Adv* 6: 62109-62118, 2016. (査読有)
 18. Takito J, Otsuka H, Yanagisawa N, Arai H, Shiga M, Inoue M, Nonaka N, Nakamura M: Regulation of Osteoclast Multinucleation by the Actin Cytoskeleton Signaling Network. *J Cell Physiol.* 230:395-405, 2015. (査読有)
 19. Kubono Y, Mayahara M, Otsuka H, Kataoka R, Takagi Y, Asari J, Nonaka N, Inoue M, Nakamura M: Analysis of periapical alveolar bone resorption after the removal of interdental wire ligation. *Ped Dent J* 25:1-7 2015. (査読有)
 20. Wang X, Suzawa T, Miyauchi T, Zhao B, Yasuhara R, Anada T, Nakamura M, Suzuki O, Kamijo R: Synthetic octacalcium phosphate-enhanced reparative dentine formation via induction of odontoblast differentiation. *J Tissue Eng Regen Med* 9:1310-1320, 2015. (査読有)
 21. Kawano M, Nakayama M, Ono M, Nishiya T, Nakamura S, Takeda Y, Dobashi A, Takahashi A, Endo M, Ito A, Ueda K, Sato N, Higuchi S, Kondo T, Hashimoto S, Watanabe M, Watanabe M, Takahashi T, Sasaki K, Nakamura M, Sasazuki T, Narushima T, Suzuki R, Ogasawara K: NKG2D+ IFN- γ + CD8+ T cells are responsible for palladium allergy. *PLoS One* 9: e86810, 2014. (査読有)
- 1-4
1. Dantsuji M, Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, S. K. Park, Y. J. Bae, Ozeki M, Inoue T. 5-HT2A receptor activation enhances NMDA receptor-mediated glutamate responses through Src kinase in the dendrites of rat jaw-closing

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- motoneurons. *J Physiol.* In press(査読有)
2. Nagata A, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Gemba C, Aoki R, Dantsuji M, Maki K, Inoue T. Serotonin1B Receptor-Mediated Presynaptic Inhibition of Proprioceptive Sensory Inputs to Jaw-Closing Motoneurons. *Brain Res Bull.* In press(査読有)
3. Tobe T, Shibata Y, Mochizuki A, Shimomura N, Zhou J, Wurihan, Tanaka R, Ikeda S, Zhang Z, Li Q, Inoue T, Miyazaki T. Nanomechanical characterization of time-dependent deformation/recovery on human dentin caused by radiation-induced glycation. *J Mech Behav Biomed Mater.* 90: 248-255, 2019(査読有)
4. Tanaka J, Ogawa M, Hojo H, Kawashima Y, Mabuchi Y, Hata K, Nakamura S, Yasuhara R, Takamatsu K, Irie T, Fukada T, Sakai T, Inoue T, Nishimura R, Ohara O, Saito I, Ohba S, Tsuji T, Mishima K. Generation of orthotopically functional salivary gland from embryonic stem cells. *Nat Commun.* 9 (1): 4216, 2018(査読有)
5. Onimaru H, Nakamura S, Ikeda K, Kawakami K, Inoue T. Confocal calcium imaging analysis of respiratory-related burst activity in the parafacial region. *Brain Res Bull.* 139: 16-20, 2018(査読有)
6. Kiyomoto M, Shirota T, Moriya T, Sato H, Nakamura S, Inoue T. Experimental study on involvement of the central nervous system in inferior alveolar nerve damage-associated hyperalgesia of the mental region. *J Oral Maxillofac Surg.* In press(査読有)
7. Mochizuki A, Nakayama K, Nakamura S, Dantsuji M, Kamijo R, Shioda S, Sakurai T, Ozeki M, Inoue T. Involvement of orexin in lipid accumulation in the liver *J Oral Biosci.* 60(3):76-82,2018. (査読有)
8. Manome Y, Suzuki D, Mochizuki A, Saito E, Sasa K, Yoshimura K, Inoue T, Takami M, Inagaki K, Funatsu T, Kamijo R. The inhibition of malignant melanoma cell invasion of bone by the TLR7 agonist R848 is dependent upon pro-inflammatory cytokines produced by bone marrow macrophages *Oncotarget.* 9(52): 29934-29943, 2018(査読有)
9. Nagoya K, Nakamura S, Ikeda K, Onimaru H, Yoshida A, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Satoh F, Kawakami H, Takahashi K, Inoue T. Distinctive features of Phox2b-expressing neurons in the reticular formation dorsal to the trigeminal motor nucleus. *Neuroscience.* 358: 211-226, 2017(査読有)
10. Matsuda K, Nakamura S, Nonaka M, Mochizuki A, Nakayama K, Iijima T, Yokoyama A, Funahashi M, Inoue T. Premotoneuronal inputs to early developing trigeminal motoneurons. *J Oral Biosci, J Oral Biosci,* 59 (2):96-103, 2017 (査読有)
11. *Tachikawa S, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Iijima T, Inoue T. Coordinated Respiratory Motor Activity in Nerves Innervating the Upper Airway Muscles in Rats. *PLoS One*, 11(11): e0166436, 2016(査読有)
12. Nagata S, Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Yamamoto M, Inoue T. Postnatal changes in glutamatergic inputs of jaw-closing motoneuron dendrites. *Brain Res Bull.* 127: 47-55, 2016(査読有)
13. Ikawa Y, Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikeda M, Abe Y, Nakamura S, Nakayama K, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Effects of citalopram on jaw-closing muscle activity during sleep and wakefulness in mice. *Neurosci Res.* 13:48-55, 2016(査読有)
14. Katayama K, Mochizuki A, Kato T, Ikeda M, Nogawa Y, Nakamura S, Nakayama K, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Dark/light transition and vigilance states modulate jaw-closing muscle activity level in mice. *Neurosci Res.* 101:24-31, 2015(査読有)
15. Gemba C, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Involvement of histaminergic inputs in the jaw-closing reflex arc. *J Neurophysiol.* 113(10):3720-35, 2015(査読有)
16. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Yamada A, Maki K, Inoue T, Kamijo R, Miyazaki T. Bone micro-fragility caused by the mimetic aging processes in α -klotho deficient mice: In situ nanoindentation assessment of dilatational bands. *Biomaterials*, 47:62-71, 2015(査読有)
17. Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Sato F, Haque T, Yoshida A, Inoue T. Electrophysiological and morphological properties of rat supratrigeminal premotor neurons targeting the trigeminal motor nucleus. *J Neurophysiol.* 111 (9): 1770-1782, 2014(査読有)
- 1-5
1. Ota C, Morisaki H, Nakata M, Arimoto T, Fukamachi H, Kataoka H, Masuda Y, Suzuki N, Miyazaki T, Okahashi N, Kuwata H: Streptococcus sanguinis Noncoding cia-Dependent Small RNAs Negatively Regulate Expression of Type IV Pilus Retraction ATPase PilT and Biofilm Formation.: *Infect Immun.* 2018 Feb 20;86(3). pii: e00894-17 (査読有)
2. Arimoto T, Yambe R, Morisaki H, Umezawa H, Kataoka H, Matsui S, Kuwata H: Influence of excess branched-chain amino acid uptake by Streptococcus mutans in human host cells.: *FEMS Microbiol Lett.* 2018 Feb 1;365(3). (査読有)
3. Hiromura M, Nohtomi K, Mori Y, Kataoka H, Sugano M, Ohnuma K, Kuwata H, Hirano T.: Caveolin-1, a binding protein of CD26, is essential for the anti-inflammatory effects of dipeptidyl peptidase-4 inhibitors on human and mouse macrophages.: *Biochem Biophys Res Commun.* 2018 Jan 1;495(1):223-229. (査読有)
4. Fukunishi M, Inoue Y, Morisaki H, Kuwata H, Ishihara K, Baba K: A Polymethyl Methacrylate-Based Acrylic Dental Resin Surface Bound with a Photoreactive Polymer Inhibits Accumulation of Bacterial Plaque.: *Int J Prosthodont.* 2017 November/December;30(6):533-540. (査読有)
5. Doke M, Fukamachi H, Morisaki H, Arimoto T, Kataoka H, Kuwata H: Nucleases from Prevotella intermedia can degrade neutrophil extracellular traps. *Mol Oral Microbiol.* 2017 Aug;32(4):288-300. (査読有)
6. Kadena M, Kumagai Y, Vandenberg A, Matsushima H, Fukamachi H, Maruta N, Kataoka H, Arimoto T, Morisaki H, Funatsu T, Kuwata H. Microarray and gene co-expression analysis reveals that melatonin attenuates immune responses and modulates actin rearrangement in macrophages. *Biochem Biophys Res Commun.* Epub 2017 Feb 13. 485(2):414-420. (査読有)
7. Matsushima H, Kumagai Y, Vandenberg A, Kataoka H, Kadena M, Fukamachi H, Arimoto T, Morisaki H, Fujiwara N, Okahashi N, Kuwata H : Microarray analysis of macrophage response to infection with Streptococcus oralis reveals the immunosuppressive effect of hydrogen peroxide. : *Biochem Biophys Res Commun.* Epub 2017 Feb 13. ;485(2):461-467. (査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

8. Okahashi N, Nakata M, Kuwata H, Kawabata S. : Streptococcus oralis Induces Lysosomal Impairment of Macrophages via Bacterial Hydrogen Peroxide. *Infect Immun.* 2016 Jun 23;84(7):2042-50. (査読有)
9. Potential effect of cationic liposomes on interactions with oral bacterial cells and biofilms. Sugano M, Morisaki H, Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Kuwata H, Miyazaki T, Yamamoto M. *J Liposome Res.* 2016;26(2):156-62. (査読有)
- 1-6.
1. Kato T, Yamada A, Sasa K, Yoshimura K, Morimura N, Ogata H, Sakashita A, Kamijo R. Nephronectin expression is inhibited by inorganic phosphate in osteoblasts. *Calcif Tissue Int.* 104(2) 201–206, 2019. (査読有)
 2. Shibuya I, Takami M, Miyamoto A, Karakawa A, Dezawa A, Nakamura S, Kamijo R. In vitro study of the effects of Denosumab on giant cell tumor of bone: Comparison with Zoledronic acid. *Pathol Oncol Res.* 25(1):409-419,2019. (査読有)
 3. Nagayama K, Miyamoto Y, Kaneko K, Yoshimura K, Sasa K, Akaike T, Fujii S, Izumida E, Uyama R, Chikazu D, Maki K, Kamijo R. Production of 8-nitro-cGMP in osteocytic cells and its upregulation by parathyroid hormone and prostaglandin E2. *In Vitro Cellular & Developmental Biology - Animal*.55(1):45-51,2019. (査読有)
 4. Aizawa R, Seki T, Tanaka J, Nagahama R, Ikehata M, Kato T, Sakashita A, Ogata H, Chikazu D, Maki K, Mishima K, Yamamoto M, Kamijo R. Cdc42 regulates cranial suture morphogenesis and ossification. *Biochem Biophys Res Commun*, 512(2):145-149, 2019 (査読有)
 5. Mochizuki A, Nakayama K, Nakamura S, Dantsuji M, Kamijo R, Shioda S, Sakurai T, Ozeki M, Inoue T. Involvement of o rexin in lipid accumulation in the liver. *J Oral Biosci.* 60(3):76-82,2018. (査読有)
 6. Sasa K, Yoshimura K, Yamada A, Suzuki D, Miyamoto Y, Imai H, Nagayama K, Maki K, Yamamoto M, Kamijo R. Monocarboxylate transporter-1 promotes osteoblast differentiation via suppression of p53, a negative regulator of osteoblast differentiation. *Sci. Rep.* 8,10579, 2018(査読有)
 7. Manome Y, Suzuki D, Mochizuki A, Saito E, Sasa K, Yoshimura K, Inoue T, Takami M, Inagaki K, Funatsu T, Kamijo R. The inhibition of malignant melanoma cell invasion of bone by the TLR7 agonist R848 is dependent upon pro-inflammatory cytokines produced by bone marrow macrophages. *Oncotarget*, 9(52):29934-29943,2018(査読有)
 8. Ikehata M, Yamada A, Fujita K, Yoshida Y, Kato T, Sakashita A, Ogata H, Iijima T, Kuroda M, Chikazu D, Kamijo R: Cooperation of Rho family proteins Rac1 and Cdc42 in cartilage development and calcified tissue formation. *Biochem Biophys Res Commun*,500,525-529,2018(査読有)
 9. Kato T, Yamada A, Ikehata M, Yoshida Y, Sasa K, Morimura N, Sakashita A, Iijima T, Chikazu D, Ogata H, Kamijo R. FGF-2 suppresses expression of nephronectin via JNK and PI3K pathways. *FEBS Open Bio*, 8(5),836-84,2018(査読有)
 10. Kaneko K, Miyamoto Y, Tsukuura R, Sasa K, Akaike T, Fujii S, Yoshimura K, Nagayama K, Hoshino M, Inoue K, Maki K, Baba K, Chikazu D, Kamijo R: 8-Nitro-cGMP is a promoter of osteoclast differentiation induced by RANKL. *Nitric Oxide* , 72(1),46-51,2018(査読有)
 11. Watanabe E, Yamagata Y, Fujitani J, Fujishima I, Takahashi K, Uyama R, Ogoshi H, Kojo A, Maeda H, Ueda K, Kayashita J. The Criteria of Thickened Liquid for Dysphagia Management in Japan. *Dysphagia*, 33(1),26-32,2018(査読有)
 12. Shibuya I, Takami M, Miyamoto A, Karakawa A, Dezawa A, Nakamura S, Kamijo R. In vitro study of the effects of Denosumab on giant cell tumor of bone. Comparison with Zoledronic acid Pathol Oncol Res. *Pathol Oncol Res.* 25(1):409-419, 2019. (査読有)
 13. Izumi Y, Yamada A, Minami E, Ikehata M, Yoshida Y, Kato T, Morimura N, Ogata H, Sakashita A, Iijima T, Chikazu D, Kamijo R. IL-1b suppresses nephronectin expression in osteoblasts via ERK1/2 and JNK.. *Biochem Biophys Res Commun*, 493(1),773-775,2017(査読有)
 14. Rodriguez R, Yoshimura K, Shibata Y, Miyamoto Y, Tanaka R, Uyama R, Sasa K, Suzuki D, Miyazaki T, Kamijo R. Nanoindentation time-dependent deformation/recovery suggestive of methylglyoxal induced glycation in calcified nodules. *Nanomedicine Nov*;13(8):2545-2553, 2017(査読有).
 15. Suzuki D, Bush J, Bryce DM, Kamijo R, Beier F. Rac1 dosage is crucial for normal endochondral bone growth. *Endocrinology*, 158(10): 3386-3398, 2017(査読有)
 16. Hoshino M, Kaneko K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Suzuki D, Akaike T, Sawa T, Ida T, Fujii S, Ihara H, Tanaka J, Tsukuura R, Chikazu D, Mishima K, Baba K, Kamijo R. 8-Nitro-cGMP promotes bone growth through expansion of growth plate cartilage. *Free Rad Biol Med* 110: 63-71, 2017(査読有)
 17. Enomoto, T., Takami M., Yamamoto, M., Kamijo R. LPS administration increases CD11b+ c-Fms+ CD14+ cell population that possesses osteoclast differentiation potential in mice. *Cytotechnology*, 69(3): 529-537, 2017(査読有)
 18. Urano-Morisawa E, Takami M, Suzawa T, Matsumoto A, Osumi N, Baba K, Kamijo R. Induction of osteoblastic differentiation of neural crest-derived stem cells from hair follicles. *PLoS ONE*, 12(4):e0174940, 2017(査読有)
 19. Ikehata M, Yamada A, Morimura N, Itose M, Suzawa T, Shirota T, Chikazu D, Kamijo R. Wnt/β-catenin signaling activates nephronectin expression in osteoblasts. *Biochem Biophys Res Commun*, 484: 231-234, 2017(査読有)
 20. Yamaguchi T, Hosomichi K, Yano K, Kim YI, Nakaoka H, Kimura R, Otsuka H, Nonaka N, Haga S, Takahashi M, Shirota T, Kikkawa Y, Yamada A, Kamijo R, Park SB, Nakamura M, Maki K, Inoue I. Comprehensive genetic exploration of selective tooth agenesis of mandibular incisors by exome sequencing. *Human Genome Variation*, 4: 17005, 2017(査読有)
 21. Funato S, Yasuhara R, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Suzawa T, Chikazu D, Mishima K, Baba K, Kamijo R. Extracellular matrix loss in chondrocytes after exposure to interleukin-1β in NADPH oxidase-dependent manner. *Cell Tissue Res.*, 368: 135-144, 2017(査読有)
 22. Saito E, Suzuki D, Kurotaki D, Mochizuki A, Manome Y, Suzawa T, Toyoshima Y, Ichikawa T, Funatsu T, Inoue T, Takami M, Tamura T, Inagaki K, Kamijo R. Deletion of Irf8 by Lyz2-cre/loxP accelerates osteoclast differentiation in vitro. *Cytotechnology*, 69(3): 443-450, 2017(査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

23. Funato S, Yasuhara R, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Suzawa T, Chikazu D, Mishima K, Baba K, Kamijo R. Extracellular matrix loss in chondrocytes after exposure to interleukin-1 β in NADPH oxidase-dependent manner. *Cell Tissue Res.*, 368(1):135-144., 2017(査読有)
24. Miyamoto Y, Akaike T, Kawabata S, Akuta T, Taruki C, Yoshitake J, Hamada S, Ota F, Igarashi H, Yoshimura K, Kamijo R, Maeda H: c. *J Oral Biosci* 58(4):167-172, 2016(査読有)
25. Hiranuma K, Yamada A, Kurosawa T, Aizawa R, Suzuki D, Saito Y, Nagahama R, Ikehata M, Tsukasaki M, Morimura N, Chikazu D, Maki K, Shirota T, Takami M, Yamamoto M, Iijima T, Kamijo R. Expression of nephronectin is enhanced by α ,25-dihydroxyvitamin D3. *FEBS Open Bio*, 6: 914-918, 2016(査読有)
26. Konno A, Nishimura A, Nakayama S, Mochizuki A, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T. Continuous monitoring of caspase-3 activation induced by propofol in developing mouse brain. *Int. J. Dev. Neurosci.*, 51: 42-49, 2016(査読有)
27. Kurosawa T, Yamada A, Suzuki D, Morimura N, Sasagane Y, Itabe H, Kamijo R. Nephronectin expression is up-regulated by BMP-2. *Biol. Pharm. Bull.*, 39: 1211-1215, 2016(査読有)
28. Saito A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Chikazu D, Yamamoto M, Kamijo R. Enhanced and suppressed mineralization by acetoacetate and β -hydroxybutyrate in osteoblast cultures. *Biochem Biophys Res Commun.* 473: 537-544, 2016(査読有)
29. Oshima-Nakayama M, Yamada A, Kurosawa T, Aizawa R, Suzuki D, Saito Y, Kassai H, Sato Y, Yamamoto M, Shirota T, Aiba A, Maki K, Kamijo R. Cdc42 is crucial for facial and palatal formation during craniofacial development. *Bone Reports*, 5:1-6, 2016(査読有)
30. Nagahama R, Yamada A, Tanaka J, Aizawa R, Suzuki D, Kassai H, Yamamoto M, Mishima K, Aiba A, Maki K, Kamijo R. Rho GTPase protein Cdc42 is critical for postnatal cartilage development. *Biochem Biophys Res Commun.*, 470: 813-817, 2016(査読有)
31. Suzawa T, Yoshida H, Itose M, Takimoto R, Saito E, Suzuki D, Inagaki K, Shirota T, Maki K, Kamijo R. Neural crest-derived cells in the oral and maxillofacial regions of adult mice: isolation and application for regenerative medicine. *Showa Univ J Med Sci*, 28(3):209-217, 2016(査読有)
32. Yamada A, Kamijo R. Nephronectin: an extracellular matrix protein with diverse in vivo functions. *J.Dent & Oral Disord.*, 2(1), 2016
33. 吉村健太郎、須澤徹夫、鈴木 大、上條竜太郎. カルシウム代謝から見る口腔インプラント 日本口腔インプラント学会誌 第29巻 第1号 4-11 (査読有)
34. 鈴木 大、馬目瑠子、斎藤愛美、上條竜太郎. 口腔におけるカルシウム制御とアンチエイジング (Importance of Calcium Metabolism for Oral Health and Anti-Aging Strategies) 日本抗加齢医学会雑誌 (Antiaging Medicine) Vol.12(2),41-46, 2016(査読有)
35. Wang X, Suzawa T, Miyauchi T, Zhao B, Yasuhara R, Anada T, Nakamura M, Suzuki O, Kamijo R. Synthetic Octacalcium Phosphate Enhanced Reparative Dentin Formation via Induction of Odontoblast Differentiation. *J Tissue Eng Regen Med*, 9: 1310-1320, 2015(査読有)
36. Saito Y, Yamada A, Suzuki D, Tanaka J, Nagahama R, Kurosawa T, Maki K, Mishima K, Shirota T, Kamijo R. Association of aging with gene expression profiling in mouse submandibular glands. *Genom Data*, 5:115-9, 2015. (査読有)
37. Yu J, Murakami M, Aoki T, Jiang B, Jin Z, Koizumi T, Kusano M, Kamijo R, Miyamoto Y, Enami Y, Watanabe M, Otsuka, K. Oxygenated Static Preservation of Donation after Cardiac Death Liver Grafts Improves Hepatocyte Viability and Function. *Eur. Surg. Res.*, 56:1-18, 2015(査読有)
38. Suzuki H, Mochizuki A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Inoue T, Chikazu D, Takami M, Kamijo R: Bropirimine inhibits osteoclast differentiation through production of interferon- β . *Biochem Biophys Res Commun*, 467:146-151, 2015(査読有)
39. Ono M, Suzawa T, Takami M, Yamamoto G, Hosono T, Yamada A, Suzuki D, Yoshimura K, Watahiki J, Hayashi R, Arata S, Mishima K, Nishida K, Osumi N, Maki K, Kamijo R. Localization and osteoblastic differentiation potential of neural crest-derived cells in oral tissues of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 464: 1209-1214, 2015(査読有)
40. Saito Y, Yamada A, Suzuki D, Tanaka J, Nagahama R, Kurosawa T, Maki K, Mishima K, Shirota T, Kamijo R. Association of aging with gene expression profiling in mouse submandibular glands. *Genomics Data*, 5: 115-119, 2015(査読有)
41. Wurihan, Yamada A, Suzuki D, Shibata Y, Kamijo R, Miyazaki T. Enhanced in vitro biological activity generated by surface characteristics of anodically oxidized titanium — the contribution of the oxidation effect. *European Cells & Materials*, 29: 290-302, 2015(査読有)
42. Kurosawa T, Yamada A, Takami M, Suzuki D, Saito Y, Hiranuma K, Enomoto T, Morimura N, Yamamoto M, Iijima T, Shirota T, Itabe H, Kamijo R. Expression of Nephronectin is inhibited by Oncostatin M via both JAK/STAT and MAPK pathways. *FEBS Open Bio*, 5: 303-307, 2015(査読有)
43. Matsunaga A, Takami M, Irie T, Mishima K, Inagaki K, Kamijo R. Microscopic study on resorption of beta-tricalcium phosphate materials by osteoclasts. *Cytotechnology*, 67: 727-732, 2015(査読有)
44. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Yamada A, Maki K, Inoue T, Kamijo R, Miyazaki T. Bone micro-fragility caused by the mimetic aging processes in a-Klothodeficient mice: in situ nanoindentation assessment of dilatational bands. *Biomaterials*, 47:62-71, 2015(査読有)
45. Suzuki W, Yamada A, Aizawa R, Suzuki D, Kassai H, Harada T, Nakayama M, Nagahama R, Maki K, Takeda S, Yamamoto M, Aiba A, Baba K, Kamijo R. Cdc42 is critical for cartilage development during endochondral ossification. *Endocrinol.* 156 : 314-322, 2015(査読有)
46. Miyamoto S, Miyamoto Y, Shibata Y, Yoshimura K, Izumida E, Suzuki H, Miyazaki T, Maki K, Kamijo R. In-situ quasi-static and dynamic nanoindentation assessment of calcified nodules: Implication of glucocorticoids responsible for osteoblast calcification. *Acta Biomater* 12:216-226, 2015(査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

47. Ikumi N, Suzawa T, Yoshimura K, Kamijo R. Bone Response to Static Compressive Stress at Bone-Implant Interface: The Pilot Study of Critical Static Compressive stress. *Int J Oral Maxillofac Implants*, 30: 827-833, 2015(査読有)
48. 高橋正皓、小野美樹、須澤徹夫、吉田寛、宇山理紗、楳宏太郎、上條竜太郎：口腔顎頸面領域に存在する神経堤由来細胞の成体における分布と細胞分化能 - 新しい骨再生療法の提案 - 口腔組織培養学会誌, 24(2): 1-8, 2015(査読有)
49. 宮本洋一、上條竜太郎：骨代謝と H2S•RSS シグナル 細胞工学, 34(4): 379-383, 2015(査読有)
50. Funato S, Matsunaga A, Oh K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Tanaka J, Suzuki D, Uyama R, Suzuki H, Mishima K, Nakamura M, Namiki O, Baba K, Inagaki K, Kamijo R. Effects of antibody to receptor activator of nuclear factor κ-B ligand on inflammation and cartilage degradation in collagen antibody-induced arthritis in mice. *J Neg Results BioMed* 13:18, 2014(査読有)
51. Akiyama T, Miyamoto Y, Yoshimura K, Yamada A, Takami M, Suzawa T, Hoshino M, Imamura T, Akiyama C, Yasuhara R, Mishima K, Maruyama T, Kohda C, Tanaka K, Potempa J, Yasuda H, Baba K, Kamijo R. Porphyromonas gingivalis-derived lysine gingipain enhances osteoclast differentiation induced by tumor necrosis factor-α and interleukin-1β but suppresses that by interleukin-17A. Importance of proteolytic degradation of osteoprotegerin by lysine gingipain. *J Biol Chem* 289:15621-15630, 2014(査読有)
52. *Takahashi M, Suzawa T, Yamada A, Yamaguchi T, Mishima K, Osumi N, Maki K, Kamijo R. Identification of gene expression profile of neural crest-derived cells isolated from submandibular glands of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 446:481-486, 2014(査読有)
53. Jang IK, Tanaka R, Wurihan, Suzuki D, Shibata Y, Fujisawa N, Tanimoto Y, Ogura K, Kamijo R, Miyazaki T. Nanomechanical properties and molecular structures of in vitro mineralized tissues on anodically-oxidized titanium surfaces. *Nanomedicine* 10(3):629-637, 2014(査読有)
54. Yamada A, Aiba A, Kamijo R. Rho family small G proteins: lessons from tissue-specific gene knockout studies. *J Oral Biosci* 56(1):23-29, 2014(査読有)
- 1-7
- Shibuya I, Takami M, Miyamoto A, Karakawa A, Dezawa A, Nakamura S, Kamijo R. In Vitro Study of the Effects of Denosumab on Giant Cell Tumor of Bone: Comparison with Zoledronic Acid. *Pathol Oncol Res*. 2018 Jan; 25(1):409-419.
 - Sasaki S, Tsukamoto M, Saito M, Hojyo S, Fukada T, Takami M, Furuichi T. Disruption of the mouse Slc39a14 gene encoding zinc transporter ZIP14 is associated with decreased bone mass, likely caused by enhanced bone resorption. *FEBS Open Bio*. 2018 Feb 26;8(4):655-663.
 - Kuritani M, Sakai N, Karakawa A, Isawa M, Chatani M, Negishi-Koga T, Funatsu T, Takami M. Anti-mouse RANKL Antibodies Inhibit Alveolar Bone Destruction in Periodontitis Model Mice. *Biol Pharm Bull*. 2018;41(4):637-643.
 - Okamatsu N, Sakai N, Karakawa A, Kouyama N, Sato Y, Inagaki K, Kiuchi Y, Oguchi K, Negishi-Koga T, Takami M. Biological effects of anti-RANKL antibody administration in pregnant mice and their newborns. *Biochem Biophys Res Commun*. 2017 Sep 23;491(3):614-621.
 - Enomoto T, Takami M, Yamamoto M, Kamijo R. LPS administration increases CD11b+ c-Fms+ CD14+ cell population that possesses osteoclast differentiation potential in mice. *Cytotechnology*. 2017 Apr 20. doi: 10.1007/s10616-017-0094-3. (査読有)
 - Urano-Morisawa E, Takami M, Suzawa T, Matsumoto A, Osumi N, Baba K, Kamijo R. Induction of osteoblastic differentiation of neural crest-derived stem cells from hair follicles. *PLoS One*. 2017 Apr 6;12(4):e0174940. doi: 10.1371/journal.pone.0174940. eCollection 2017. (査読有)
 - 高見正道、岡松伸明、稻垣克記、坂井信裕、唐川亜希子『特集：分子標的薬「標的別分子標的薬 7）抗RANKL抗体」腎臓内科・泌尿器科（科学評論社）2016年7月号 (査読無)
 - Morita M, Yoshida S, Iwasaki R, Yasui T, Sato Y, Kobayashi T, Watanabe R, Oike T, Miyamoto K, Takami M, Ozato K, Deng C, Aburatani H, Tanaka S, Yoshimura A, Toyama Y, Matsumoto M, Nakamura M, Kawana H, Nakagawa T, Miyamoto T. Smad4 is required to inhibit osteoclastogenesis and maintain bone mass. *Sci Rep*. 2016 Oct 12;6:35221. doi: 10.1038/srep35221. (査読有)
 - Yu J, Yun H, Shin B, Kim Y, Park ES, Choi S, Yu J, Amarasekara DS, Kim S, Inoue J, Walsh MC, Choi Y, Takami M, Rho J. Interaction of Tumor Necrosis Factor Receptor-associated Factor 6 (TRAF6) and Vav3 in the Receptor Activator of Nuclear Factor κB (RANK) Signaling Complex Enhances Osteoclastogenesis. *J Biol Chem*. 2016 Sep 23;291(39):20643-60. doi: 10.1074/jbc.M116.728303. Epub 2016 Aug 9. PMID: 27507811 (査読有)
 - Saito E, Suzuki D, Kurotaki D, Mochizuki A, Manome Y, Suzawa T, Toyoshima Y, Ichikawa T, Funatsu T, Inoue T, Takami M, Tamura T, Inagaki K, and Kamijo R. Down-regulation of Irf8 by Lyz2-cre/loxP accelerates osteoclast differentiation in vitro. *Cytotechnology*, 2016 Aug 8. [Epub ahead of print] (査読有)
 - Tsumura, H, Ito, M, Takami M, Arai, M, Li, X.-K, Hamatani, T, Igashira, A, Takada, S, Miyado, K, Umezawa, A, Ito, Y. Conditional deletion of CD98hc inhibits osteoclast development. *Biochem. Biophys. Rep.* Volume 5, p203-210, 2016. (査読有)
 - Suzuki H, Mochizuki A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Inoue T, Chikazu D, Takami M, Kamijo R. Bropirimine inhibits osteoclast differentiation through production of interferon-β. *Biochem Biophys Res Commun*. 2015 Sep 21. pii: S0006-291X(15)30609-4. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.09.092. [Epub ahead of print] (査読有)
 - Ono M, Suzawa T, Takami M, Yamamoto G, Hosono T, Yamada A, Suzuki D, Yoshimura K, Watahiki J, Hayashi R, Arata S, Mishima K, Nishida K, Osumi N, Maki K, Kamijo R. Localization and osteoblastic differentiation potential of neural crest-derived cells in oral tissues of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*. 2015 Sep 4;464(4):1209-14. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.07.106. Epub 2015 Jul 29. (査読有)
 - Kurosawa T, Yamada A, Takami M, Suzuki D, Saito Y, Hiranuma K, Enomoto T, Morimura N, Yamamoto M, Iijima T, Shiota T, Itabe H, Kamijo R. Expression of nephronectin is inhibited by oncostatin M via both JAK/STAT and MAPK

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

pathways. *FEBS Open Bio.* 2015 Apr 8;5:303-7. doi: 10.1016/j.fob.2015.04.001. eCollection 2015. PMID: 25905035 (査読有)

15. Matsunaga A, Takami M, Irié T, Mishima K, Inagaki K, Kamijo R. Microscopic study on resorption of β -tricalcium phosphate materials by osteoclasts. *Cytotechnology.* 2015 Aug;67(4):727-32. doi: 10.1007/s10616-015-9854-0. Epub 2015 Feb 12. (査読有)
16. 坂井信裕, 唐川亜希子, 高見正道 : デノスマブの開発と基礎 月刊リウマチ科, 52(6):642-647. 2014 (査読無)
17. Shin B, Yu J, Park ES, Choi S, Yu J, Hwang JM, Yun H, Chung YH, Hong KS, Choi JS, Takami M, Rho J. Secretion of a truncated osteopetrosis-associated transmembrane protein 1 (Ostm1) mutant inhibits osteoclastogenesis through downregulation of the B lymphocyte-induced maturation protein 1 (Blimp1) - nuclear factor of activated T cells c1 (NFATc1) axis. *J. Biol. Chem.* published online October 30, 2014. (査読有)

《プロジェクト2》

2-1

1. Osakabe L, Utsumi A, Saito B, Okamatsu Y, Kinouchi H, Nakamaki T, Hironaka S. Influence of oral anaerobic bacteria on hematopoietic stem cell transplantation patients -Oral mucositis and general condition-Transplantation *Proceedings*, 49,2167-2182,2017. (査読有)
2. Nakano M, Wakabayashi H, Sugahara H, Odamaki T, Yamauchi K, Fumiaki Abe F, Zhong J, Xiao, Murakami K, Ishikawa K, Shouji Hironaka. Effects of lactoferrin and lactoperoxidase-containing food on the oral microbiota of older individuals *Microbiol Immunol.* 61 (10), 416-426, 2017. (査読有)
3. Morita Y, Ishikawa K, Nakano M, Wakabayashi H, Yamauchi K, Abe F, Ooka T, Hironaka S. Effects of lactoferrin and lactoperoxidase-containing food on the oral hygiene status of older individuals: A randomized, double blinded, placebo-controlled clinical trial. *Geriatr Gerontol Int.*, 17 (5), 714-721, 2017. (査読有)
4. Takagi D, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int.* May 6. doi: 10.1111/ggi.12728. [Epub ahead of print] 2016 (査読有)
5. Morita Y, Ishikawa K, Nakano M, Wakabayashi H, Yamauchi K, Abe F, Ooka T, Hironaka S. Effects of lactoferrin and lactoperoxidase-containing food on the oral hygiene status of older individuals: A randomized, double blinded, placebo-controlled clinical trial. *Geriatr Gerontol Int.* May 6. doi: 10.1111/ggi.12776. [Epub ahead of print] 2016 (査読有)
6. Nakano M, Shin K, Wakabayashi H, Yamauchi K, Abe F, Hironaka S. Inactivating effects of the lactoperoxidase system on bacterial lyases involved in oral malodour production. *J Med Microbiol.* 2015 Oct;64(10):1244-52. doi: 10.1099/jmm.0.000150. Epub 2015 (査読有)
7. 弘中祥司. 高齢者の摂食嚥下と機能回復. 日本歯科医師会雑誌(0047-1763)68巻1号 Page19-29. 2015 (査読無)
8. Endo Y, Ooka T, Hironaka S, Sugiyama T, Matsuhashi K, Abe Y, Tatsuno M, Mukaid Y, Inoue M. Oral pathogens in children with respiratory disease. *Pediatric Dental Journal*, Volume 24, Issue 3, December 2014, Pages 159-16 (査読有)

2-2

1. Ohno T, Itatsu R, Moriya M, Sato Y, Sumi Y. Evaluation of the physical properties of a newly developed denture adhesive for patients with dry mouth. *Journal of Prosthodontic Research.* 2018.12.6 pii:S1883-1958(18)30417-1.doi: 10.1016/j.jpor.2018.11.001. [Epub ahead of print] (査読有)
2. Ohno T, Heshiki Y, Miyajima C, Sumi Y. Colonization of the Tongue Surface in Japanese Independent Elders: A Preliminary Study. *Int J Gerontol.* 11(3):205-207, 2017. (査読有)
3. 守谷 恵未, 松山 美和, 犬飼 順子, 道脇 幸博, 岩渕 博史, 小笠原 正, 松尾 浩一郎, 角 保徳 口腔ケア時の誤嚥予防の試み—口腔ケア用ジェルの新規開発—. *老年歯学* 53(4):347-333, 2016 (査読有)
4. 宮原 康太, 小笠原 正, 篠塚 功一, 岩崎 仁史, 松村 康平, 岡田 芳幸, はい島 弘之, 藤田 恵未, 角 保徳. ジェルタイプの保湿剤を用いた介助歯磨き後の唾液中細菌数の増減. *障害者歯科* 37(1):16-21, 2016 (査読有)
5. hno T, Tamura F, Kikutani T, Morita T, Sumi Y. Change in food intake status of terminally ill cancer patients during last two weeks of Life: a continuous observation. *J Palliat Med.* 19(8):879-82, 2016 (査読有)
6. 宮原 康太, 小笠原 正, 篠塚 功一, 岩崎 仁史, 松村 康平, 岡田 芳幸, はい島 弘之, 藤田 恵未, 角 保徳. ジェルタイプの保湿剤を用いた介助歯磨き後の唾液中細菌数の増減. *障害者歯科* 37(1):16-21, 2016 (査読有)

2-3

1. Suzuki A, Sato H, Sasaki Y. Does industry-conducted all-case surveillance of newly approved oncology drugs contribute to revision of package inserts in Japan? *Clin Transl Sci.* 2019 May 7. doi: 10.1111/cts.12644. [Epub ahead of print]. 2019 (査読有)

2-4

1. 馬場 勇太, 原田 浩史, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 村井 聰, 阿部 真麻, 藤原 峻, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 齋藤 文護, 中牧 剛: 多発性骨髄腫に対するVRD療法中に発症した抗利尿ホルモン不適合分泌症候群. *臨床血液* 59巻 11号 2423-2427. 2018(査読有)
2. Hattori N, Saito B, Sasaki Y, Shimada S, Murai S, Abe M, Baba Y, Watanuki M, Fujiwara S, Kawaguchi Y, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Harada H, Nakamaki T. Status of Natural Killer Cell Recovery in Day 21 Bone Marrow after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Predicts Clinical Outcome. *Biol Blood Marrow Transplant.* Sep;24(9):1841-1847.2018(査読有)
3. Madan V, Han L, Hattori N, Teoh WW, Mayakonda A, Sun QY, Ding LW, Binte Mohd Nordin H, Lim SL, Shyamsunder P, Dakle P, Sundaresan J, Doan NB, Sanada M, Sato-Otsubo A, Meggendorfer M, Yang H, Said JW, Ogawa S, Haferlach T, Liang DC, Shih LY, Nakamaki T, Wang QT, Koeffler HP. ASXL2 regulates hematopoiesis in mice and its deficiency promotes myeloid expansion. *Haematologica.* Aug 9. pii: haematol.2018.189928.2018(査読有)
4. Kawaguchi Y, Nakamaki T, Abe M, Baba Y, Murai S, Watanuki M, Arai N, Fujiwara S, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- Ariizumi H, Yanagisawa K, Hattori N, Harada H, Saito B. Association of Soluble Interleukin-2 Receptor and C-Reactive Protein with the Efficacy of Bendamustine Salvage Treatment for Indolent Lymphomas and Mantle Cell Lymphoma *Acta Haematol.* 2018;139(1):12-18.2018(査読有)
5. Baba Y, Saito B, Shimada S, Sasaki Y, Murai S, Abe M, Fujiwara S, Arai N, Kawaguchi Y, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Hattori N, Harada H, Nakamaki T. Association of red cell distribution width with clinical outcomes in myelodysplastic syndrome. *Leuk Res.* Apr;67:56-59.2018(査読有)
6. 岡本 奈央子, 本間 まゆみ, 南雲 佑, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 田澤 咲子, 塩沢 英輔, 矢持 淑子, 植 玄秀, 瀧本 雅文, 宇藤 唯, 服部 憲路, 中牧 剛, 山本 将平, 磯山 恵一:免疫性血小板減少性紫斑病(ITP)症例の骨髄組織におけるIL-17発現に関する免疫組織化学的検討.昭和学士会雑誌78巻2号 111-116.2018(査読有)
7. Kataoka K, Iwanaga M, Yasunaga JI, Nagata Y, Kitanaka A, Kameda T, Yoshimitsu M, Shiraishi Y, Sato-Otsubo A, Sanada M, Chiba K, Tanaka H, Ochi Y, Aoki K, Suzuki H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Sato Y, Yoshida K, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Shimoda K, Matsuoka M, Watanabe T, Ogawa S. Prognostic relevance of integrated genetic profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Blood.* Jan 11;131(2):215-225.2018(査読有)
8. Saito B, Nakashima H, Abe M, Murai S, Baba Y, Arai N, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Hattori N, Harada H, Nakamaki T. Efficacy of palonosetron to prevent delayed nausea and vomiting in non-Hodgkin's lymphoma patients undergoing repeated cycles of the CHOP regimen. *Support Care Cancer.* Jan;26(1):269-274.2018(査読有)
9. 塚本 裕之, 斎藤 文護, 阿部 真麻, 村井 聰, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 宇藤 唯, 服部 憲路, 柳澤 孝次, 中牧 剛:骨髄芽球の増加を伴う高リスク骨髄異形成症候群の患者におけるアザシチジン療法の予後予測因子.昭和学士会雑誌77巻2号 181-187.2017.(査読有)
10. Makishima H, Yoshizato T, Yoshida K, Sekeres MA, Radivoyevitch T, Suzuki H, Przychodzen B, Nagata Y, Meggendorfer M, Sanada M, Okuno Y, Hirsch C, Kuzmanovic T, Sato Y, Sato-Otsubo A, LaFramboise T, Hosono N, Shiraishi Y, Chiba K, Haferlach C, Kern W, Tanaka H, Shiozawa Y, Gómez-Seguí I, Husseinzadeh HD, Thota S, Guinta KM, Dienes B, Nakamaki T, Miyawaki S, Saunthararajah Y, Chiba S, Miyano S, Shih LY, Haferlach T, Ogawa S, Maciejewski JP. Dynamics of clonal evolution in myelodysplastic syndromes. *Nat Genet.* Feb;49(2):204-212.2017 (査読有)
11. Mori T, Nagata Y, Makishima H, Sanada M, Shiozawa Y, Kon A, Yoshizato T, Sato-Otsubo A, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Ishiyama K, Miyawaki S, Mori H, Nakamaki T, Kihara R, Kiyo H, H. Koeffler P, Shih LY, Miyano S, Naoe T, Haferlach C, Kern W, Haferlach T, Ogawa S, Yoshida K. Somatic PHF6 mutations in 1760 cases with various myeloid neoplasms. *Leukemia* Nov;30(11):2270-2273.2016(査読有)
12. Hattori N, Yamamoto K, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Yanagisawa K, Saito B, Nakamaki T. Early relapse of severe chronic active Epstein-Barr virus infection with posterior reversible encephalopathy syndrome after reduced intensity stem cell transplantation with umbilical cord blood. *Leuk Lymphoma* Oct;57(10):2448-51.2016(査読有)
13. Saito B, Hattori N, Yamamoto K, Arai N, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Nakamaki T. Umbilical cord blood transplantation for adults using tacrolimus with two-day very-short-term methotrexate for graft-versus-host disease prophylaxis. *Leuk Res.* 2016 Jun 16;47:161-165. 2016(査読有)
14. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga J, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S. Integrated molecular analysis of adult T cell leukemia/lymphoma. *Nat Genet.* Nov;47(11):1304-15. 2015 (査読有)
15. Tazawa S, Shiozawa E, Homma M, Arai N, Kabasawa N, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Okino K, Kobayashi K, Yamochi T, Tate G, Nakamaki T, Takimoto M. CD200 Expression on Plasma Cell Myeloma Cells is Associated with the Efficacies of Bortezomib, Lenalidomide and Thalidomide. *J Clin Exp Hematop.* 55巻3号 Page121-126. 2015.(査読有)
16. Uto Y, Fujiwara S, Arai N, Kawaguchi Y, Kabasawa N, Tsukamoto H, Ariizumi H, Hattori N, Saito B, Yanagisawa K, Harada H, Mori H, Shiozawa E, Nakamaki T. Age and Bone Marrow Cellularity are Associated with Response to Eltrombopag in Japanese Adult Immune Thrombocytopenia Patients: A Retrospective Single-Center Study. 臨床病理63巻5号 Page548-556, 2015 (査読有)
17. Ariizumi H, Saito B, Uto Y, Hattori N, Nakashima H, Yanagisawa K, Harada H, Mori H, Nakamaki T. Predictive role of levels of soluble interleukin-2 receptor and C-reactive protein in selecting autologous PBSC transplantation for lymphoma. *Bone Marrow Transplant.* Feb;50(2):301-303.2015 (査読有)
18. Sun H, Hattori N, Chien W, Sun Q, Sudo M, E-Ling GL, Ding L, Lim SL, Shacham S, Kauffman M, Nakamaki T, Koeffler HP. KPT-330 has antitumour activity against non-small cell lung cancer. *Br J Cancer.* Jul 15;111(2):281-291.2014 (査読有)
- 2-5
- *Kishimoto H, Noguchi K, Takaoka K: Novel insight into the management of bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw (BRONJ). *Japanese Dental Science Review*, in press (査読有)
 - 首藤敦史, 岸本裕充 : ARONJに対する歯科的対応 –特に感染病変を伴う歯の抜歯について–. 日本歯科評論, 79(4):101-8, 2019
 - *高岡一樹, 岸本裕充 : 進化する骨粗鬆症治療薬 国内患者1300万人のQOL向上へ 骨吸収抑制薬剤関連顆骨壊死 (ARONJ)の現状と今後の課題. 日本薬理学雑誌, 153(1):22-27,2019 (査読無)
 - 玉岡丈二, 岸本裕充: 骨粗鬆症治療の現状と展望 2019 骨粗鬆症における口腔管理. *Progress in Medicine*,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 39(1):57-60,2019 (査読無)
5. Hasegawa Y, Sakuramoto A, Sugita H, Hasegawa K, Horii N, Sawada T, Shimura K, Kishimoto H: Relationship between oral environment and frailty among older adults dwelling in a rural Japanese community: a cross-sectional observational study. *BMC Oral Health*, 19(1):23,2019 (査読有)
6. *岸本裕充：本邦における骨吸収抑制薬関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎の現況. 日本老年歯科医学会, 33(3):275-279,2019 (査読無)
7. 岸本裕充：地域包括医療におけるオーラルマネジメント的確なアセスメント的重要性. 日本歯科薬物療法学会, 37(3):141-145, 2019 (査読無)
8. *玉岡丈二, 高岡一樹, 岸本裕充：口腔インプラント医が知っておきたい骨粗鬆症・顎骨壊死の話題. 日本口腔インプラント学会誌, 32(1):28-30, 2019 (査読無)
9. Tamaoka J, Takaoka K, Hattori H, Ueta M, Maeda H, Yamamura M, Noguchi K, Kishimoto H : Osteonecrosis of the jaws caused by bisphosphonate treatment and oxidative stress in mice. *Exp Ther Med*, 17: 1440-1448, 2019 (査読有)
10. *Shudo A, Kishimoto H, Takaoka K, Noguchi K: Long-term oral bisphosphonates delay healing after tooth extraction: a single institutional prospective study. *Osteoporos Int*, 29(10): 2315-2321, 2018 (査読有)
11. 上田美帆, 岸本裕充：周術期のオーラルマネジメント. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 27(10):948-954,2018 (査読無)
12. *Shibahara T, Morikawa T, Yago K, Kishimoto H, Imai Y, Kurita K: National Survey on Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaws in Japan. *J Oral Maxillofac Surg*, 76(10):2105-2112, 2018 (査読有)
13. 杉田英之, 岸本裕充：骨粗鬆症患者に対する口腔管理の重要性. 日本骨粗鬆症学会雑誌, 4(2):129-132,2018 (査読無)
14. 岸本裕充：ARONJ 患者への対応 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死. 日本歯科医師会雑誌, 71(1):19-22,2018 (査読無)
15. Tamaki K, Kusunoki H, Tsuji S, Wada Y, Nagai K, Itoh M, Sano K, Amano M, Maeda H, Hasegawa Y, Kishimoto H, Shimomura S, Shinmura K: The relationship between dietary habits and frailty in rural Japanese community-dwelling older adults: Cross-sectional observation study using a brief self-administered dietary history questionnaire. *Nutrients*, 14(10):12,2018 (査読有)
16. Sakuramoto A, Hasegawa Y, Sugahara K, Komoda Y, Hasegawa K, Hikasa S, Kurashita M, Sakai J, Arita M, Yasukawa K, Kishimoto H: New paste for severe stomatitis in patients undergoing head-and-neck cancer radiotherapy and/or chemotherapy with oral appliance. *BMC Cancer*, 18(1):245, 2018 (査読有)
17. 長谷川陽子, 堀井宣秀, 櫻本亜弓, 杉田英之, 小野高裕, 澤田 隆, 永井宏達, 新村 健, 岸本裕充：丹波圏域在住高齢者における転倒リスクと口腔機能との関連性. 老年歯科医学, 32(4): 468-476, 2018 (査読無)
18. Hasegawa Y, Tachibana Y, Ono T, Kishimoto H. Flavour-enhanced cortisol release during gum chewing. *PLoS One*, 12(4):e0173475, 2017 (査読有)
19. Zushi Y, Takaoka K, Tamaoka J, Ueta M, Noguchi K, Kishimoto H: Treatment with teriparatide for advanced bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw around dental implants: a case report. *Int J Implant Dent*, 3(1):11, 2017 (査読有)
20. Hasegawa Y, Kakimoto N, Tomita S, Fujiwara M, Ishikura R, Kishimoto H, Honda K: Evaluation of the role of splint therapy in the treatment of temporomandibular joint pain on the basis of MRI evidence of altered disc position. *J Craniomaxillofac Surg*, 45(4), 455-460, 2017 (査読有)
21. Hasegawa Y, Sugahara K, Fukuoka T, Saito S, Sakuramoto A, Horii N, Sano S, Hasegawa K, Nakao Y, Nanto T, Kadoi K, Moridera K, Noguchi K, Domen K, Kishimoto H: Change in tongue pressure in patients with head and neck cancer after surgical resection. *Odontology*, 105(4):494-503, 2017 (査読有)
22. Noguchi K, Wakai K, Kiyono T, Kawabe M, Yoshikawa K, Hashimoto-Tamaoki T, Kishimoto H, Nakano Y: Molecular analysis of keratocystic odontogenic tumor cell lines derived from sporadic and basal cell nevus syndrome patients. *Int J Oncol*, 51(6):1731-1738, 2017 (査読有)
23. 中村祐己, 岸本裕充：チーム医療による周術期の口腔機能管理の実際. *Modern Physician*, 37(9):995-998, 2017 (査読無)
24. 岸本裕充：口腔の病原体と口腔環境のアセスメントー感染対策としての日常のモニタリングポイント. 感染対策ICT ジャーナル, 12(2):153-158,2017 (査読無)
25. 岸本裕充：高齢者肺炎予防・治療のためのオーラルマネジメント 口腔衛生だけでなく咀嚼・嚥下機能を高める. *medicina*, 54(1), 102-105, 2017 (査読無)
26. 岸本裕充：周術期オーラルマネジメントの実際. 日本口腔外科学会雑誌, 63(1), 9-14, 2017 (査読無)
27. 岸本裕充：医科と歯科の連携 MRONJ 対応の最近の動向 薬剤関連顎骨壊死への対応の最近の動向. 日本骨粗鬆症学会雑誌, 3(3):331-334,2017 (査読無)
28. 岸本裕充, 小島 蘭: 術前からの口腔ケア・オーラルマネジメントはとても重要. 繙続看護時代の外来看護, 22(1), 69-76, 2017 (査読無)
29. 岸本裕充, 高岡一樹:骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の最新情報. 日本口腔インプラント学会誌, 30(3):191-199,2017 (査読無)
30. 岸本裕充, 高岡一樹:骨吸収抑制薬関連顎骨壊死のポジションペーパー2016の解説. 日本歯科先端技術研究所学術会誌, 23(3):161-170, 2017 (査読無)
31. 吉川恭平, 岸本裕充：周術期患者のオーラルマネジメント. *Clinical Calcium*, 27(10):1403-1407, 2017 (査読無)
32. Yasuda E, Honda K, Hasegawa Y, Matsumura E, Fujiwara M, Hasegawa M, Kishimoto H. Prevalence of temporomandibular disorders among junior high school students who play wind instruments. *Int J Occup Med Environ Health*, 29(1), 69-76, 2016 (査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

33. 岸本裕充：骨吸収抑制薬関連顆骨壊死への適切な対応を ポジションペーパーの改訂. 日本歯科評論, 76(12), 14-15, 2016 (査読無)
34. 岸本裕充, 坂本春生, 金子明寛：術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 歯科口腔外科領域. 日本口腔感染症学会雑誌, 23(1), 2-4, 2016 (査読無)
35. 岸本裕充：術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 日本歯科評論, 76(6), 14-15, 2016 (査読無)
36. 川邊睦記, 岸本裕充: 予防抗菌薬の使い方を再考しよう！術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 歯界展望, 127(5), 830-832, 2016 (査読無)
37. 竹末芳生, 岸本裕充, 久保正二, 坂本春生, 鈴木 崇, 高橋佳子, 橋本昌樹, 保富宗城, 松下和彦, 三鴨廣繁, 山田 浩司, 山本新吾, 柚木靖弘, 真弓俊彦, 岡 正朗, 北川雄光, 小西敏郎, 福島亮治, 尾原秀明, 小林美奈子, 武田 茂; 日本化学療法学会, 日本外科感染症学会術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会: 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 日本外科感染症学会雑誌, 13(2), 79-158, 2016. 日本化学療法学会雑誌, 64(2), 153-232, 2016 (査読有)
38. *岸本裕充, 長谷川陽子, 高岡一樹, 野口一馬: 食べられる口を CREATE するためのオーラルマネジメント. 日本静脈経腸栄養学会雑誌, 31, 687-692, 2016 (査読無)
39. 岸本裕充: がん患者のオーラルマネジメントで看護師ができること・すべきこと. がん看護, 21, 311-313, 2016 (査読無)
40. 岸本裕充, 松尾浩一郎: オーラルマネジメントCREATE の各構成要素におけるポイント. がん看護, 21, 314-319, 2016 (査読無)
41. 岸本裕充: がん看護における「周術期口腔機能管理料」の活用. がん看護, 21, 320-321, 2016 (査読無)
42. 岸本裕充: ICU での口腔ケアを見直そう VAP 予防のために. 日本口腔ケア学会雑誌, 10(1), 12-15, 2016 (査読無)
43. 岸本裕充: 周術期口腔機能管理による合併症予防のポイント. 日本口腔ケア学会雑誌, 10(1), 56-58, 2016 (査読無)
44. 川邊睦記, 岸本裕充: 有病高齢者のチエアーサイドエッセンス 悪性腫瘍(周術期のオーラルマネジメント). DENTAL DIAMOND, 41(5), 258-259, 2016 (査読無)
45. 岸本裕充: インプラント治療に役立つ口腔外科領域の話題 ～薬剤関連顆骨壊死も含めて～. Osaka Academy of Oral Implantology, 30, 14-23, 2016 (査読無)
46. Takaoka K, Yamamura M, Nishioka T, Abe T, Tamaoka J, Segawa E, Shinohara M, Ueda H, Kishimoto H, Urade M. Establishment of an Animal Model of Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaws in Spontaneously Diabetic Torii Rats. *PLoS One*, 10(12):e0144355, 2015 (査読有)
47. Takaoka K, Segawa E, Yamamura M, Zushi Y, Urade M, Kishimoto H. Dental implant treatment in a young woman after marginal mandibulectomy for treatment of mandibular gingival carcinoma: a case report. *Int J Implant Dent.* 1(1):20. Epub 2015 Aug 4.
48. Zushi Y, Noguchi K, Moridera K, Takaoka K, Kishimoto H. Osteonecrosis of the jaw in an AIDS patient: a case report. *AIDS Res Ther.* 12:13. doi: 10.1186/s12981-015-0049-8. eCollection 2015 (査読有)
49. Yoshikawa K, Noguchi K, Nakano Y, Yamamura M, Takaoka K, Hashimoto-Tamaoki T, Kishimoto H. The Hippo pathway transcriptional co-activator, YAP, confers resistance to cisplatin in human oral squamous cell carcinoma. *Int J Oncol.* 46(6): 2364-2370, 2015 (査読有)
50. Yamanegi K, Kawabe M, Futani H, Nishiura H, Yamada N, Kato-Kogoe N, Kishimoto H, Yoshiya S, Nakasho K. Sodium valproate, a histone deacetylase inhibitor, modulates the vascular endothelial growth inhibitor-mediated cell death in human osteosarcoma and vascular endothelial cells. *Int J Oncol.* 46(5):1994-2002, 2015 (査読有)
51. 櫻本亜弓, 櫻本祐子, 岸本裕充: 「食べられるお口」を保って防ごう!誤嚥性肺炎の最新知識. 歯科衛生士, 39(9), 45-56, 2015 (査読無)
52. 首藤敦史, 岸本裕充: 顆骨壊死とその対策. *Journal of osteoporotic medicine*, 14(2), 121-126, 2015 (査読無)
53. *首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平: 兵庫県病院歯科における薬剤関連顆骨壊死の多施設共同調査報告. 日本口腔感染症学会雑誌, 22(1), 5-11, 2015 (査読有)
54. 首藤敦史, 岸本裕充: 薬剤関連顆骨壊死(MRONJ)における最新の動向と対策. *The Quintessence*, 34(5), 80-90, 2015 (査読無)
55. *岸本裕充: ICU で経口気管挿管中の患者に対する口腔ケア. *人工呼吸*, 32(1), 37-43, 2015 (査読無)
56. 岸本裕充, 山村倫世: 急性期からのオーラルマネージメント(口腔ケア) 嘴下における咬合の重要性も含めて. 総合リハビリテーション, 43(2), 115-120, 2015 (査読無)
57. 岸本裕充: 長期人工呼吸管理へのかかわり 歯科衛生士の役割. *Clinical Engineering*, 26(2), 134-136, 2015 (査読無)
58. Kawabe M, Ohyama H, Kato-Kogoe N, Yamada N, Yamanegi K, Nishiura H, Hirano H, Kishimoto H, Nakasho K. Expression of interleukin-34 and colony stimulating factor-1 in the stimulated periodontal ligament cells with tumor necrosis factor- α . *Med Mol Morphol*. 48(3):169-176. doi: 10.1007/s00795-014-0094-8. Epub 2014 Dec 30 (査読有)
59. *岸本裕充: 手術後合併症を低減するための周術期のオーラルマネジメント. 歯科薬物療法, 33(3), 143-148, 2014 (査読無)
60. 岸本裕充, 門井謙典: 周術期口腔機能管理で術後肺炎を防ぐ！～「細菌カウンタ」と「デンタルアイ S」の活用～. *Dental Friends*, 12:4-6, 2014 (査読無)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

61. 岸本裕充, 吉川恭平: 人工呼吸に付随する管理 口腔ケア. 救急・集中治療, 26(9-10), 1314-1319, 2014 (査読無)
62. 藤原正識, 森寺邦康, 岸本裕充: 開業医も医科歯科連携の一員! 「周術期口腔機能管理」に歯科衛生士は不可欠! 歯科衛生士, 38(8), 94-103, 2014 (査読無)
63. 岸本裕充: 口腔ケア・オーラルマネジメントによるバイオフィルム対策. 日本外科感染症学会雑誌, 11(6), 649-658, 2014 (査読無)
64. *岸本裕充: 口腔のケア ケアの要は「歯垢の除去」だけでなく「汚染物の回収」. Intensivist, 6(2), 171-179, 2014 (査読無)
65. 岸本裕充: インプラント治療における医療安全管理: 高齢者に対する薬剤の投与を中心に. 日本口腔インプラント学会雑誌, 27(4), 499-505, 2014 (査読有)
66. 岸本裕充: がん医療における口腔ケア・オーラルマネジメント. New Diet Therapy, 30(1), 27-29, 2014 (査読無)
67. 木崎久美子, 岸本裕充, 木村政義, 富加見教男, 西 信一; 呼吸サポートチーム対象患者における口腔症状の年次推移. 人工呼吸, 31(1), 60-64, 2014 (査読有)
68. *首藤敦史, 岸本裕充: 薬剤誘発性顎骨骨髄炎の注意点と対処法. medicina, 51(8), 1556-1561, 2014 (査読無)
69. 岸本裕充: がん医療におけるオーラルマネジメント 合併症を予防し、治療成績・QOL の向上を目指す. 兵庫医科大学医学雑誌, 39(1), 25-29, 2014 (査読無)
- 2-6
- Ikeya K, Iwasa F, Inoue Y, Fukunishi M, Takahashi N, Ishihara K, Baba K. Inhibition of denture plaque deposition on complete dentures by 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine polymer coating: A clinical study. J Prosthet Dent. Jan;119(1):67-74 2018 (査読有)
 - Fukunishi M, Inoue Y, Morisaki H, Kuwata H, Ishihara K, Baba K. A Polymethyl Methacrylate-Based Acrylic Dental Resin Surface Bound with a Photoreactive Polymer Inhibits Accumulation of Bacterial Plaque. Int J Prosthodont. ;30(6):533-540 2017 (査読有)
 - Hoashi Y, Okamoto S, Abe Y, Matsumoto T, Tanaka J, Yoshida Y, Imaizumi K, Mishima K, Akamatsu W, Okano H, Baba K. Generation of neural cells using iPSCs from sleep bruxism patients with 5-HT2A polymorphism. J Prosthodont Res, 61(3):242-250, 2016 (査読有)
 - Ikeya K, Fukunishi M, Iwasa F, Inoue Y, Ishihara K, Baba K. 2-Methacryloyloxyethyl phosphorylcholine polymer treatment of complete dentures to inhibit denture plaque deposition. J Vis Exp, 118: 2016(査読有)
 - Takahashi N, Iwasa F, Inoue Y, Morisaki H, Ishihara K, Baba K. Evaluation of the durability and antiadhesive action of 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine grafting on an acrylic resin denture base material. J Prosthet Dent. Aug;112(2):194-203 2014(査読有)
- 2-7
- Yamaguchi T, Hosomichi K, Yano K, Kim YI, Nakaoka H, Kimura R, Otsuka H, Nonaka N, Haga S, Takahashi M, Shirota T, Kikkawa Y, Yamada A, Kamijo R, Park SB, Nakamura M, Maki K, Inoue I. Comprehensive genetic exploration of selective tooth agenesis of mandibular incisors by exome sequencing. Human Genome Variation, 4: 17005, 2017(査読有)
 - Maki K, Futaki K, Tanabe S, Takahashi M, Ichikawa Y, Yamaguchi T. A New Self-Ligating Bracket with Multiple Slots. Int J Dent, 2016:4348325, 2016 (査読有)
 - *古谷亮子, 木村仁, 山口徹太郎, 伊能教夫, 横宏太郎: 電動スライダーによるボタンプル計測と顎顔面形態との関係. 東京矯歯誌, 25 : 34-38, 2015 (査読無)
 - *Furuya R, Kimura H, Yamaguchi T, Inou N, Maki K. Relation between the Mandibular Symphysis Examined by Cone-beam Computed Tomography and Lip Pressure Examined with The Button-pull Technique. Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery, 27-2 : 99-102, 2015(査読有)
 - Ichikawa Y, Watahiki J, Nampo T, Nose K, Yamamoto G, Irie T, Mishima K, Maki K. Differences in the developmental origins of the periosteum may influence bone healing. J Periodontal Res, 50(4):468-78, 2015(査読有)
- 2-8
- Watanabe E, Yamagata Y, Fujitani J, Fujishima I, Takahashi, K, Uyama R, Ogoshi,H, Kojo A, Maeda H, Ueda K, Kayashita J. The Criteria of Thickened Liquid for Dysphagia Management in Japan. Dysphagia 33(1) : 26-32,2018 (査読有)
 - 小泉 雄, 佐々木 徹, 米川 博之, 福島 啓文, 新橋 渉, 濑戸 陽, 神山 亮介, 白尾 浩太郎, 日高 竜太, 市川 千恭, 永井 遼斗, 福田 幸太, 森田 琢磨, 江原 雄一, 尾股 丈, 渡嘉敷 邦彦, 鳥居 淳一, 山村 晃司, 川端 一嘉, 富塚 健, 川名 加織, 豊田 生子, 高橋 浩二, 三谷 浩樹: 頭頸部がん患者に対する嚥下リハビリテーションチームの活動—がん研有明病院でのチーム医療の取り組みー. 頭頸部癌, 44(3) : 269-275, 2018 (査読有)
 - 宇山理沙, 藤谷順子, 大越ひろ, 栢下淳, 前田広志, 小城明子, 高橋浩二, 藤島一郎: とろみ液の官能評価による分類—粘度およびLine Spread Test値の範囲設定—. 日摂食嚥下リハ会誌, 18 : 13-21, 2014 (査読有)
 - 武原 格, 山本弘子, 高橋浩二, 弘中祥司, 勝又明敏, 二藤隆春, 小山珠美, 藤原百合, 藤島一郎, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会: 訓練のまとめ (2014版) . 日摂食嚥下リハ会誌, 18 : 55-89, 2014 (査読無)
 - 二藤隆春, 勝又明敏, 小山珠美, 高橋浩二, 武原 格, 弘中祥司, 藤原百合, 山本弘子, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会: 嚥下造影の検査法 (詳細版) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会 2014 年度版. 日摂食嚥下リハ会誌, 18 : 166-186, 2014 (査読無)

<図書>

《プロジェクト 1》

1-3

- 大塚裕忠, 中村雅典: 新規造血構造の機能形態学的特性. 細胞 49 (4), 47-51, 2017.

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2. 近藤信太郎, 中村雅典, 松野昌展:歯の解剖学<第2版> わかば出版 2016.
3. 近藤信太郎, 中村雅典, 松野昌展:歯の解剖学 わかば出版 2014.
4. 磯川桂太郎, 稲井哲一朗, 中村雅典, 山本仁, 渡邊弘樹:組織学・口腔組織学<第4版> わかば出版 2014.
- 1-4
1. 井上富雄(分担執筆):ザ・ペリオドントロジー第3版(沼部幸博、梅田誠、齋藤淳、山本松男編), 永末書店, 京都, 9-11頁, 2019
2. 井上富雄:顎口腔系の基礎; 新編 顎関節症(日本顎関節学会編), 永末書店, 京都, 37-41頁, 2018
3. 井上富雄, 中村史朗(分担執筆):筋電図法の基礎; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 2-5頁, 2017
4. 井上富雄, 中村史朗(分担執筆):咀嚼の意義と効用; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 123-125頁, 2017
5. 井上富雄(分担執筆):咀嚼と脳; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 129-134頁, 2017
6. 井上富雄:動物を用いた咀嚼運動研究法; 顎口腔機能の検査・分析 -基礎と実践-, 日本 顎口腔機能学会, 鳴門市, 30-43頁, 2015
7. 井上富雄:咀嚼の神経機構, BRAIN and NERVE, 67(2) 141-156, 医学書院 2015
8. 井上富雄(分担執筆):歯周組織の生理学;ザ・ペリオドントロジー第2版(和泉雄一, 木下淳博, 沼部幸博, 山本松男編), 永末書店, 東京, 9-13頁, 2014
9. 井上富雄(分担執筆):19章咀嚼;基礎歯科生理学 第6版(森本俊文他編), 医歯薬出版, 東京, 328-345頁, 2014
- 1-6
1. 上條竜太郎:歯周疾患の成り立ちと歯周組織の再生: 口腔生化学第6版, 2017
2. 上條竜太郎: リサーチマインド教育: 日本歯科医学教育学会誌別冊, p49-54, 2016.
- 1-7
1. 高見正道: 解る!歯科薬理学 第3版 第1章 総論, 第14章 毒物と解毒薬. (安藤・高橋・高見・二藤編). 東京: 学健書院; 2019. pp49-52, pp247-251.
2. 高見正道 (共著)『ファーマナビゲーター 抗RANKL抗体編』 Chapter 1 RANKL/RANK/OPGの構造・機能相関 (メディカルレビュー社) 2016年
3. 高見正道 (共著)『骨疾患キーワード事典』 第2部 骨軟骨の機能と制御, 4章 破骨細胞の分化と機能, 3. TRAF6, 11. IRF8 (羊土社) 2015年
- 《プロジェクト2》
- 2-1
1. 弘中祥司:特集:超高齢社会における8020-病棟での歯科医師・歯科衛生士のサポートが退院を早める~昭和大学口腔ケアセンターの取り組み~公益財団法人8020推進財団会誌 8020 No.16, 68-72, 公益財団法人8020推進財団, 東京, 2017.
2. 弘中祥司:歯・口腔疾患患者の看護-第3章 主な検査と治療に伴う看護-④口腔ケア
【新体系 看護学全書 成人看護学⑩ 耳鼻咽喉 歯・口腔】第3版,p458-469,メヂカルフレンド社,東京,2016.
- 2-2
1. 角保徳:認知症医療の現状と非薬物療法としての化粧・整容療法 FRAGRANCE JOURNAL 臨時増刊 №22, p52-57 2019年 フレグランスジャーナル社
2. 角保徳:認知症患者に歯科としてどうかかわるか⑤歯科からの提案-非薬物療法としての化粧・整容療法 全国保険医新聞 2018.10.25
3. 角保徳:認知症患者に歯科としてどうかかわるか④薬物療法の限界 全国保険医新聞 2018.10.15
4. 角保徳:認知症患者に歯科としてどうかかわるか③認知症の早期発見・早期治療を考える 全国保険医新聞 2018.10.05
5. 角保徳:認知症患者に歯科としてどうかかわるか②認知症患者の口腔管理 全国保険医新聞 2018.09.25
6. 角保徳:認知症患者に歯科としてどうかかわるか① 全国保険医新聞 2018.09.15
7. 角保徳:高齢者に多い歯科・口腔疾患 老年医学(下)-基礎・臨床研究の最新動向-. 76(7). 216-219. 日本臨牀 2018.08
8. 大野友久, 守谷恵未, 角保徳:高齢者の口腔ケア monthly book ENTOMI No.221. 52-59. 2018
9. 角保徳:口腔乾燥症の方が快適に使える新しい義歯安定剤「ピタッと快適ジェル」 日本歯科評論 No.909 Vol.78(7) 132-133.2018
10. 大野友久, 守谷恵未, 角保徳:【高齢者医療ハンドブック-高齢者医療におけるダイバーシティへの対応】(第1章) 高齢者の特性を理解する~生理機能の加齢変化~ 口腔機能. 内科 121(4) p615-619 2018.4
11. 守谷恵未, 角保徳:口腔ケア時の誤嚥予防のマストアイテム. DHstyle. 12(1):22-23. 2018.01
12. 西澤有生, 角保徳:サホライド®を利用した残根処理の検討 Modern Physician 37(9):980-981, 2017
13. 浪花沙輝, 角保徳:化粧(整容)療法と口腔外マッサージの実際 Modern Physician 37(9):964-966, 2017
14. 守谷恵未, 角保徳:誤嚥を予防する水を使わない口腔ケア Modern Physician 37(9):945-948, 2017
15. 角保徳:5分でできる普及型口腔ケアシステム Modern Physician 37(9):941-943, 2017
16. 角保徳:要介護高齢者の口腔ケアの分類と普及 Modern Physician 37(9):939-940, 2017

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

17. 角 保徳 : 知ってほしい口腔の知識と口腔ケア Modern Physician 37(9):925-931, 2017
 18. 角 保徳 : 高齢者の口腔ケア (巻頭言) Modern Physician 37(9):923-924, 2017
 19. 角 保徳 : がん治療に伴う口腔粘膜炎への局所処方 Modern Physician 38(8):893, 2018
 20. 角 保徳 : 口腔衛生の意義と方法 MEDICAL REHABILITATION №212:157-162,2017 全日本病院出版
 21. 守谷恵未, 角 保徳 : 口腔ケア時の誤嚥予防を考慮した「水を使わない口腔ケア」. 臨床栄養. 130(2):224-226.2017.2
 22. 角 保徳 : 超高齢社会の歯科医療を展望する 歯科学研究所インプラント部会雑誌 1:8-11,2017
 23. 角 保徳 : 高齢者に対する化粧・整容療法のシステム開発 一般財団法人日本美容福祉学会誌 16:30-31,2016
 24. 角 保徳 : 『私の道具箱「お口を洗うジェル』』 ザ・クインテッセンス 35(7):126, 2016
 25. 角 保徳 : 口腔ケア時の誤嚥予防の為の「水を使わない口腔ケア」の開発 昭和学士会雑誌 76(3):401,2016
 26. 守谷 恵未, 山田 広子, 岩田 実緒, 大野 友久, 角 保徳 : 歯科医師、歯科衛生士による周術期の口腔管理 臨床麻醉 40(3):485-492, 2016
 27. 角 保徳 : 『特集 新しい診断装置 OCT で歯科臨床は変わるか 「歯科用 OCT の研究開発』』 日本歯科理工学会誌 34(6):421-424, 2015
 28. 藤田 恵未, 岩田 実緒, 角 保徳 : 「私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編⑥<最終回> 歯科衛生士のチームアプローチ』 デンタルハイジーン 35(10):1112-1115, 2015
 29. 角 保徳 : 超高齢社会の到来と歯科医療—歯科衛生士の役割の変化— 日本歯科衛生学会雑誌 10(1):25-33, 2015
 30. 角 保徳 : 「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア 日本歯科評論 75(9):81-84, 2015
 31. 平識善大, 藤田恵未, 角 保徳 私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編⑤ 周術期口腔機能管理~その2 化学療法症例 デンタルハイジーン 35(9):1006-1009, 2015
 32. 平識善大, 山田広子, 角 保徳 : 私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編④ 周術期口腔機能管理~その1 全身麻酔下手術症例 デンタルハイジーン 35(8):886-889, 2015
 33. 藤田恵未, 平識善大 角 保徳 : 私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編③ 認知症の患者さんに対する口腔ケア デンタルハイジーン 35(7):774-777, 2015
 34. 永長周一郎, 品川 隆, 園井 教裕, 八重田 淳, 角 保徳 : オーラルマネジメント(それぞれの立場からの発言) 病院歯科の立場より 看護師に期待される役割から連携を考える 日本口腔感染症学会雑誌 22(1):26-28, 2015
 35. 角 保徳 , 守谷恵未, 大野友久 : 口腔ケア 高齢者の感染症とその対策 p 89-97 2018 年 公益財団法人長寿科学振興財団
 36. 鳥羽研二, 佐々木英忠, 荒井啓行, 秋下雅弘, 海老原覚, 角 保徳 : 高齢者の口腔ケアの実際 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 p262-264 2018.1.15 医学書院
 37. 角 保徳 : 口腔外ケア (編集主幹 佐藤裕二, 植田耕一郎, 菊谷武) よくわかる高齢者歯科学 p166 2018 年 永末書店
 38. 角 保徳 編著, 大野友久, 守谷恵未 著 : 超高齢社会のための『専門的口腔ケア』要介護・有病者・周術期・認知症への対応 2017 年 医歯薬出版
- 2-4
- 中牧 剛 : 遺伝性ヘモクロマトーシスの発端は? 生存に有利な要素があつたためか: 日本医事新報 4853 号 Page61-62(2017.04)
 - 中牧 剛 : 白血病の現状と展望-その分子標的治療時代- 急性骨髓性白血病の現状と展望: CefiroAutumn 2016 No.24 5-12
 - 中牧 剛 : アセスメントに役立つ! 検査値ガイド(分担執筆): 検査値ガイド 総合医学者
 - 中牧 剛 : 薬品による重篤副作用への対処法と救済制度】薬剤による血液障害 無顆粒球症と血小板減少症を中心として: 昭和学士会雑誌 75 卷 4 号 Page407-413(2015.08)
 - 中牧 剛, 前田 崇 : 【鉄代謝制御機構と鉄過剰症】 鉄代謝異常をきたす遺伝性疾患: 血液内科 70 卷 3 号 Page321-330(2015.03)
 - 中牧 剛 : 私のこの一枚 Microgranular APL と白血病幹細胞: 血液フロンティア 24 卷 11 号 Page1581-1586(2014.10)
 - 中牧 剛 : 中枢神経系の悪性リンパ腫: 治療 update : BRAIN and NERVE 66 卷 8 号 P969-979
 - 中牧 剛 : 特集 貧血-成因・診断・治療- 鉄欠乏性貧血と症候性貧血 : Cefiro Spring 2014 No.19 P7-13
- 2-5
- 岸本裕充, 中村祐己 : 周術期の口腔機能管理. 患者さんのエイジングに備える 高齢者への歯周治療と口腔管理, インターアクション株式会社, 2018 年, pp167-170.
 - 岸本裕充 : 薬剤関連顆骨壊死 (MRONJ). 新訂版 知りたいことがわかる高齢者歯科医療 —歯科医療につながる医学知識— (小谷順一郎, 砂田勝久 編), 永末書店, 2017 年, pp76-79.
 - 岸本裕充 : 歯科疾患が原因・誘因とされる全身疾患. 口の中がわかる ビジュアル歯科口腔科学講本, クインテッセンス出版, 2017 年, pp 170-171
 - 岸本裕充: 有熱患者の口腔ケア. 改訂版 口腔ケア基礎知識(日本口腔ケア学会 編), 永末書店, 2017 年, pp197-200
 - 岸本裕充: 口腔カンジダ症. 患者を支える がん患者の口腔ケア (日本口腔ケア学会 学術委員会 編), 医学書院, 2017 年, pp81-87
 - 岸本裕充: 終末期の口腔ケア・オーラルマネジメント-口腔ケアだけでなく, 的確な評価, 歯科治療も重要. スーパー総合医 緩和医療・終末期ケア (長尾和宏 編), 中山書店, 2017 年, pp217-221
 - 岸本裕充: 唾液腺炎, 唾液分泌障害. 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第 2 版, 医学書院,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2016年, pp175-177

8. 岸本裕充:多職種連携における歯科衛生士の役割. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル -高齢者編 (日本歯科衛生士会 監修), 医歯薬出版, 2016年, pp162-165
 9. 岸本裕充:認知症患者の口腔ケアのポイントは? 神経内科 Clinical Questions & Pearls 認知症 (高尾昌樹 編), 中外医学社, 2016年, pp303-308
 10. 岸本裕充:MRONJ (薬剤関連顎骨壊死) の概要と, わが国の現状. 薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 MRONJ・BRONJ 最新 米国口腔顎顔面外科学会と本邦の予防・診断・治療の指針 (柴原孝彦, 岸本裕充, 矢郷 香, 野村武史 著), クインテッセンス出版, 2016年, pp9-14
 11. 岸本裕充:MRONJに関する論点とは? 薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 MRONJ・BRONJ 最新 米国口腔顎顔面外科学会と本邦の予防・診断・治療の指針 (柴原孝彦, 岸本裕充, 矢郷 香, 野村武史 著), クインテッセンス出版, 2016年, pp43-55
 12. 首藤敦史, 岸本裕充:薬剤関連顎骨壊死(MRONJ). 薬'17/18 歯科 疾患名から治療薬と処方例がすぐわかる本 (朝波惣一郎, 王 宝禮, 矢郷 香 編), クインテッセンス出版, 2016年, pp54-55
 13. 岸本裕充:心臓手術を受ける患者への口腔ケア (周術期のオーラルマネジメント) のポイントとは. 多職種協働チーム先制医療での口腔ケア FAQ50 (鴨井久一, 菊谷 武 監修), 一世出版, 2016年, pp122-123
 14. 岸本裕充, 長谷川陽子:亜急性期とはどのような症状・病態ですか? 亜急性期での対応は急性期と違いがありますか? 続5疾病の口腔ケア プロフェッショナルな実践のための Q&A55, 医歯薬出版, 2016年, pp102-104
 15. 岸本裕充:患者の選択, 注意を要する全身疾患・薬剤. 本音を教えて! GPが知りたいインプラント外科 Q&A67, 医歯薬出版, 2015年, pp1-27
 16. 岸本裕充, 浦出雅裕:インフェクションコントロールの実際. 一般臨床家 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'15, クインテッセンス出版, 2015年, pp105-114
 17. 川邊睦記, 岸本裕充:慢性合併症・併存疾患 歯周病. 糖尿病に強くなる! 療養指導のエキスパートを目指して, 医学書院, 2015年, pp187-189
 18. 門井謙典, 岸本裕充:急性期病院 (災害拠点病院を含む) における災害時の口腔ケアの工夫. 災害時の歯科保健医療対策, 一世出版, 2015年, pp146-149
 19. 首藤敦史, 岸本裕充:抗がん剤治療中の口腔管理 -歯科口腔外科の役割-. 抗がん剤の副作用と支持療法 より適切な抗がん剤の安全使用をめざして, 日本臨牀社, 2015年, pp673-677
 20. 岸本裕充:急性期から慢性期への連携. 健康寿命の延伸をめざした口腔機能への気づきと支援 ライフステージごとの機能を守り育てる, 医歯薬出版, 2014年, pp191-194
 21. 岸本裕充:舌苔を「全部一気に取ろうとしない」, イソジン“だけ”では口腔ケアを「十分にできない」, 気管チューブ挿管患者の口腔ケア時に「必ずしもカフ圧を上げなくてもよい」. 今はこうする! 看護ケア, 照林社, 2014年, pp29-31
 22. 野口一馬, 岸本裕充:高齢者のインプラント治療前に知っておきたい、咀嚼障害につながる疾患「がん」. 65歳以上の患者へのインプラント治療・管理ガイド -要介護になつても対応できるために, ヒヨーロン, 2014年, pp66-72
- 2-6
1. 馬場一美 :1序論 A部分的な歯の欠損 B部分的な歯の欠損の治療 C部分的な歯の欠損の治療の意義 Dパーキャルデンチャーの特徴 Eパーキャルデンチャーの為害作用 スタンダードパーキャルデンチャー補綴学 1-12,2016
 2. 馬場一美 :2歯の欠損に由来する顎口腔系の変化 C歯の欠損による一次性障害 D歯の欠損による二次性障害 E歯の欠損による三次性障害 スタンダードパーキャルデンチャー補綴学 21-29,2016
 3. 馬場一美 :9診察, 検査, 診断とインフォームドコンセント A診察および検査 B診断 スタンダードパーキャルデンチャー補綴学 99-109,2016
 4. 馬場一美 :15人工歯配列と蠟義歯 Aパーキャルデンチャーの人工歯配列と咬合 スタンダードパーキャルデンチャー補綴学 175,2016
 5. 馬場一美 :その他の義歯 Aオーバーデンチャー スタンダードパーキャルデンチャー補綴学 215,2016
 6. 馬場一美, 近藤尚知, 千葉豊和 :インプラント, デンチャーのデジタルデンティストリー:補綴臨床 50(1)7-18, 2017
 7. 田中晋平, 馬場一美 :無歯顎患者におけるデジタル・デンティストリー-ボーンアンカードブリッジとインプラント・オーバーデンチャー症例から-:日本補綴歯科学会誌 8(4)414-419,2016
 8. 西山弘崇, 安部友佳, 馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 デンチャーが原因の粘膜疾患って?: DHstyle 10(10)132-133,2016
 9. 西山弘崇, 安部友佳, 馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 パーキャルデンチャーの違和感や話にくさは、どのくらいで慣れる?: DHstyle 10(10)126-127,2016
 10. 福西美弥, 安部友佳, 馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 パーキャルデンチャーが痛い、噛めないとと言われたらどうする?: DHstyle 10(10)124-125,2016
 11. 福西美弥, 安部友佳, 馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 義歯安定剤はどう選んで使うの? そもそも使ってよいの?: DHstyle 10(10)122-123,2016
 12. 池谷賢二, 安部友佳, 馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 パーキャルデンチャー用義歯洗浄剤は歯科専売と市販でどう違うの?: DHstyle 10(10)118-119,2016

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

13. 池谷賢二, 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 自宅でのパーシャルデンチャーのケア方法って?: DHstyle 10(10)116-117,2016
14. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー パーシャルデンチャーはインプラントと併用できるの?: DHstyle 10(10)32-33,2016
15. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー 保険と自費のパーシャルデンチャー、どこが違うの?: DHstyle 10(10)30-31,2016
16. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー パーシャルデンチャーを入れにくいのはどんな口腔内?: DHstyle 10(10)28-29,2016
17. 田中晋平, 西山弘崇, 馬場一美 : 【エキスパートたちが教える パーシャルデンチャーの Pitfall と回避策 35 これをおさえればインプラントに勝つパーシャルデンチャーができる!】(第 III 部)新材料によるパーシャルデンチャーの作り方 ジルコニアフレームワークの応用 : 日本歯科評論 別冊 2016 144-148,2016
18. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】実践編 インプラントオーバーデンチャーの修理 マグネット :補綴臨床 別冊 Denture Repair 118-124,2015.05
19. 塚崎弘明, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】実践編 義歯床の修理 直接法 :補綴臨床 別冊 Denture Repair 60-65,2015
20. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】総論・理論編 再製となるケース :補綴臨床 別冊 Denture Repair 52-57,2015
21. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】総論・理論編 義歯破折の原因と対策 患者サイドの条件 : 補綴臨床 別冊 Denture Repair 26-33,2015
22. 馬場一美, 村田比呂司 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】総論・理論編 義歯破折の原因と対策 補綴設計・力学的要因の見地から :補綴臨床 別冊 Denture Repair 5-11,2015

2-7

1. 横宏太郎(分担執筆) : 呼吸と顎頬面形態形成のバイオメカニクス, 中島榮一郎監著『新矯正歯科治療論 次世代を切り拓くためのメソッド』, 東京, 2015, クインテッセンス出版 (株), p79-85

2-8

1. 高橋浩二 : 摂食嚥下障害、嚥下障害の発症メカニズム、嚥下障害の検査・評価、嚥下障害の治療・訓練 : 言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版器質性構音障害, 181-198,2019
2. 高橋浩二 : 頸部聴診法 : Clinical Rehabilitation, 27(7) : 667-681, 2018
3. 高橋浩二 : オーラルフレイルと「口腔機能低下症」—MFTの活用に向け一 : MFTの臨床, 161-166, 2018
4. 高橋浩二 : 嚥下音測定とその応用 : 食品・医薬品のおいしさと安全・安心の確保技術《普及版》, 99-102, 2019
5. 高橋浩二 : 摂食嚥下のメカニズム、発音機能、咀嚼障害、摂食嚥下障害、言語障害、呼吸障害、味覚障害、咀嚼機能の回復、摂食嚥下機能の回復、言語機能の回復、審美性の回復 : 新体系看護学全書 13 耳鼻咽喉/歯・口腔, 291, 293, 308-314, 351-364, 2018
6. 高橋浩二 : 摂食嚥下のメカニズム、発音機能、咀嚼障害、摂食嚥下障害、言語障害、呼吸障害、味覚障害、咀嚼機能の回復、摂食嚥下機能の回復、言語機能の回復、審美性の回復 : 新体系看護学全書 皮膚/眼/耳鼻咽喉/歯・口腔, 437, 439, 454-460, 497-510, 2018
7. 高橋浩二 (分担執筆) : 摂食嚥下障害のリハビリテーション. 野間康弘・瀬戸咲一監修. 標準口腔外科学第4版. 東京, 2015, 医学書院, pp 527-532
8. Takahashi K: Chapter 16 Management of Speech Disorders Following Treatment for Oral Cancer. Oral Cancer Diagnosis and Therapy edited by Tadaaki Kiritat and Ken Omura Springer Japan 2015 pp361-372
9. Takahashi K: Chapter 17 Management of Dysphagia Following Treatment for Oral Cancer. Oral Cancer Diagnosis and Therapy edited by Tadaaki Kiritat and Ken Omura Springer Japan 2015 pp373-402

＜学会発表＞

《プロジェクト1》

1-1

1. 田中準一、小川美帆、北條宏徳、馬渕洋、安原理佳、鯨岡聰子、行森茜、大庭伸介、辻孝、美島健二. 同所移植可能なマウス ES 細胞由来唾液腺オルガノイドの誘導. (第18回再生医療学会総会, 神戸, 2019年3月)
2. 安原理佳、野口知世、田中準一、鯨岡聰子、行森茜、美島健二. 唾液腺由来筋上皮細胞における Pleomorphic adenoma gene1 (PLAG1) の役割. (文部科学省「私立大学研究プランディング事業」平成30年度研究成果報告会・シンポジウム, 東京, 2019年2月)
3. 田中 準一、小川美帆、安原理佳、鯨岡聰子、行森茜、高松弘貴、辻孝、美島健二. オルガノイド技術を用いたマウス ES 細胞由来唾液腺組織の誘導. (第2回がん三次元培養研究会, 東京, 2018年11月)
4. 高松弘貴、田中準一、鎌谷宇明、代田達夫、美島健二. 加齢に伴う唾液腺組織幹細胞の形質解析. (第52回 口腔科学会 関東地方部会学術集会、千葉県、2018年9月)
5. 野口智世、安原理佳、行森 茜、田中準一、鯨岡聰子、美島健二. 多形腺腫由来癌における Pleomorphic adenoma gene 1 の免疫組織学的検討 (第29回日本臨床口腔病理学会・第11回日本口腔検査学会 総会・共催学術大会, 東京, 2018年8月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

6. 田中準一、小川美帆、安原理佳、高松弘貴、辻孝、美島健二. 転写因子を用いたマウス ES 細胞由来唾液腺組織の誘導 (第 107 回日本病理学会総会, 北海道, 2018 年 6 月)
7. Tanaka J, Ogawa M, Hojo H, Mabuchi Y, Yasuhara R, Takamatsu K, Ohba S, Tsuji T, Mishima K : Generation of functional salivary gland organoid from mouse embryonic stem cells. International Society for Stem Cell Research (ISSCR) annual meeting, June 2018, Melbourne
8. 田中準一、小川美帆、北條宏徳、中村史郎、波多賢二、馬渕洋、安原理佳、西村理行、井上富雄、大庭伸介、斎藤一郎、辻孝、美島健二. マウス ES 細胞を用いた 3 次元唾液腺組織の分化誘導. (第 17 回再生医療学会総会, 横浜, 2018 年 3 月)
9. 安原理佳、田中準一、美島健二. 筋上皮細胞可視化マウスを用いた唾液腺由来筋上皮細胞の単離と局在解析. (「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」シンポジウム, 東京 2018 年 3 月)
10. 美島健二: 唾液腺機能障害における再生医療研究の現状. 「唾液腺機能回復の展望」メインシンポジウム B. (第 59 回歯科基礎医学会学術大会、松本、2017 年 9 月)
11. 田中準一、大庭伸介、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二. 唾液腺初期発生における Sox9 の機能解析 (第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台, 2017 年 3 月)
12. 安原理佳、田中準一、川嶋章弘、福島美和子、入江太朗、関沢明彦、美島健二. 脂肪幹細胞を活用した唾液腺再生メカニズムの解析. (第 106 回日本病理学会総会, 東京, 2017 年 4 月)
13. 田中準一、大庭伸介、北條宏徳、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二. 唾液腺初期発生における転写因子の機能解析. (第 106 回日本病理学会総会, 東京, 2017 年 4 月)
14. Tanaka J, Ohba S, Hojo H, Mabuchi Y, Yasuhara R, Irie T, Mishima K : SOX9 IS A KEY TRANSCRIPTION FACTOR OF SALIVARY GLAND DEVELOPMENT. International Society for Stem Cell Research (ISSCR) annual meeting, June 2017, Boston
15. 田中準一、大庭伸介、北條宏徳、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二. 唾液腺発生における転写因子の機能解析. (第 17 回抗加齢医学会総会 東京 2017 年 6 月)
16. 安原理佳、田中準一、入江太朗、美島健二. 筋上皮細胞可視化マウスを用いた唾液腺由来筋上皮細胞の単離と局在解析. (第 28 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, 埼玉, 2017 年 8 月)
17. 田中準一、大庭伸介、北條宏徳、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、美島健二. 唾液腺発生における機能的転写因子の同定 (第 28 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, 埼玉, 2017 年 11 月)
18. 田中準一、中村史郎、安原理佳、井上富雄、美島健二. 自己組織化技術を用いたマウス ES 細胞由来 3 次元唾液腺組織の誘導. Self-formation of salivary gland tissue from mouse embryonic stem cells (第 62 回 日本唾液腺学会学術集会, 東京, 2017 年 11 月)
19. 田中準一、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二 : Sox9 を介したマウス唾液腺組織幹細胞の機能解析 Sox9 is involved in the ability to self-renew of stem-like cells in murine salivary gland. (第 105 回日本病理学会総会, 仙台, 2016 年 5 月)
20. 田中準一、大庭 伸介、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二 : 唾液腺発生における Sox9 の機能解析 Sox9 regulates development of salivary glands. (第 39 回日本分子生物学会年会, , 横浜, 2016 年 12 月)
21. 田中準一、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二 : マウス唾液腺における幹細胞の同定とその characterization. (第 14 回日本再生医療学会, 横浜, 2015 年 3 月)
22. 田中準一、馬渕 洋、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二 : マウス唾液腺における幹細胞の同定とその機能解析. (第 104 回日本病理学会, 名古屋, 2015 年 4 月)
23. Tanaka J, Mabuchi Y, Yasuhara R, Irie T, Fukushima M, Fukada T, Yohko K, Mishima K : Characterization of tissue-specific stem cells from murine salivary gland. (第 63 回 国際歯科研究学会 (IADR) 日本部会総会 (JADR) ・ 学術大会, 福岡, 2015 年 10 月)
24. 美島健二; 老化制御を目指した再生医療の最前線 (第 16 回抗加齢歯科医学研究会主催講習会, 東京, 2014 年 4 月)
- 1-2
1. Tanaka N, Nohara K, Sakai T, Relationship between swallowing frequency and swallowing function in cerebral palsy patients with severe intellectual and physical disabilities. (The 27th Annual Meeting of the Dysphagia Research Society, San Diego, USA, March 8, 2019)
 2. Ikai K, Minagi H, Sakai M, Araie T, Sakai T, Analysis of transcriptional factor p63 expression in salivary glands regeneration (Gordon Research Conference-Salivary glands & Exocrine Biology-, Texas, USA, February 3-8, 2019)
 3. 井階一樹、皆木瞳、阪井丘芳 : 唾液腺の損傷モデルにおける転写因子 p63 の分子機構の解析 ~導管結紮と放射線照射を用いた検討~. (第 63 回唾液腺学会, 東京, 2018 年 12 月)
 4. 酒井学、福本萌、井階一樹、皆木瞳、稻垣忍、古郷幹彦、阪井丘芳 : 唾液腺の発生における mTOR 経路の役割. (第 41 回日本分子生物学会, 横浜, 2018 年 11 月)
 5. 奥野健太郎、皆木瞳、井階一樹、松村えりか、高井英月子、深津ひかり、内田悠理香、阪井丘芳 : セファログラムを用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対するナステント治療の効果予測. (第 43 回日本睡眠学会, 札幌, 2018 年 7 月)
 6. Okuno K, Minagi Ono H, Ikai K, Matsumura Ai E, Takai E, Fukatsu H, Uchida Y, Sakai T The efficacy of nasal airway stent (Nastent) on obstructive sleep apnea and prediction of treatment outcomes. (32nd annual meeting of The Associated Professional Sleep Societies, Maryland, USA, June 2-6, 2018)
 7. Kaneko N, Tanaka N, Nohara K, Arikawa E, Yamaguchi T, Sakai T, Olfactory function and appetite in elderly residents of

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- nursing homes - a comparison with the healthy elderly-. (8th Congress of the European Society for Swallowing Disorders, Dublin, Ireland, September 29, 2018)
8. Tanaka N, Nohara K, Sakai T, Evaluation method of saliva aspiration using green dye in SIMD patients. (8th Congress of the European Society for Swallowing Disorders, Dublin, Ireland, September 29, 2018)
9. 藤本倫莉、並川麻理、栗本聖之、青海哲也、中川記世子、原田丈司、阪井丘芳、田中 晋、古郷幹彦：粘膜下口蓋裂を有する 22q11.2 欠失症候群の臨床統計学的検討. (第 63 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018 年 11 月)
10. 栗原 調、岡 曜子、緒方佳代子、戸田雅子、奥原 滋、尾崎正雄、井関祥子、阪井丘芳：口蓋上皮 TGF-β および Shh は、口蓋間葉の Tenascinc 発言を誘導する. (第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2018 年 9 月)
11. 井階一樹、皆木 瞳、阪井丘芳：唾液腺の再生治療を目指した転写因子 p63 の発言と制御機構の役割. (第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2018 年 9 月)
12. Sakai T, Sakai M., Matsusita R., Hoshino R., Ikai K., Minagi-Ono, H, Lactoferrin Promotes Salivary Gland Development and Radioprotection, (96th General Session & Exhibition of the IADR, London (UK), July 28, 2018)
13. 奥野健太郎、皆木 瞳、井階一樹、松村えりか、高井英月子、深津ひかり、内田悠理香、阪井丘芳：セファログラムを用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対するナステント治療の効果予測. (日本睡眠学会第 43 回定期学術大会, 札幌, 2018 年 7 月)
14. 金子信子、野原幹司、有川英理、光山誠、山口高秀、阪井丘芳：要介護高齢者の嗅覚機能と食事に関する調査報告—健常高齢者との比較—. (日本老年歯科医学会第 29 回学術大会, 東京, 2018 年 6 月)
15. 松村えりか、野原幹司、深津ひかり、阪井丘芳：在宅嚥下障害患者の服薬状況調査—歯科からのポリファーマシー対策—. (日本老年歯科医学会第 29 回学術大会, 東京, 2018 年 6 月)
16. 内田悠理香、野原幹司、阪井丘芳、初診時に診断的治療として禁食としたことが経口摂食の再開に繋がった症例. (日本老年歯科医学会第 29 回学術大会, 東京, 2018 年 6 月)
17. 藤本倫莉、並川麻理、杉山千尋、栗本聖之、青海哲也、中川記世子、松川 誠、笠原 駿、西尾崇弘、磯村恵美子、原田丈司、阪井丘芳、田中 晋、古郷幹彦：大阪大学歯学部附属病院における粘膜下口蓋裂の臨床統計学的検討. (第 42 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018 年 5 月)
18. 杉山千尋、野原幹司、田中信和、高井英月子、藤井菜美、藤本倫莉、野崎一徳、古郷幹彦、阪井丘芳：大阪大学歯学部附属病院における粘膜下口蓋裂患者の臨床統計学的検討 —言語の視点から—. (第 42 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018 年 5 月)
19. 藤井菜美、野原幹司、高井英月子、田中信和、杉山千尋、市山晴代、亀谷伶奈、阪井丘芳：大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部における軟口蓋挙上装置 (PLP) の適応について. (第 42 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018 年 5 月)
20. 酒井 学、松下 巧、皆木 瞳、井階一樹、新家敬史、阪井丘芳：唾液腺に対するラクトフェリンの機能解析. (第 72 回日本口腔科学会学術集会, 名古屋, 2018 年 5 月)
21. 井階一樹、酒井 学、新家敬史、皆木 瞳、阪井丘芳：唾液腺の再生過程における転写因子 P63 の発言と局在. (第 72 回日本口腔科学会学術集会, 名古屋, 2018 年 5 月)
22. 阪井丘芳：ドラッグリポジショニングを用いた唾液腺再生療法の開発. (第 17 回日本再生医療学会総会シンポジウム, 横浜, 2018 年 3 月)
23. 新家敬史、奥野健太郎、小野 瞳、阪井丘芳：閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置長期使用による歯槽性および骨格性変化：レビューおよびメタ分析. (第 16 回日本睡眠歯科学会, 岩国, 2017 年 11 月)
24. 奥野健太郎、皆木 瞳、井階一樹、松村えりか、高井英月子、深津ひかり、内田悠理香、阪井丘芳：閉塞性睡眠時無呼吸症に対するナステント治療の効果と治療反応の予測. (第 16 回日本睡眠歯科学会, 岩国, 2017 年 11 月)
25. 皆木 瞳、奥野健太郎、野原幹司、阪井丘芳：口腔内装置の長期使用による副作用に関する因子の解析. (第 16 回日本睡眠歯科学会, 岩国, 2017 年 11 月)
26. Kaneko N, Nohara K, Tanaka N, Uchida Y, Yamaguchi T, Mitsuyama M, Sakai T: A study on olfactory function and appetite in elderly residents of nursing homes, (The 7th ESSD Congress, Barcelona, Spain, September 22-23, 2017)
27. 奥野健太郎、小野 瞳、阪井丘芳：閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置の長期使用における咬合への副作用について. (第 42 回日本睡眠学会, 横浜, 2017 年 6 月)
28. 小野瞳、井階一樹、松下 巧、酒井 学、松村えりか、阪井丘芳：ピロカルピン継続投与による唾液分泌機能亢進効果の検討. (第 17 回日本抗加齢医学会総会, 東京, 2017 年 6 月)
29. 三浦康寛、高井英月子、野原幹司、阪井丘芳：多職種連携にて嚥下機能が改善した絶食、胃瘻患者の症例. (第 28 回日本老年歯科医学会, 名古屋, 2017 年 6 月)
30. 金子信子、野原幹司、有川英里、山口高秀、光山 誠、阪井丘芳：要介護高齢者の臭覚機能と食欲不振に関する調査報告、—嗅覚機能と食欲不振の関連について—. (第 28 回日本老年歯科医学会, 名古屋, 2017 年 6 月)
31. 岡 曜子、栗原 調、比嘉ありさ、阪井丘芳：口蓋癒合上皮における 1TGF-β3 は、軟口蓋 Tenascin C 発現と促進する. (第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2017 年 5 月)
32. 高井英月子、野原幹司、田中信和、菱川礼子、市山晴代、杉山千尋、阪井丘芳：舌前方牽引固定術を行った Robin Sequence 症例の長期経過について. (第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2017 年 5 月)
33. Ono H, Ikai K, Matsushita T, Sakai M, Sakai T: Pilocarpine benefit in stem cell therapy ; regeneration for human and mouse salivary glands,(Gordon Research Conference, Garveston, February 19-24, 2017)
34. Sakai T: Global gene expression analysis for the treatment of cleft palate,(International Cleft Congress2017, Chennai, India, February 8-11, 2017)
35. Ono H, Safeye E S, Kurosaka H, Sakai T, Yamashiro T: The role of Runx1 in salivary gland development, (International

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- Symposium Oral and Craniofacial Development and Diseases 2016, Osaka, December 12, 2016)
36. 井階一樹、小野 瞳、松下 巧、酒井 学、野原幹司、阪井丘芳：胎仔唾液腺における筋上皮細胞の発生とその役割。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
37. 松下 巧、阪井丘芳、吉田博昭、森田章介、檜枝洋記：マウス顎下腺発生過程における転写因子 Grhl2 とその標的遺伝子の発現。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
38. 松下 巧、吉田博昭、田中準一、美島健二、阪井丘芳、森田章介：顎下腺形成には転写因子 Grhl2 によるプロテアーゼ阻害因子 SPINT1 の発現。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
39. 松野頸平、野原幹司、宮本昌子、相 えりか、阪井丘芳：経鼻内視鏡を用いた唾液誤嚥評価法の開発。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
40. 中川恵子、野原幹司、杉山千尋、阪井丘芳：嚥下訓練の経過から眼咽頭型筋ジストロフィー (OPMD) の発症が明らか。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
41. 光森桂子、田中信和、野原幹司、相 えりか、阪井丘芳：在宅療養における重症心身障害児者の摂食嚥下障害の調査～当部外来受診者の実態から～。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
42. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山 誠、阪井丘芳：施設入所高齢者における夜間安静時の嚥下頻度調査。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
43. 徳田誠司、奥野健太郎、立花直子、若杉葉子、深津ひかり、大城 健、中川恵子、阪井丘芳：舌扁桃肥大による睡眠時無呼吸症候群患者に対し扁桃摘出手術前に口腔内装置を適用した症例。(第28回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2016年12月)
44. Sugiyama C, Nozaki K, Nohara K, Hishikawa A, Ichiyama H, Tanaka N, Takai E, Sakai T: Speech outcome of consecutive patients with UCLP, (The 11th congress of the Asian Pacific Craniofacial Association Nara, December 1-3, 2016)
45. 徳田誠司、奥野健太郎、立花直子、若杉葉子、深津ひかり、大城健、中川恵子、阪井丘芳：眠気の原因として多因子の関与が疑われた軽度OSASに対し診断的治療としてOAを適応した症例。(第15回日本睡眠歯科学会・学術集会, 東京, 2016年11月)
46. 松下 巧、吉田博昭、田中準一、美島健二、阪井丘芳、森田章介：顎下腺形成には転写因子 Grhl2 によるプロテアーゼ阻害因子 SPINT1 の発現調節が関与する。(第61回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月)
47. Kaneko N, Nohara K, Sakai T: A Survey of The Administration of Drugs that May Influence The Eating and Swallowing Functions of The Elderly in Need of Nursing Care, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
48. Tanaka N, Nohara K, Oshiro K, Watanabe K, Sakai T: The Relationship Between Swallowing Frequency and Function in The Elderly, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
49. Nohara K, Matsuno K, Sakai T: Development of The Videoendoscopic Evaluation of Saliva Aspiration, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
50. 阪井丘芳：幹細胞をターゲットとした唾液腺再生治療の開発。(第58回歯科基礎医学会学術シンポジウム, 札幌, 2016年8月)
51. 小野瞳、Sarper Safiye、山城隆、阪井丘芳：唾液腺の形態形成における性差と Runx1 の制御機構について。(第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016年8月)
52. 小野瞳、井階一樹、阪井丘芳：口腔乾燥治療薬の継続服用による有効性の検討。(第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016年8月)
53. 井階一樹、小野瞳、阪井丘芳：唾液腺形態形成における筋上皮細胞の役割について。(第58回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016年8月)
54. 阪井丘芳：遺伝子データベースを応用した器官形成機構の解明。(ライオン学術賞受賞講演, 札幌, 2016年8月)
55. 奥野健太郎、野原幹司、高井英月子、阪井丘芳：各睡眠段階における嚥下と呼吸の調節機構の変化。(日本睡眠学会第441回定期学術集会, 東京, 2016年7月)
56. 阪井丘芳：どうして唾液がでなくなるのか？～ドライマウスと摂食嚥下障害に対する口腔管理の基礎知識～。(第7回高知口腔ケアフォーラム, 高知, 2016年7月)
57. Kaneko N, Nohara K, Sakai T, Yamaguchi T: Severity Classification of People with Dysphagic in the Nursing Home, (20th International Symposium on Dental Hygiene, Switzerland, June 23-25, 2016)
58. 相 えりか、野原幹司、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳：増粘剤の使用が粘液線毛輸送に及ぼす影響。(日本老年歯科医学会第27回総会・学術集会, 徳島, 2016年6月)
59. 常峰容子、野原幹司、深津ひかり、阪井丘芳：口腔腫瘍術後の外来患者に対する認知症スクリーニング監査の試み。(日本老年歯科医学会第27回総会・学術集会, 徳島, 2016年6月)
60. 野崎一徳、杉山千尋、畠中耕平、中川真智子、佐藤耕一、苅安 誠、野原幹司、玉川裕夫、山城隆、阪井丘芳、古郷幹彦: Fluid Dynamics of Articulation Considering Velopharyngeal Function 鼻咽腔閉鎖機能を考慮した構音野流体解析。(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2016年5月)
61. 杉山千尋、野原幹司、菱川礼子、高井英月子、田中信和、阪井丘芳：口蓋裂言語の聴覚判定における評価者間一致度の研究—経験による差の検討—。(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2016年5月)
62. 高井英月子、野原幹司、杉山千尋、田井寿和、阪井丘芳：口蓋形成術後15年経過した先天性軟口蓋片側形成不全症例の鼻咽腔閉鎖機能について。(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2016年5月)
63. 田井寿和、野原幹司、高井英月子、阪井丘芳：大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部における口蓋裂初診患者の臨床統計。(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2016年5月)
64. 高木律男、飯田征二、今井智子、小林眞司、阪井丘芳、須佐見隆史、須田直人、宮脇剛司、中村典史、内山健志、吉増秀實、西尾順太郎、川上重彦、後藤昌昭、鈴木茂彦：本学会学術調査委員会による2014年(第2回)口蓋

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 裂・口唇裂チーム医療体制実態調査. (第 40 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2016 年 5 月)
65. 平岡慎一郎、薄木崇介、畦西克己、稻月摶、上田紘子、大濱透、阪井丘芳、古郷幹彦：口腔癌術後患者二対するペプタメン AFTM を用いた栄養両方の検討. (第 31 回日本静脈経腸栄養学会, 福岡, 2016 年 2 月)
66. Sakai T: Exploration of Mechanisms of Salivary Gland and Palatal Development using Databases, (Symposium on tooth Development and Regeneration, Hong Kong, February 12, 2016)
67. 阪井丘芳：口腔機能障害—ドライマウスから摂食・嚥下臨床への展開. (第 3 回食品ユニバーサルデザイン研究会, 大阪, 2016 年 2 月)
68. 阪井丘芳：健康に食べるための唾液と唾液腺の基礎知識. (第 10 回日本口腔ケア協会学術大会, 神戸, 2016 年 1 月)
69. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B, Lowe AA, Almeida F. Endoscopy Prediction of Oral Appliance Outcome in Obstructive Sleep Apnea. (The University of British Columbia Dentistry Research Day, Vancouver, Canada, January 26, 2016)
70. 阪井丘芳：「唾液の機能とドライマウスに対する口腔ケア」. (Handai-Asahi 中之島塾, 大阪, 2015 年 11 月)
71. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、井階一樹、三浦治郎、江草 宏、阪井丘芳：iPS 細胞由来の再生因子を用いた唾液腺再生の検討. (第 27 回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2015 年 11 月)
72. 松下 巧、吉田博昭、阪井丘芳、森田章介：転写因子Grh12はマウス胎仔顎下腺の分子形態形成に関与する. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
73. 野原幹司、相 えりか、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳：増粘剤の濃度の違いが粘液線毛輸送に及ぼす影響. (第 25 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 2015 年 10 月)
74. Tanaka N, Nohara K, Ueda A, Ushio M, Doi S, Nakazawa M, Fujiwara M, Sakai T: Comparison of chest computed tomography findings of severe motor and intellectual disability patients between aspirators and non-aspirators, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
75. Nohara K, Ai E, Fukatsu N, Tanaka N, Okuno K, Sakai T: Effects of application of thickening agent on mucociliary transport time, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
76. Kaneko N, Nohara K, Tanaka N, Okuno K, Sakai T: Swallowing frequency in elderly of during resting at night, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
77. Almeida FR, Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B T, Lowe AA: Nasoendoscopic diagnosis for prediction of oral appliance treatment outcome in moderate and severe obstructive sleep apnea. (The 7th Congress of the Canadian Sleep Society, S Toronto, Ontario, Canada, September 25-27, 2015)
78. Ono H, Obana A, Usami Y, Sakai M, Miura J, Egusa H, Sakai T: Models of salivary gland differentiation using induced pluripotent stem (iPS) cells, (47th Meeting of Continental European Division of the International Association for Dental Research, Antalya, Turkey, September 15, 2015)
79. 相 えりか、野原幹司、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳：増粘剤の使用が粘液線毛輸送機能に及ぼす影響. (第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015 年 9 月)
80. 常峰蓉子、上田菜美、野原幹司、阪井丘芳：口腔腫瘍術後患者の慢性期における嚥下障害について～嚥下スクリーニング質問紙 EAT-10 による調査～. (第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015 年 9 月)
81. 松野頌平、田井寿和、宮本昌子、阪井丘芳：唾液誤嚥評価法の開発に向けて～唾液嚥下での PAS (A penetration-aspiration scale) を評価するための試み～. (第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015 年 9 月)
82. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山 誠、阪井丘芳：施設入所高齢者と健常成人の夜間就寝中における嚥下頻度の比較検討. (第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015 年 9 月)
83. 阪井丘芳：「効果的な口腔ケアを行うための唾液と唾液腺の基礎知識」. (日本口腔看護研究会第 2 回島根地区セミナー, 島根, 2015 年 7 月)
84. 阪井丘芳：睡眠時の口腔乾燥について. (日本睡眠学会第 40 回定期学術集会, 宇都宮, 2015 年 7 月)
85. 佐々生康弘、奥野健太郎、野原幹司、中村祐己、阪井丘芳：内視鏡による Oral Appliance 治療の適否の診断. (第 40 回日本睡眠学会定期学術集会, 宇都宮, 2015 年 7 月)
86. 阪井丘芳：若さを保つための口腔ケア～唾液と口腔機能～. (Tadalafil 東京フォーラム 2015 日本新薬株式会社主催, 東京, 2015 年 6 月)
87. 阪井丘芳：シェーグレン症候群に伴うドライマウスについて. (sis エリア連携ミーティング キッセイ薬品工業株式会社主催, 大阪, 2015 年 6 月)
88. 内田悠理香、野原幹司、田中信和、金子信子、光山誠、阪井丘芳：施設入所高齢者における誤嚥性肺炎発症の寒冷要因の検討. (第 26 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 6 月)
89. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山誠、阪井丘芳：施設入所高齢者の夜間就寝中における嚥下頻度. (第 26 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 6 月)
90. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B T, Lowe AA, Almeida FR: Quantitative evaluation of upper airway using nasoendoscopy for prediction of oral appliance treatment outcome in moderate and severe obstructive sleep apnea. (24th annual meeting of the American Academy of Dental Sleep Medicine Seattle, Washington USA, June 4-6, 2015)
91. Okuno K, Nohara K, Sakai T, Lowe AA, Almeida FR: The change in coordination of swallowing and respiration in sleep stages. (American Thoracic Society 2015 International Conference, Denver, Colorado USA, May 15-20, 2015)
92. 阪井丘芳：口腔機能獲得のための唾液腺と口蓋の遺伝子プロファイルの構築. (第 15 回日本抗加齢医学会総会, 福岡, 2015 年 5 月)
93. 阪井丘芳：唾液腺の機能を理解したわかりやすい口腔ケア. (第 15 回日本抗加齢医学会総会, 福岡, 2015 年 5 月)
94. 阪井丘芳：宿題報告 再生をめざした唾液腺形成機構の解析～新たな制御因子を求めて～. (第 69 回 NPO 法人

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)
95. 内田仁司、斎藤一郎、阪井丘芳：唾液分泌の日内変動における機能分子の解析。(第15回日本抗加齢医学会総会、福岡、2015年5月)
96. 田中信和、野原幹司、高井英月子、深津ひかり、上田菜美、尾花綾、阪井丘芳：口唇口蓋裂患者の睡眠時無呼吸症候群に対する他科連携による取り組み。(第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
97. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、三浦治郎、江草 宏、阪井丘芳：iPS細胞を応用した唾液腺再生モデル。(第69回日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)
98. 高井英月子、野原幹司、阪井丘芳：VFによる発音時の軟口蓋の速さ解析—口蓋裂症例について—。(第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
99. 杉山千尋、野原幹司、日景朱美、菱川礼子、高井英月子、田中信和、阪井丘芳：口蓋裂言語の聴覚判定における評価者内信頼性について—ビデオ聴取による検討 第2報—。(第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
100. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、江草 宏、大川博子、阪井丘芳：唾液腺再生を目指したips細胞の応用。(第14回NPO法人日本再生医療学会学術集会、横浜、2015年3月)
101. Ueda N, Nohara K, Tanaka N, Kaneko N, Uchida Y, Sakai T: Influence of the bolus volume on hyoid movements in healthy younger and older women. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II, USA, March 12-14, 2015)
102. Uchida Y, Nohara K, Ueda N, Kaneko N, Tanaka N, Mitsuyama M, Sakai T: Factors associated with the incidence of aspiration pneumonia in nursing home residents. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II, USA, March 12-14, 2015)
103. Tanaka N, Nohara K, Ueda A, Ushio M, Fujiwara M, Handa S, Nakazawa Y, Sakai T: Comparison of chest computed tomography findings in cerebral palsy patients between aspirators and nonaspirators. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II, USA, March 12-14, 2015)
104. Ono H, Obana A, Sakai T: Models of salivary gland differentiation using induced pluripotent stem (iPS) cells,)Salivary Glands & Exocrine Biology, Gordon Research Conference, USA, February 15-20, 2015)
105. Obana A, Ono H, Sakai T: Melatonin inhibits embryonic salivary gland branching morphogenesis by regulating epithelial cell adhesion and morphology. (Japan-Korea Seminar, Osaka, February 23, 2015)
106. 平岡慎一郎、畦西克己、稻月撰、上田紘子、阪井丘芳、古郷幹彦：口腔癌における術前栄養学的評価と長期予後について。(第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会、神戸、2015年2月)
107. 阪井丘芳：加齢や歯周病等の疾患に伴う口腔機能の変化(特に咀嚼機能、摂食嚥下機能を中心に)と、それに伴う高齢者の健康への影響について。(第35回全国歯科保健大会、大阪、2014年11月)
108. 高井英月子、野原幹司、阪井丘芳：当部で鼻咽腔閉鎖不全が明らかとなった言語障害を呈する非口蓋裂術後症例の主訴および受診経緯について。(第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014年11月)
109. 中村祐己、佐々生康宏、奥野健太郎、野原幹司、阪井丘芳：下顎前方移動とともに上気道の形態変化～健常者における内視鏡的評価。(日本睡眠歯科学会 第13回総会・学術集会、東京、2014年11月)
110. 尾花綾、田中信和、野原幹司、阪井丘芳：摂食障害児の予後に影響を与える因子の研究。(第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014年11月)
111. 藤田真奈美、深津ひかり、上田菜美、野原幹司、高井英月子、田中信和、阪井丘芳：嚥下障害を有する患者および介助者における口腔ケアに関するアンケート調査。(第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014年11月)
112. Nohara K, Kaneko N, Uchida Y, Tanaka N, Sakai T: Relationship between airway clearance function and aspiration pneumonia in geriatric nursing home residents. (The 4th ESSD Congress, Brussels, Belgium, October 23-25, 2014)
113. 深津ひかり、野原幹司、阪井丘芳：内視鏡を用いた粘膜線毛輸送機能の評価法の確立～サッカリンテストとの比較～。(第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、東京、2014年9月)
114. 阪井丘芳：再生をめざした唾液腺形成機構の解析～iPS細胞の応用～。(平成26年度生理学研究所研究会「唾液腺形態形成研究会～機能解析から器官再生～」、岡崎、2014年8月)
115. 阪井丘芳：口腔機能障害に対する臨床と研究—唾液の機能を理解したアンチエイジングと口腔ケア—。(超域イノベーション講座 サンスター株式会社、大阪、2014年7月)
116. 阪井丘芳：口腔機能障害—摂食・嚥下臨床への展開—、障害を持つ人々に寄り添う歯科医療を目指して。(関西障害者歯科臨床研究会第6回研究集会、大阪、2014年6月)
117. 上田菜美、野原幹司、金子信子、尾花綾、内田悠理香、光山誠、阪井丘芳：肺炎既往の有無による肺炎球菌の陽性率の比較。(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014年6月)
118. 深津ひかり、野原幹司、阪井丘芳：内視鏡を用いた粘膜線毛輸送機能の評価法の確立、(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014年6月)
119. 金子信子、野原幹司、阪井丘芳：施設入所高齢者における摂食・嚥下機能に影響を及ぼす服薬についての調査報告。(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014年6月)
120. 谷川千尋、野崎一徳、玉川裕夫、留和香子、磯貝由佳子、社浩太郎、上松節子、阪井丘芳、古郷幹彦、山城隆：口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療のための矯正歯科治療情報基盤システムの構築。(第56回近畿東海矯正歯科学会学術大会、名古屋、2014年6月)
121. 小野瞳、尾花綾、宇佐美悠、江草宏、大川博子、山城隆、野原幹司、阪井丘芳：iPS細胞を用いた唾液腺再生への試み。(第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会-口腔科学の新世紀-, 東京, 2014年5月)
122. 岡野綾、古郷幹彦、阪井丘芳、杉山千尋、磯村恵美子、青海哲也、大槻浩一、廣石幸恵、富永仰、川島郁子、近藤剛、安斎ゆう子、石橋美樹、富永律子：口蓋裂児への会に対する患者家族アンケート調査からの知見。(第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会-口腔科学の新世紀-, 東京, 2014年5月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

123. 杉山千尋、野原幹司、日景朱美、菱川礼子、高井英月子、阪井丘芳: 口蓋裂言語の聴覚判定における評価者間の一一致率について—ビデオ聴取による検討—. (第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 札幌, 2014年5月)
124. 高井英月子、野原幹司、上田菜美、日景朱美、杉山千尋、阪井丘芳: 鼻咽腔閉鎖不全を呈していた構音障害症例における本院受診前の診断および受診経緯について. (第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 札幌, 2014年5月)
125. 上田菜美、野原幹司、高井英月子、杉山千尋、日景朱美、大槻浩一、古郷幹彦、阪井丘芳: 完全両側性唇顎口蓋裂患者における上顎形態と口蓋化構音について. (第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 札幌, 2014年5月)
126. 日景朱美、杉山千尋、野原幹司、菱川礼子、尾花綾、阪井丘芳: 協調運動障害が口蓋裂術後構音障害の発言に及ぼす影響 第3報 —構音障害の有無による協調運動能力の特徴—. (第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 札幌, 2014年5月)
127. Sakai T: Exploration of functional regulators in branching morphogenesis of salivary gland for future regenerative medicine, (Symposium, The 55th congress of the KOREAN association of oral and maxillofacial surgeons, KOREA, April 25, 2014)
128. Sugiyama C, Nohara K, Hikage A, Hishikawa A, Takai E, Kogo M, Sakai, T: An investing of relationship between articulation and motor coordination in individuals with UCLP. (71th Annual American Cleft Palate?Craniofacial Meeting, Indianapolis, USA, March 24-29, 2014)
- 1-3
1. 大塚裕忠、角山優輔、遠藤康男、大津浩、中村雅典、添田聰: 象牙芽細胞におけるエクソソーム関連タンパク質の発現と局在 (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2019年3月 新潟)
 2. 福島美和子、井上知、藤川芳織、中村雅典: 象牙芽細胞におけるエクソソーム関連タンパク質の発現と局在 (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2019年3月 新潟)
 3. 藤川芳織、井上知、福島美和子、中村雅典: マウス下顎頭軟骨発生過程におけるFGF受容体の発現に関する研究 (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2019年3月 新潟)
 4. 井上知、藤川芳織、福島美和子、中村雅典: 骨修復過程における卵巣摘出の影響は骨幹端と骨幹部で異なる (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2019年3月 新潟)
 5. 井上知、藤川芳織、福島美和子、中村雅典: 卵巣摘出マウスにおける長骨骨幹端治癒過程の解析 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成20年度シンポジウム 2019年3月 東京)
 6. 井上知、藤川芳織、大塚裕忠、中村雅典: 2つの異なる扁平骨における骨修復過程の解析 (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2018年3月 東京)
 7. 藤川芳織、井上知、瀧戸次郎、大塚裕忠、中村雅典: マウス創傷治癒過程における局所的マクロファージ除去の影響 (第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2018年3月 東京)
 8. 井上知、藤川芳織、中村雅典: 肩甲骨および頭頂骨における骨修復過程 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成29年度シンポジウム 2018年3月 東京)
 9. Inoue S, Otsuka H, Nakamura M: Difference between bone repair process in scapula and calvaria. (65th Annual Meeting of the Japanese Association for Dental Research 2017年11月 Tokyo)
 10. 井上知、大塚裕忠、中村雅典: 肩甲骨および頭蓋骨における骨修復過程の比較 (第105回日本解剖学会関東支部学術集会 2017年11月 東京)
 11. 井上知、中村雅典: 骨折治癒過程における組織学的動態～骨折はどのようにして治るのか～ (第26回日本柔道整復接骨医学会学術大会 基礎医学研究分科フォーラム 2017年11月)
 12. 井上知、大塚裕忠、中村雅典: Healing process of the metaphyseal region in long bone (第59回歯科基礎医学会学術大会 2017年9月 松本)
 13. 井上知、中村雅典: 長骨骨幹端における骨修復過程 (第59回 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教員研修会 2017年8月 岡山)
 14. Nakamura M, Otsuka H: Histological identification of cells directly participating calcified tissue resorption and destruction (Experimental Biology 2017 2017年4月 Chicago)
 15. Inoue S, Nakamura M: Metaphysis repair process differ from the diaphysis (Experimental Biology 2017 2017年4月 Chicago)
 16. 大塚裕忠、中村雅典: 重症貧血マウスモデルの大網組織における造血関連因子の解析. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、長崎、2017年3月)
 17. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、澤伸彰、野中直子、中村雅典: 骨幹端における骨損傷の修復過程は骨幹部と異なる. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2017年3月 長崎)
 18. Nonaka N, Nakamura M: The functional analysis of the pillar cells in granular ducts of mouse submandibular glands. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2017年3月 長崎)
 19. 井上知、中村雅典: 長骨骨幹端における骨修復機構の解析. (第25回日本柔道整復接骨医学会学術大会、仙台、2016年11月)
 20. 野中直子、中村雅典: マウス顎下腺の顆粒性導管に存在するピラー細胞の機能的解析. (第58回歯科基礎医学会学術大会 2016年8月 札幌)
 21. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典: 長骨骨幹部および骨幹端における骨修復機構の比較. (第330回昭和大学学士会例会 2016年6月 東京)
 22. 川島翼、瀧戸二郎、島田幸恵、佐藤昌史、中村雅典: マウスのエナメル芽細胞における細胞接着分子Nectin-2の機能解析. (第54回日本小児歯科学会 2016年5月 東京)
 23. Nonaka N, Nakamura M: Japanese herbal medicine, Juzentaihoto, suppress the lymphocyte infiltration in the aging mouse

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- salivary glands. (Experimental Biology 2016 2016年4月 San Diego)
24. 大塚裕忠, 中村雅典: 窒素含有型ビスホスホネートを用いた重症貧血マウスモデルにおける新規造血構造誘導機構の解析. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2016年3月 福島)
25. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：長骨骨幹部および骨幹端における骨修復機構の比較. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2016年3月 福島)
26. 瀧戸二郎、中村雅典：破骨細胞に見られるアクチン超構造体の静的構造 (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2016年3月 福島)
27. 新井宏、大塚裕忠、瀧戸次郎、井上知、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：ミノドロネート投与によるコラーゲン誘導型関節炎モデルへの影響. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2016年3月 福島)
28. 野中直子, 中村雅典 : 十全大補湯による加齢マウス唾液腺におけるリンパ球浸潤抑制効果. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 2016年3月 福島)
29. Arai H, Otsuka H, Takito J, Inoue S, Yanagisawa N, Nonaka N, Nakamura M: Effect of Minodronate on collagen-induced arthritis model mice. (APICA 2016年3月 Singapore.)
30. 新井宏、大塚裕忠、瀧戸次郎、井上知、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：コラーゲン誘導型関節炎モデルマウスにおける窒素含有型 ビスホスホネート製剤の影響. (第62回 昭和大学学士会総会 2015年12月 東京)
31. 川島翼, 瀧戸二郎, 佐藤昌史, 井上美津子, 宮崎 隆, 中村雅典: 細胞接着分子Nectinのマウスエナメル芽細胞における局在とその機能解析. (第62回 昭和大学学士会総会 2015年12月 東京)
32. Takito J, Nakamura M: The anatomy of the zipper-like structure. (63rd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research October 2015 Fukuoka)
33. Nonaka N, Nakamura M: Change of PACAP receptor expressing cells during the development of granular duct in male mouse submandibular glands. (Experimental Biology 2017 2015年3月 ボストン)
34. 大塚裕忠, 中村雅典: 重症貧血誘導時における腹腔内脂肪関連性リンパ組織及び血リンパ節様構造に関する研究. ((第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会. 神戸、 2015年3月)
35. Inoue S, Arai H, Otsuka H, Nakamura M: The Effect of Minodronate on Murine Hematopoiesis. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会. 神戸、 2015年3月)
36. Nonaka N, Shioda S, Nakamura M: Dynamic change of PACAP receptor with the development of granular ducts in male mouse submandibular glands. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会. 2015年3月 神戸)
37. Arai H, Otsuka H, Takito J, Inoue S, Nonaka N, Nakamura M: Effect of Nitrogen-containing bisphosphonates on collagen-induced arthritis model mice. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会. 神戸、 2015年3月)
38. 瀧戸二郎、川島翼、中村雅典：エンドサイトシスと細胞融合に関与するアクチン再構築系の分離. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会 2015年3月 神戸)
39. 大塚裕忠, 中村雅典 : Simultaneous detection of embryonic and adult hemoglobin in adult mice. (第62回国際歯科研究学会日本部会総会・学術集会 2014年12月 大阪)
40. *柳澤伸彰、大塚裕忠、瀧戸次郎、野中直子、中島功、中村 雅典：顔面部皮膚領域における抗原提示細胞の局在. (第14回顔学会 2014年10月 東京)
41. 野中直子, 中村雅典 : 雄性マウス頸下腺における顆粒性導管の出現と PACAP レセプターの局在変化について. (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会 2014年9月 福岡)
42. 大塚裕忠, 中村雅典: 重症貧血マウスに誘導された血リンパ節様構造に関する研究. (第157回日本獣医学会全国学術集会 2014年9月 札幌)
43. 瀧戸二郎、中村雅典：アクチン細胞骨格を制御するシグナルネットワークによる破骨細胞多核化の調節. (第119回日本解剖学会全国学術集会 2014年3月 栃木)
- 1-4
- Nakamura S, Nagoya K, Ikeda K, Onimaru H, Kawakami K, Nakayama K, Mochizuki A, Dantsuji M, Inoue T. Phox2b-expressing neurons in the rat reticular formation dorsal to the trigeminal motor nucleus. The 9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress in conjunction with the 96th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, Kobe, 2019/3/29
 - Kanamaru M, Tsukada M, Yoshikawa A, Onimaru H, Mochizuki A, Sunagawa M, Inoue T, Izumizaki M. Effects of optogenetic inhibition of 5-HT neurons in the dorsal raphe nucleus on respiratory control. The 9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress in conjunction with the 96th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, Kobe, 2019/3/30
 - 守谷崇, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 代田達夫, 井上富雄. 噫下改善薬の投与による嚥下への影響. 第65回昭和大学学士会総会, 東京, 2018/12/1
 - Dantsuji M, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, S. K. Park, Y. J. Bae, Ozeki M, Inoue T. Activation of 5-HT2A receptor enhances function of GluN2A-containing NMDA receptor via Src kinase in dendrites of rat jaw-closing motoneurons. Society for Neuroscience 48th annual meeting, San Diego, 2018/11/6
 - Moriya T, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Shirota T, Inoue T. Effects of pharmacological agents administered for swallowing disorders on swallowing motor activity in nerves innervating infrahyoid and laryngeal muscles. Society for Neuroscience 48th annual meeting, San Diego, 2018/11/6
 - 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 壇辻昌典, 井上富雄. 閉口筋および開口筋運動ニューロンへの興奮性シナプス伝達の生後発達様式の比較. 日本顎口腔機能学会第61回学術大会, 抄録集 P3, 東京, 2018/9/29
 - 望月文子, 中村史朗, 中山希世美, 壇辻昌典, 井上富雄. マウスの脂質代謝におけるオレキシンの影響. 第60

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 回歯科基礎医学会学術大会, 抄録集 P469, 福岡, 2018/9/7
8. 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 壇辻昌典, 井上富雄. 発達期における閉口筋および開口筋運動ニューロンのグルタミン酸入力比較. 第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 抄録集 P464, 福岡, 2018/9/7
 9. 池田美菜子, 望月文子, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 井上富雄. マウスの睡眠覚醒ステージにおける咬筋活動に対する SSRI の影響. 第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 抄録集 P397, 福岡, 2018/9/6
 10. 壇辻昌典, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 尾関雅彦, 井上富雄. 咬筋運動ニューロン樹状突起のグルタミン酸応答に対するセロトニンの効果. 第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 抄録集 P101, 福岡, 2018/9/5
 11. Dantsuji M, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, S. K. Park, Y. J. Bae, Ozeki M, Inoue T. 5-HT2A receptor mediates enhancement of NMDA receptor function via Src pathway in dendrites of jaw-closing motoneurons in rats. 11th Forum of Neuroscience Berlin, Germany, 2018/7/10
 12. 池田美菜子, 望月文子, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 井上富雄. マウスの睡眠覚醒ステージにおける咬筋活動に対する SSRI の影響. 日本顎口腔機能学会第 60 回学術大会, プログラム・事前抄録集 P18-19, 神奈川, 2018/4/21
 13. Moriya T, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Shirota T, Inoue T. Effects of Imidapril on swallowing activity in in situ rat preparations. 第 95 回日本生理学会大会, 高松, 2018/3/29
 14. Shimono S, Teshima R, Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Ikeda M, Inoue T. Postnatal change of glutamatergic synaptic transmission in the jaw-closing and jaw-opening motoneurons. 第 95 回日本生理学会大会, J Physiol Sci. Vol 68, Suppliment 1: S99, 2018, 高松, 2018/3/29
 15. 田中準一, 小川美帆, 北條宏徳, 中村史朗, 波多賢二, 馬渕洋, 安原理佳, 西村理行, 井上富雄, 大庭伸介, 斎藤一郎, 辻孝, 美島健二. マウス ES 細胞を用いた 3 次元唾液腺組織の分化誘導. 第 17 回再生医療学会, 横浜, 2018/3/21
 16. Mochizuki A, Ikawa Y, Kato T, Ikeda M, Nakamura S, Nakayama K, Baba K, Inoue T. The effects of Citalopram on the masseter muscle activity during non-REM sleep in mice. The 6th Annual International Institute for Integrative Sleep Medicine (IIS) Symposium, Tokyo, 2017/12/14
 17. 望月文子, 池田美菜子, 中村史朗, 中山希世美, 井上富雄. マウス咬筋に対するシタロプラムの影響. 第 11 回三叉神経領域の感覚-運動統合機構研究会, 大阪, 2017/12/2
 18. 永田愛, 中山希世美, 中村史朗, 望月文子, 横宏太郎, 井上富雄. 咬筋運動ニューロンへのシナプス入力に対するセロトニンの影響. 第 64 回昭和大学学士会総会, 東京, 2017/11/25
 19. 田中準一, 中村史朗, 安原理佳, 井上富雄, 美島健二. 自己組織化技術を用いたマウス ES 細胞由来 3 次元唾液腺組織の誘導. 第 62 回日本唾液腺学会総会・学術大会, 東京, 2017/11/25
 20. 壇辻昌典, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 尾関雅彦, 井上富雄. 咬筋運動ニューロン樹状突起における興奮性シナプス入力のセロトニンによる增幅機構. 日本顎口腔機能学会第 59 回学術大会, 長崎, 2017/11/25
 21. Mochizuki A, Ikeda M, Nakamura S, Nakayama K, Inoue T. The effect of citalopram administration on the occurrence of vigilance states in the mouse model of depression. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (JADR), Tokyo, 2017/11/18
 22. Teshima R, Shimono S, Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Ikeda M, Inoue T. Postnatal changes of glutamatergic inputs to rat jaw-closing and jaw-opening motoneurons. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (JADR), Tokyo, 2017/11/18
 23. Nagoya K, Nakamura S, Ikeda K, Onimaru H, Nakayama K, Mochizuki A, Sato F, Yoshida A, Kawakami K, Inoue M, Inoue T. Distinctive properties of Phox2b neurons located in the rat reticular formation dorsal to the trigeminal motor nucleus. Soc Neurosci abstr, 778.09/GG21, 2017, Society for Neuroscience 47th annual meeting, Washington DC 2017/11/15
 24. Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Inoue T. Glutamatergic synaptic currents of rat jaw-closing motoneurons during transition period from sucking to chewing. Soc Neurosci abstr, 778.06/GG18, 2017, Society for Neuroscience 47th annual meeting, Washington DC, 2017/11/15
 25. 井上富雄. 三叉神経運動核背側網様体 Phox2b ニューロンの生理学的・形態学的解析. 日本咀嚼学会第 28 回学術大会, 東京, 2017/9/23
 26. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 佐藤文彦, 吉田篤, 井上誠, 井上富雄. ラット三叉神経運動核背側網様体に存在する Phox2b 陽性ニューロンの生理学的・形態学的性質. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, J Oral Biosci. Suppl. 300, 2017, 塩尻, 2017/9/17
 27. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 佐藤文彦, 吉田篤, 井上誠, 井上富雄. ラット三叉神経運動核の背側網様体に存在する Phox2b 陽性ニューロンの電気生理学的および形態学的特性は Phox2b 陰性ニューロンと異なる. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, アップデートシンポジウム, J. Oral Biosci. Suppl. 169, 2017. 塩尻, 2017/9/16
 28. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 吉田篤, 井上誠, 井上富雄. 転写因子 Phox2b を発現する三叉神経運動核背側網様体ニューロンの生理学的および形態学的解析. 日本顎口腔機能学会第 58 回学術大会, プログラム・事前抄録集 P42-43, 徳島, 2017/4/16
 29. Dantsuji M, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, Ozeki Masahiko, Inoue T. Activation of serotonin 2A receptor modulates NMDA receptor-mediated glutamate responses via Src in dendrites of rat jaw-closing motoneurons. 第 94 回日本生理学会大会, J Physiol Sci. Suppliment 1: S96, 2017, 浜松, 2017/3/28
 30. Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikawa Y, Ikeda M, Nakamura S, Nakayama K, Baba K, Inoue T. The effects of dark/light transition and sleep-wake cycles on jaw-closing masseter muscle activity level in mice. 5th Annual International Institute for Integrative Sleep Medicine (IIS) Symposium, Shinagawa, 2016/12/12
 31. Dantsuji M, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, S. K. Park, Y. J. Bae, Ozeki M, Inoue T. Serotonin modulates NMDA receptor-mediated glutamate responses through 5-HT2A receptors in dendrites of rat jaw-closing

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- motoneurons. Society for Neuroscience 46th annual meeting, San Diego, U.S.A. 2016/11/15
32. 永田愛, 中山希世美, 山口徹太郎, 槇宏太郎, 井上富雄: 咬筋運動ニューロンのシナプス入力のセロトニンによる調節. 第 75 回日本矯正歯科学会大会, 徳島, 2016/11/7-9
33. 井上富雄: マウス咬筋活動に対するシタロプログラムの効果. 日本咀嚼学会第 27 回学術大会. 広島, 2016/11/5
34. 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 井上富雄: 三叉神経運動ニューロンへのグルタミン酸性シナプス伝達機構の生後変化. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会, 仙台, 2016/10/1
35. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 井上富雄: ラット三叉神経運動核背側領域に存在する Phox2b 陽性ニューロンの電気生理学的特性. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016/8/26
36. 井川泰葉, 望月文子, 加藤隆史, 片山慶祐, 安部友佳, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: ノンレム睡眠時の咬筋活動に対するシタロプログラムの作用. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会 J. Oral Biosci. Suppl. 513, 2016, 札幌, 2016/8/26
37. 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 井上富雄: 発達期ラット三叉神経運動ニューロンへのグルタミン酸性シナプス入力. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, J. Oral Biosci. Suppl. 507, 2016, 札幌, 2016/8/26
38. 壇辻昌典, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 尾閔雅彦, 井上富雄: セロトニンは 5-HT2A 受容体を介して NMDA 受容体機能を調節し咬筋運動ニューロンのグルタミン酸応答を増大する. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2016/8/25
39. 井上富雄, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文: 覚醒制御に関わる脳内生理活性物質の三叉神経中脳路核ニューロンおよび閉口筋運動ニューロンに対する影響. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, サテライトシンポジウム 15, J. Oral Biosci. Suppl. 159, 2016, 札幌, 2016/8/24
40. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾閔雅彦, 井上富雄: Serotonergic modulation of NMDA receptor-mediated glutamate responses in the dendrites of rat jaw-closing motoneurons. 第 39 回日本神経科学大会, 横浜, 2016/7/21
41. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 鬼丸洋, 高橋浩二, 井上富雄: ラット三叉神経運動核背側領域に存在する Phox2b 陽性ニューロンの電気生理学的特性. 第 330 回昭和学士会例会, 東京, 2016/6/25
42. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾閔雅彦, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起のグルタミン酸応答に対するセロトニンの効果. 第 330 回昭和学士会例会, 東京, 2016/6/25
43. Nakayama K, Mochizuki A, Nakamura S, Inoue T. Inhibition of neuronal activities in mesencephalic trigeminal sensory neurons via orexin receptor-2 in rats. 17th international symposium of olfaction and taste. 横浜, 2016/6/7
44. 望月文子, 井川泰葉, 加藤隆史, 片山慶祐, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 井上富雄: シタロプログラムはノンレム睡眠時の咬筋活動を変調させる. 日本顎口腔機能学会第 56 回学術大会, 埼玉, 2016/4/23
45. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 経動脈灌流標本を用いた上気道及び喉頭筋を支配する神経の呼吸性活動におけるアシドーシスの影響. 第 93 回日本生理学会大会, 札幌, 2016/3/24
46. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of glutamatergic synaptic properties in rat jaw-closing motoneurons. The 93rd annual meeting of the physiological society of Japan, Symposium 24, J Physiol Sci. Supplement 1: S57, 2016, Sapporo 2016/3/22
47. 中山希世美, 玄番千夏子, 望月文子, 中村史朗, 井上富雄: ヒスタミンによるラット閉口反射の抑制. 日本顎口腔機能学会第 55 回学術大会, 大阪, 2015/11/1
48. Nakayama K, Gemba C, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Presynaptic histaminergic inhibition of synaptic transmission from mesencephalic trigeminal afferents to masseter motoneurons in juvenile rats. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/20
49. Tachikawa S, Nakayama K, Mochizuki A, Nakamura S, Kiyomoto M, Iijima T, Inoue T. Effects of hyperventilation on respiratory motor activity in nerves innervating the neck and tongue muscles. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/19
50. Nogawa Y, Mochizuki A, Katayama K, Ikeda M, Abe Y, Nakamura S, Nakayama K, Kiyomoto M, Kato T, Baba K, Wakabayashi N, Inoue T. The effects of citalopram on masseter and neck muscle activities in mice. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/18
51. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of dendritic properties in rat jaw-closing motoneurons. NANOSYMPOSIUM; Oral motor and speech, Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/17
52. 中村史朗, 梶原里紗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 井上富雄: 咬筋運動ニューロンへの興奮性シナプス伝達の生後発達. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/13
53. 玄番千夏子, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 井上美津子, 井上富雄: ヒスタミンはシナプス前 H1 受容体を介して三叉神経中脳路核から咬筋運動ニューロンへの入力を抑制する. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/13
54. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた上気道筋群の支配神経活動への CO₂ 負荷の影響. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/12
55. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾閔雅彦, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起のグルタミン酸応答に対するセロトニンの効果. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/12
56. 野川泰葉, 望月文子, 片山慶祐, 加藤隆史, 安部友佳, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: マウス咬筋および頸筋の筋活動に対するシタロプログラムの影響. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/12
57. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Glutamatergic response properties in developing jaw-closing motoneuron dendrites. 第 38 回日本神経科学大会, 神戸, 2015/7/29

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

58. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた自発呼吸に伴う頸筋支配神経活動の解析. 第322回, 昭和大学学士会例会, 東京, 2015/6/27
59. 野川泰葉, 望月文子, 片山慶祐, 安部友佳, 加藤隆史, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: シタロプラムがマウス咬筋および頸筋筋活動に及ぼす影響. 日本補綴歯科学会124回学術大会, 大宮, 2015/05/31
60. 玄番千夏子, 中山希世美, 井上富雄, 井上美津子: ラットにおける下顎反射の調節へのヒスタミンH1受容体の関与. 第53回日本小児歯科学会大会, 広島, 2015/5/21-22
61. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた自発呼吸に伴う頸筋支配神経活動の解析. 第54回日本顎口腔機能学会, 鹿児島, 2015/4/19
62. Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikeda M, Nogawa Y, Nakamura S, Nakayama K, Kiyomoto M, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Modulation of masseter activity by vigilance states and circadian rhythm. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会大会合同大会, 神戸, 2015/03/23
63. Kajiwara R, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, Inoue T. Postnatal changes of excitatory synaptic inputs in the rat masseter motoneurons. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会大会合同大会, 抄録集S163, 神戸 2015/3/21
64. Konno A, Nishimura A, Nakamura S, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T. Live imaging of apoptogenic change induced by general anesthetic neurotoxicity in developing mouse. IARS 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, program: 88 IARS 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, Honolulu, 2015/3/22
65. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Miyazaki T, Inoue T, Maki K. Age-related degradation of mouse cortical bone: implications for the α -klotho gene responsible for bone mechanical integrity in a series of nanoindentation experiments. Recent Advances in Structural Integrity Analysis: Proceedings of the International Congress (APCF/SIF-2014) 300-304, Sydney, Australia, 2014/12/10
66. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化, 第61回昭和大学学士会総会, 東京, 2014/12/6
67. Nagata S, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of dendritic properties in rat jaw-closing motoneurons. 第62回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会, 大阪, 2014/12/4
68. Nakayama K, Gemba C, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Histaminergic modulation of oral-motor activity. NANOSYMPOSIUM; Brainstem: Motor and Sensory Systems. Society for Neuroscience 44th annual meeting, Washington DC, 2014/11/18
69. 丸山範子, 柴田陽, 望月文子, 宮崎隆, 楨宏太郎: α -klotho 遺伝子欠損マウスをモデルとした加齢変化による硬組織の物理的特性. 第73回日本矯正歯科学会大会, 千葉, 2014/10/20-22
70. 片山慶祐, 望月文子, 加藤隆史, 池田美菜子, 野川泰葉, 中村史朗, 中山希世美, 若林則幸, 馬場一美, 井上富雄: マウスにおける咬筋の活動に対する明暗および睡眠-覚醒サイクルの影響. 第53回日本顎口腔機能学会学術大会, 松戸, 2014/10/4
71. 中村史朗, 長田翔子, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での入力情報処理機構の生後変化. 第56回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2014/9/27
72. 玄番千夏子, 中山希世美, 中村史朗, 望月文子, 井上美津子, 井上富雄: 三叉神経中脳路核から三叉神経運動ニューロンへのシナプス入力におけるヒスタミンの作用. 第37回日本神経科学会, 横浜 2014/9/12
73. 片山慶祐, 望月文子, 加藤隆史, 池田美菜子, 野川泰葉, 中村史朗, 中山希世美, 若林則幸, 馬場一美, 井上富雄: マウスにおける筋活動量に対する明暗および睡眠-覚醒のサイクルの影響. 日本睡眠学会第39回定期学術集会, 徳島, 2014/7/3
74. 片山慶祐, 馬場一美, 井上富雄: 明暗サイクルおよび睡眠-覚醒サイクルに伴うマウス咬筋活動の変化. 第27回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 福岡 2014/7/19
75. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化. 第5回昭和大学・東京医科歯科大学大学院交流会, 東京, 2014/7/24
76. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化. 日本顎口腔機能学会第52回学術大会, 岡山, 2014/4/20
- 1-5
1. 松井庄平, 片岡嗣雄, 深町はるか, 森崎弘史, 岡橋暢夫, 桑田啓貴: Intestinal dysbiosis elicited excessive Th2 responses induces oral dysbiosis.(第92回日本細菌学会総会, 札幌, 2019年4月)
 2. 片岡嗣雄, 松井庄平, 深町はるか, 森崎弘史, 桑田啓貴: 食物アレルギーマウスにおける腸内細菌叢のディスバイオーシスの解析(第33回日本酸化ストレス学会関東支部会, 東京, 2018年12月)
 3. 松井庄平, 片岡嗣雄, 丸岡靖史, 桑田啓貴: 食物アレルギーマウスにおける腸内細菌叢のディスバイオーシスの解析(第60回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2018年9月)
 4. Matsui, S., Kataoka, H., Maruoka, Y., Kuwata, H.: Analysis of intestinal dysbiosis in murine model of food allergy (The International Conference on Oral Immunology & Oral Microbiology, Malaysia, 2018年8月)
 5. 片岡嗣雄, 桑田啓貴: MALDI-TOF-MS analysis of gut microbiota in murine model of food allergy(第46回日本免疫学会総会・学術集会, 仙台, 2017年12月)
 6. 大田千明, 森崎弘史, 有本隆文, 深町はるか, 片岡嗣雄, 鈴木規元, 増田宜子, 宮崎隆, 桑田啓貴: *Streptococcus sanguinis* non-coding csRNAs negatively regulate the expression of type IV pilus retraction ATPase pilT and biofilm formation(第59回歯科基礎医学会学術大会, 松本, 2017年9月)
 7. *松島瞳、片岡嗣雄、岡橋暢夫、熊谷雄太郎、井上美津子、桑田啓貴: *Streptococcus oralis* 産生過酸化水素によるマクロファージの炎症性遺伝子発現制御について(第90回細菌学会総会, 仙台, 2017年3月)
 8. *岡橋暢夫、中田匡宣、桑田啓貴、川端重忠: *Streptococcus oralis* 由來の過酸化水素はマクロファージのリソソーム

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

ムを傷害する (第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016 年 8 月)

9. *嘉手納未季、桑田啓貴: メラトニンによる自然免疫系を介した炎症調節機構の解明 (第 2 回日本骨免疫学会, 沖縄, 2016 年 7 月)
- 1-6
1. 片岡真理江, 宮本洋一, 金子児太郎, 赤池孝章, 近津大地, 馬場一美, 上條竜太郎: 新規シグナル分子 8-ニトロ-cGMP は骨の成長を促進した. (第 33 回日本酸化ストレス学会関東支部会, 東京, 2018 年 12 月)
 2. 杉崎リサ, 宮本洋一, 笹清人, 吉村健太郎, 山田篤, 宇山理紗, 須澤徹夫, 近津大地, 赤池孝章, 上條竜太郎: 活性イオウ分子種は破骨細胞分化を促進する. (第 33 回日本酸化ストレス学会関東支部会, 東京, 2018 年 12 月)
 3. 今井裕子, 吉村健太郎, 宮本洋一, 茶谷昌宏, 高見正道, 上條竜太郎, 山本松男: 破骨細胞におけるモノカルボン酸トランスポーター (MCT) の役割について. (第 65 回昭和大学学士会総会, 東京, 2018 年 12 月)
 4. 瓢本玲子, 宮本洋一, 山田篤, 須澤徹夫, 笹清人, 上條竜太郎, 代田達夫. ビスホスホネートのヒト末梢血単核球に対する作用の解析. (第 65 回昭和大学学士会総会, 東京, 2018 年 12 月)
 5. 吉田優子, 山田篤, 上條竜太郎, 飯島毅彦: Cdc42 は血管透過性の制御のための標的遺伝子となることが期待される. (第 65 回昭和大学学士会総会, 東京, 2018 年 12 月)
 6. 福井梨恵, 鈴木大, 田中準一, 美島健二, 上條竜太郎, 飯島毅彦: 抗 MHC 抗体によって引き起こされる肺水腫は肺血管内皮細胞においてグリコカリックスの分解を伴う. (第 65 回昭和大学学士会総会, 東京, 2018 年 12 月)
 7. Risa Tsukuura, Yoichi Miyamoto, Ryutaro Kamijo, Daichi Chikazu: Promotion of osteoclast differentiation by reactive sulfur species. (第 182 回東京医科大学医学会総会, 東京, 2018 年 11 月)
 8. 吉田優子, 山田篤, 上條竜太郎: Cdc42 は出生後の血管形成および血管を介した骨形成に重要な役割を果たしている. (第 55 回日本口腔組織培養学会学術大会, 兵庫, 2018 年 11 月)
 9. 須澤徹夫, 糸瀬昌克, 稲垣克記, 上條竜太郎: 脂肪組織由来再生細胞を応用した膝関節半月板治療法の開発. (第 55 回日本口腔組織培養学会学術大会, 兵庫, 2018 年 11 月)
 10. Reiko Takimoto, Yoichi Miyamoto, Atsushi Yamada, Tetsuo Suzawa, Kiyohito Sasa, Tatsuo Shirota, Ryutaro Kamijo: Zoledronate promoted the expression of inflammatory cytokines in CD14+ cells in human peripheral blood mononuclear cells and inhibited their differentiation into osteoclasts. (The 66th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Sapporo, 2018.11)
 11. Rie Fukui, Dai Suzuki, Ryutaro Kamijo, Takehiko Iijima: Pulmonary edema induced by cognate anti-MHC antibody accompanies glycocalyx degradation of pulmonary vascular endothelial cells. (The 66th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Sapporo, 2018.11)
 12. Shiina Ueda, Kentaro Yoshimura, Ryutaro Kamijo: Sucrose suppressed osteoclast differentiation. (The 66th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Sapporo, 2018.11)
 13. Hiroko Imai, Kentaro Yoshimura, Yoichi Miyamoto, Masahiro Chatani, Masamichi Takami, Ryutaro Kamijo, Matsuo Yamamoto: α -Cyano-4-hydroxycinnamic acid suppresses bone resorption. (American Academy of Periodontology 104th Annual Meeting, Canada, 2018.10, Vancouver)
 14. 長山和弘, 宮本洋一, 吉村健太郎, 赤池孝章, 藤井重元, 上條竜太郎: 骨細胞様細胞における 8-nitro-cGMP の生成と機能. (第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月)
 15. Rie Fukui, Dai Suzuki, Yoshihiro Akimoto, Akira Ushiyama, Junichi Tanaka, Ryutaro Kamijo, Takehiko Iijima: Pulmonary edema induced by cognate anti-MHC antibody accompanies glycocalyx degradation. (American Society of Anesthesiologists Annual Meeting, San Francisco, 2018.10)
 16. Risa Tsukuura, Yoichi Miyamoto, Kiyohito Sasa, Daichi Chikazu, Ryutaro Kamijo: Promotion of osteoclast differentiation by reactive sulfur species. (Australian and New Zealand Bone and Mineral Society (ANZBMS) Annual Scientific Meeting, New Zealand, 2018.9)
 17. 今井裕子, 吉村健太郎, 宮本洋一, 茶谷昌宏, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: モノカルボン酸トランスポーター阻害剤 α -Cyano-4- hydroxycinnamic acid は破骨細胞の骨吸収を抑制する. (第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2018 年 9 月)
 18. 福井梨恵, 鈴木大, 秋元義弘, 牛山明, 田中準一, 飯島毅彦, 上條竜太郎: 抗 MHC 抗体によって引き起こされる肺水腫は肺血管内皮細胞においてグリコカリックスの分解を伴う. 第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 2018 年 9 月 5-7 日, 福岡
 19. 吉田優子, 山田篤, 飯島毅彦, 上條竜太郎: Cdc42 plays pivotal roles in postnatal angiogenesis and bone formation. (第 15 回 Bone Biology Forum, 千葉, 2018 年 8 月,)
 20. 加藤憲, 上條竜太郎: FGF-2 による細胞外マトリックスタンパク質 Nephronectin の発現制御機構の解明. (第 36 回日本ヒト細胞学会学術集, 東京, 2018 年 8 月)
 21. 十九浦リサ, 宮本洋一, 近津大地, 上條竜太郎: 好中球エラスターーゼによるオステオプロテゲリンの分解と破骨細胞分化. (第 36 回日本ヒト細胞学会学術集, 東京, 2018 年 8 月)
 22. 池畠美紀子, 山田篤, 吉田優子, 加藤憲, 近津大地, 上條竜太郎: 骨軟骨形成における Rho ファミリー低分子量 G タンパク質 Rac1 と Cdc42 の機能解析. (第 36 回日本骨代謝学会学術集会, 長崎, 2018 年 7 月)
 23. 吉田優子, 山田篤, 池畠美紀子, 加藤憲, 上條竜太郎: Cdc42 は出生後の血管形成および血管を介した骨形成に重要な役割を果たしている. (第 36 回日本骨代謝学会学術集会, 長崎, 2018 年 7 月)
 24. 加藤憲, 山田篤, 吉田優子, 池畠美紀子, 緒方浩顕, 上條竜太郎: 細胞外マトリックスタンパク質 Nephronectin の発現を抑制する. (第 36 回日本骨代謝学会学術集会, 長崎, 2018 年 7 月)
 25. 吉村健太郎, 笹清人, 今井裕子, 宮本洋一, 山本松男, 上條竜太郎: モノカルボン酸トランスポーターを介した骨代謝調節. (第 18 回東京骨関節フォーラム, 東京, 2018 年 7 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

26. 今井裕子, 吉村健太郎, 宮本洋一, 山田篤, 笹清人, 茶谷昌宏, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: α -cyano-4-hydroxycinnamic acid は破骨細胞の骨吸収を抑制する. 第4回日本骨免疫学会, 2018年6月24-26日. 万国津梁館, 沖縄
27. 加藤憲, 上條竜太郎: 細胞外マトリックスタンパク質 Nephronectin の Fgf-2 による発現制御機構の解明. (第72回日本口腔科学会学術集会, 愛知, 2018年5月)
28. 吉田寛, 須澤徹夫, 高橋正皓, 上條竜太郎, 横宏太郎: 鼻甲介に含まれる神経堤由来細胞の骨誘導を応用した骨移植への検討. (第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018年5月)
29. 船登咲映, 上條竜太郎: インターロイキン-1 \square 刺激後の軟骨細胞様 ATDC5 細胞における NADPH オキシダーゼに依存した細胞外基質の減少. (第71回NPO法人 日本口腔科学会学術集会, 松山, 2017年4月)
30. 馬目瑠子, 高見正道, 船津敬弘, 上條竜太郎: 抗ウイルス薬 R848 は悪性黒色腫細胞 B16F10 の骨浸潤を抑制する. (第71回NPO法人日本口腔科会学術集会, 松山, 2017年4月)
31. Asakawa T, Miyamoto Y, Yoshimura K, Kiyoto S, Hasegawa T, Chosa N, Ishizaki A, Kadena M, Manome Y, Kuritani M, Kamijo R, Funatsu T: Establishing and SDF-1 α regulation of expression on periodontal ligament cells derived from human teeth. (第55回日本小児歯科学会大会, 北九州, 2017年5月)
32. 浅川剛吉, 宮本洋一, 吉村健太郎, 笹清人, 長谷川智一, 馬目瑠子, 上條竜太郎, 杉山智美, 帖佐直幸, 石崎明, 島田幸恵: ヒト歯根膜由来細胞株の確立 -Down症候群歯根膜由来細胞とのSDF-1 発現解析-(第146回日本歯科保存学会2017年度春季学術大会, 青森, 2017年6月)
33. 上條竜太郎: 歯周病原菌・宿主由来プロテアーゼによる骨代謝制御. シンポジウム 15 一生涯噛み続けるために歯周組織を科学する. (第17回日本抗加齢医学会総会, 東京, 2017年6月)
34. Ikehata M, Yamada A, Chikazu D, Kamijo R: Wnt/ β -catenin signaling activates nephronectin expression in osteoblasts. (第179回東京医科大学医学会総会, 東京, 2017年6月)
35. 笹 清人, 吉村健太郎, 宮本洋一, 上條竜太郎: モノカルボン酸トランスポーター1(MCT1)の骨芽細胞分化における役割. (第338回昭和大学学士会例会, 東京, 2017年6月)
36. 浅川剛吉, 宮本洋一, 吉村健太郎, 笹 清人, 長谷川智一, 馬目瑠子, 上條竜太郎, 杉山智美, 帖佐直幸, 石崎 明, 島田幸恵: ヒト歯根膜由来細胞株の確立 Down症候群歯根膜由来細胞とのSDF-1 発現解析. (第146回日本歯科保存学会2017年度春季学術大会, 青森, 2017年6月)
37. 宮本洋一、船登咲映、安原理佳、吉村健太郎、金子児太郎、近津大地、美島健二、馬場一美、上條竜太郎: NADPH オキシダーゼ-2 に依存した軟骨基質の減少. (第3回日本骨免疫学会, 石垣, 2017年6月)
38. 笹 清人、吉村健太郎、宮本洋一、船登咲映、安原理佳、美島健二、上條竜太郎: NADPH オキシダーゼ依存的軟骨マトリックスの喪失. (日本酸化ストレス学会, つくば, 2017年6月)
39. 渋谷 獑, 高見正道, 中村 茂, 上條竜太郎: 免疫組織学的に解析した骨巨細胞腫における破骨細胞関連因子発現の特徴. (第35回日本骨代謝学会学術集会, 福岡, 2017年7月)
40. 金子児太郎、宮本洋一、吉村健太郎、近津大地、赤池孝章、上條竜太郎、稻垣克記: 一酸化窒素の新規下流シグナル分子 8-NO₂-cGMP による骨代謝調節. (第17回東京骨関節フォーラム, 東京, 2017年7月)
41. 笹 清人, 吉村健太郎, 宮本洋一, 稲垣克記, 上條竜太郎: モノカルボン酸トランスポーター1は骨芽細分化の新しい制御因子である. (第17回東京骨関節フォーラム, 東京, 2017年7月)
42. 吉田 寛, 須澤徹夫, 大隅典子, 横宏太郎, 上條竜太郎: マウス鼻甲介に含まれる神経堤由来細胞を用いた骨誘導法の確立. (第59回歯科基礎医学会学術大会, 塩尻, 2017年9月)
43. 蔡 優広、塩飽由香利、穴田 貴久、宮本洋一、上條竜太郎、高橋 哲、鈴木 治. 種々のリン酸カルシウム系骨補填材料が骨細胞分化に与える影響. (第16回日本再生医療学会総会, 仙台, 2017年3月)
44. 金子児太郎、星野真理江、宮本洋一、宇山理沙、近津大地、上條竜太郎. 新規内因性シグナル分子 8-ニトロ-cGMP は骨の伸長を促進する. (第53回口腔組織培養学会、金沢、2016年11月)
45. 馬目瑠子、望月文子、高見正道、上條竜太郎. TLR7 リガンドの R848 は悪性黒色腫の骨浸潤を抑制する. (第53回日本口腔組織培養学会学術大会、石川 2016年11月)
46. 長濱諒、山田篤、上條竜太郎、横宏太郎. Cdc42 は PTH シグナルを介し骨軟骨形成を制御している. (第75回日本矯正歯科学会大会、徳島、2016年11月)
47. 泉田恵理、宮本洋一、山口徹太郎、須澤徹夫、上條竜太郎、横宏太郎. 疾患特異的 iPS 細胞を用いた原発性萌出不全発症機序の解析. (第75回日本矯正歯科学会大会、徳島、2016年11月)
48. 斎藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、井上富雄、田村智彦、上條竜太郎、稻垣克記. Lyz2-Cre/loxP を用いた Irf8 遺伝子欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する. (第31回日本整形外科学会基礎学術集会、福岡、2016年10月)
49. 長濱諒、山田篤、横宏太郎、上條竜太郎. 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は PTH シグナルを介し胎生期および生後成長期の軟骨形成を制御している. (第58回歯科基礎医学会学術集会、札幌、2016年8月)
50. 船登咲映、安原理佳、宮本洋一、吉村健太郎、美島健二、馬場一美、上條竜太郎. インターロイキン-1 β で刺激した軟骨細胞による NADPH-オキシダーゼに依存した細胞外マトリックスの分解 (第58回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016年8月)
51. 金子児太郎、星野真理江、宮本洋一、赤池孝章、井田智章、藤井重元、近津大地、馬場一美、上條竜太郎. 8-NO₂-cGMP は骨の伸長を促進する内因性シグナル分子である. (第69回日本酸化ストレス学会、仙台、2016年8月)
52. 宮本洋一、金子児太郎、星野真理江、赤池孝章、井田智章、藤井重元、馬場一美、近津大地、上條竜太郎. 8-nitro-cGMP は成長板軟骨で産生される骨伸長因子である. (第69回日本酸化ストレス学会、仙台、2016年8月)
53. 長濱諒、山田篤、鈴木大、横宏太郎、上條竜太郎. 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は生後成長期の軟骨形成にお

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

いて重要である。（第34回日本骨代謝学会学術集、大阪、2016年7月）

54. 齋藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、田村智彦、稻垣克記、上條竜太郎：LysM-Cre/loxPによるIrf8欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する（第34回日本骨代謝学会学術集、大阪、2016年7月）
55. 鈴木啓明、望月文子、吉村健太郎、宮本洋一、金子児太郎、近津大地、高見正道、上條竜太郎：Bropirimineはinterferon-βの産生を介して破骨細胞分化を抑制する。（第34回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2016年7月）
56. 平沼克洋、山田篤、鈴木大、長濱諒、高見正道、上條竜太郎：Nephronectinは活性型ビタミンD3により発現が誘導される。（第34回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2016年7月）
57. Reena Rodriguez, Kentaro Yoshimura, Yoichi Miyamoto, Yo Shibata, Takashi Miyazaki, Ryutaro Kamijo：Methylglyoxal promotes formation of calcified nodules by mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells。（第34回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2016年7月）
58. 渋谷 煉、高見正道、安井哲郎、日高 亮、上條竜太郎、中村 茂：骨巨細胞腫における自然免疫機構を介した破骨細胞形成抑制の解析。（第2回日本骨免疫学会、沖縄、2016年7月）
59. Eri Izumida, Yoichi Miyamoto, Tetsutaro Yamaguchi, Ryutaro Kamijo, Koutaro Maki: FUNCTIONAL ANALYSIS OF PARATHYROID HORMONE 1 RECEPTOR MUTANTS FOUND IN PRIMARY FAILURE OF TOOTH ERUPTION. (92nd EOS Congress, Stockholm, 2016 June)
60. Yoshiko Masuda, Yoichi Miyamoto, Ryutaro Kamijo: Gene expression analysis of cultured rat endothelial cells after Nd:YAG laser irradiation by affymetrix GeneChip Array. (International Association for Dental Research (IADR) Pulp Biology Regeneration Group (PBRG) Symposium Nagoya, 2016 June)
61. 齋藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、井上富雄、Keiko Ozato、田村智彦、上條竜太郎、稻垣克記：Lyz2-Cre/loxPによるIrf8遺伝子欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する。（第328回昭和大学学士会例会、東京、2016年5月）
62. Marie Hoshino, Kotaro Kaneko, Yoichi Miyamoto, Takaaki Akaike, Kentaro Yoshimura, Dai Suzuki, Kazuhiro Nagayama, Koutaro Maki, Daichi Chikazu, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo: 8-Nitro-cGMP promotes elongation of long bones in mice. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
63. Kotaro Kaneko, Marie Hoshino, Yoichi Miyamoto, Kentaro Yoshimura, Dai Suzuki, Risa Tsukuura, Takaaki Akaike, Daichi Chikazu, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo: Reactive sulfur species promotes bone elongation. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
64. Kentaro Yoshimura, Yoichi Miyamoto, Atsushi Yamada, Testuo Suzawa, Ryutaro Kamijo: Immediate expression of NOS2 and monocarboxylate transporter-1-dependent delayed expression of NOX2 are required for interleukin-1β-induced cell death in mouse chondrocytes. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
65. 平沼克洋、上條竜太郎、飯島毅彦：活性型ビタミンD3によるNephronectinの発現制御機構の解析。（第70回NPO法人日本口腔科学会学術集会、福岡、2016年4月）
66. 齋藤 芳郎、上條竜太郎、代田達夫：顎下腺の加齢に伴う遺伝子変化の解析。（第70回NPO法人日本口腔科学会学術集会、福岡、2016年4月）
67. Nagahama R, Yamada A, Suzuki D, Maki K, kamijo R: Cdc42 is critical for cartilage development during endochondral ossification at postnatal stage. (2015 Cell Biology ASCB Annual Meeting, San Diego, December 2015)
68. Hiranuma K, Yamada A, Suzuki D, Iijima T, Kamijo R: Regulation of nephronectin gene expression by 1α, 25-Dihydroxyvitamin D3. (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
69. Izumida E, Miyamoto Y, Yamada A, Saito T, Otsu M, Yamaguchi T, Maki K, Kamijo R: Missense mutations in parathyroid hormone 1 receptor found in patients having primary failure of tooth eruption cause decreased response to parathyroid hormone. (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
70. Funato S, Yasuhara R, Miyamoto Y, Yoshimura K, Mishima K, Baba K, Kamijo R: Phagocyte-type NADPH oxidase-derived reactive oxygen species is crucial for activation of hyaluronidase and degradation of extracellular matrix in chondrocytes stimulated by interleukin-1β. (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
71. 平沼克洋、山田篤、上條竜太郎、飯島毅彦：活性型ビタミンD3による細胞外マトリックスタンパク質Nephronectinの発現制御機構の解明。（第62回昭和大学学士会総会、東京、2015年11月）
72. 長濱諒、山田篤、上條竜太郎、楳宏太郎：Cdc42遺伝子の生後成長期の軟骨形成における機能解析。（第62回昭和大学学士会総会、東京、2015年11月）
73. 泉田恵理、宮本洋一、山口徹太郎、山田 篤、大津 真、上條竜太郎、楳宏太郎：疾患特異的iPS細胞を用いた疾患発症機構の解明。（第62回昭和大学学士会総会、東京、2015年11月）
74. 船登咲映、安原理佳、宮本洋一、吉村健太郎、美島健二、馬場一美、上條竜太郎：炎症性軟骨基質減少の分子メカニズムの解明。（第62回昭和大学学士会総会、東京、2015年11月）
75. 平沼克洋、山田篤、鈴木大、飯島毅彦、上條竜太郎：Nephronectinに対する活性型ビタミンD3の発現制御機構の解析。（第52回日本口腔組織培養学会学術大会、徳島、2015年11月）
76. 長濱諒、山田篤、鈴木大、上條竜太郎、楳宏太郎：Cdc42は生後成長期の軟骨形成に重要である。（第52回日本口腔組織培養学会学術大会、徳島、2015年11月）
77. Mutuko Oshima, Atsushi Yamada, Dai Suzuki, Koutaro Maki, Ryutaro Kamijo: Cdc42 in neural crest derived cells is essential for palatal development. ANZBMS 25th Annual Scientific Meeting, Tasmania, Australia, November, 2015

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

78. Funato S, Yasuhara R, Miyamoto Y, Yoshimura K, Mishima K, Baba K, Kamijo R: Interleukin-1 β induces activation of hyaluronidase and degradation of extracellular matrix in murine chondrocytes in a phagocyte-type NADPH oxidase-derived reactive oxygen species-dependent manner. (第63回国際歯科研究学会 日本部会 総会・学術大会 (JADR 2015) 2015年10月、福岡) The JADR/GC Young Investigator Award 受賞
79. 長濱諒、山田篤、楳宏太郎、上條竜太郎 : Cdc42 is critical for postnatal cartilage development. (第63回国際歯科研究学会、福岡、2015年10月)
80. 平沼克洋、山田篤、飯島毅彦、上條竜太郎 : Expression of nephronectin is regulated by 1 α , 25-Dihydroxyvitamin D3. (第63回国際歯科研究学会、福岡、2015年10月)
81. 渋谷 熊、高見正道、榎本拓哉、松永朗裕、中村 茂、上條竜太郎 : 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫におけるCD11b陽性細胞の意義. (第30回 日本整形外科学会基礎学術集会、平成27年10月、富山)
82. 井汲憲治、須澤徹夫、吉村健太郎、上條竜太郎 : 骨/インプラント界面の静的圧縮応力に対する骨の反応 -静的圧縮の限界応力に関する研究-. (第57回歯科基礎医学会学術大会・総会、新潟、2015年9月)
83. 大島睦子、山田篤、鈴木大、楳宏太郎、上條竜太郎 : 神経堤由来細胞に発現する Rho ファミリー低分子量 G タンパク質 Cdc42 は口蓋形成に必須である. (第57回歯科基礎医学会学術大会・総会、新潟、2015年9月)
84. 星野真理江、金子児太郎、宮本洋一、近津大地、馬場一美、上條竜太郎 : 内因性活性イオウ種はマウス軟骨細胞の増殖と骨の伸長を促進した. (第33回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015年7月)
85. 大島睦子、山田篤、鈴木大、楳宏太郎、上條竜太郎 : 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は口蓋形成において重要な遺伝子である. (第33回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015年7月)
86. 渋谷 熊、高見正道、榎本拓哉、上條竜太郎、豊根知明 : 骨巨細胞腫細胞培養系におけるゾレドロン酸とデノスマップの作用機序の相違. (第48回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、高松、2015年7月)
87. 星野真理江、宮本洋一、金子児太郎、赤池孝章、近津大地、馬場一美、上條竜太郎 : 8-ニトロ-cGMP は骨伸長を促進する新規内因性シグナル分子である. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
88. 鈴木大、Bush J、上條竜太郎、Beier F : 軟骨形成における恒常活性型 Rac1 の機能解析. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
89. 山田篤、鈴木大、上條竜太郎 : Rho ファミリー低分子量 G タンパク質 Rac1 および Cdc42 の骨・軟骨形成における機能解析. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
90. 大島睦子、山田篤、楳宏太郎、上條竜太郎 : Cdc42 遺伝子の口蓋形成過程における機能解析. (第69回日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)
91. Konno A, Nishimura A, Nakamura S, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T: Live imaging of apoptogenic change induced by general anesthetic neurotoxicity in developing mice.(International Anesthesia Research Society 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, Honolulu, Hawai, U.S.A. 2015 March)
92. 黒澤珠希、山田篤、高見正道、鈴木大、守村直子、板部洋之、上條竜太郎. Oncostatin M によるネフロネクチン発現制御機構の解明. (日本薬学会第135年会、神戸、2015年3月)
93. Hoshino M, Miyamoto Y, Yoshimura K, Suzuki D, Akaike T, Mishima M, Baba K, Kamijo R: 8-Nitro-guanosine 3',5'-cyclic monophosphate mediates elongation of the growth plate cartilage in mice.(The 2014 ASCB/IFCB Meeting, December 6-11, Philadelphia, PE, U.S.A.)
94. 中山睦子、山田篤、鈴木大、相澤怜、鈴木航、馬場一美、山本松男、上條竜太郎、楳宏太郎. Cdc42 は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第61回 昭和大学学士会総会、東京、2014年12月)
95. Matsunaga A, Takami M, Kamijo R, Inagaki K: Analysis of ectopic bone-inducing capacities of BMP-2, -4, -6, and -7 in mice. (The 62nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, 大阪, 2014年12月)
96. Hoshino M, Kaneko K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Suzuki D, Akaike T, Chikazu D, Baba K, Kamijo R: Endogenously produced persulfides enhance bone elongation. (The 62nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, 大阪, 2014年12月)
97. 上條竜太郎 : 破骨細胞制御因子による癌骨転移制御. (第17回癌と骨病変研究会、東京、2014年11月)
98. 浅川剛吉、宮本洋一、吉村健太郎、長谷川智一、山下一恵、嘉手納未季、馬目瑠子、栗谷未来、上條竜太郎、船津敬弘 : ヒト Down 症乳歯根膜由来細胞の SDF-1 発現解析. 第31回 日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014年11月)
99. 浦野(森澤)絵里、高見正道、須澤徹夫、大隅典子、馬場一美、上條竜太郎 : 毛包内神経堤由来細胞は骨芽細胞様細胞への分化能を持ち破骨細胞の分化を支持する. (第37回日本分子生物学会年会、横浜、2014年11月)
100. 高橋正皓、須澤徹夫、山田篤、山口徹太郎、楳宏太郎、上條竜太郎 : 成体マウス顎下腺から分離した神経堤由来細胞の解析. (第51回日本口腔組織培養学会学術大会、福岡、2014年11月)
101. 中山睦子、山田篤、鈴木大、楳宏太郎、上條竜太郎 : Cdc42 は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第51回日本口腔組織培養学会学術大会、福岡、2014年11月)
102. 松永朗裕、高見正道、稻垣克記、上條竜太郎 : 破骨細胞による象牙質および β-TCP 製人工骨補填剤の吸収. (日本口腔組織培養学会 第51回学術大会、北九州、2014年11月)
103. 山口徹太郎、細道一善、矢野圭介、芳賀秀郷、方山光朱、中脇貴俊、富田大介、中村雅典、上條竜太郎、井ノ上逸朗、楳宏太郎 : 永久歯先天欠如の新規原因遺伝子. (第73回日本矯正歯科学会大会、千葉、2014年10月)
104. 中山睦子、山田篤、佐藤友紀、上條竜太郎、楳宏太郎 : Cdc42 は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第73回日本矯正歯科学会大会・第5回日韓ジョイントミーティング、千葉、2014年10月)
105. 榎本拓哉、高見正道、山本松男、上條竜太郎 : 骨髄、脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会、福岡、2014年9月)
106. 星野真理江、宮本洋一、吉村健太郎、田中準一、美島健二、馬場一美、上條竜太郎 : 8-ニトロ-cGMP はマウス成長

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

板の伸長を促進する内因性シグナル分子である。（第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会、福岡、2014 年 9 月）

107. Wataru Suzuki, Atsushi Yamada, Ryo Aizawa, Dai Suzuki, Shu Takeda, Matsuo Yamamoto, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo: Cdc42 is essential for cartilage development during endochondral ossification. ANZBMS 24th Annual Scientific Meeting, Queenstown, New Zealand, September, 2014
108. 松永朗裕, 高見正道, 上條竜太郎, 稲垣克記: 培養破骨細胞による β-TCP 製人工骨補填剤オスフェリオンの吸収. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
109. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎 : 骨髓, 脾臓, 血液中に存在する破骨細胞分化能をもつ細胞の解析. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
110. 鈴木航、山田篤、相澤怜、鈴木大、竹田秀、山本松男、馬場一美、上條竜太郎 : Cdc42 は軟骨分化とそれに続く軟骨内骨化に必須である. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2014 年 7 月)
111. 高橋正皓, 須澤徹夫, 山田篤, 楳宏太郎, 上條竜太郎: 成体マウス顎下線から分離した神経堤由来細胞の遺伝子発現解析. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2014 年 7 月)
112. 齋藤彰大, 吉村健太郎, 宮本洋一, 山本松男, 上條竜太郎 : ケトン体は骨芽細胞機能を調節する. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
113. 宮本 尚, 宮本洋一, 吉村健太郎, 楳宏太郎, 上條竜太郎 : グルココルチコイド系ステロイドは骨芽細胞によるアパタイト含有石灰化物形成とそのたさを向上させる. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
114. 渋谷 獻, 高見正道, 松本光史, 榎本拓哉, 松永朗裕, 浦野絵里, 上條竜太郎 : 骨巨細胞腫細胞に対する Denosumab の効果. (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
115. Saito A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Yamamoto M, Kamijo R: Modulation of osteoblast by ketone bodies. (92nd General Session & Exhibition of IADR, Cape Town, South Africa, 2014 年 6 月)
116. 増田宜子, 山口暢章, 山田嘉重, 宮本洋一, 上條竜太郎, 宮崎 隆: アルジネート印象材から創製したケイ酸セメントのラット培養歯髄細胞に対する影響について. (日本歯科保存学会 2014 年度春期学術大会 (第 140 回)、大津、2014 年 6 月)
117. 中山睦子、山田篤、佐藤友紀、上條竜太郎、楳宏太郎 : Cdc42 は口蓋形成において必須の遺伝子である. (第 38 回日本口蓋裂学会学術集会、北海道、2014 年 5 月)
118. 鈴木航, 山田篤, 馬場一美, 上條竜太郎 : 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は軟骨分化とそれに引き続く軟骨内骨化に必須である. (第 68 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014 年 5 月)

1-7

1. 黒滝優太朗, 坂井信裕, 高見正道, 丸岡靖史 高脂肪食を摂餌したマウスの切歯は伸長速度の低下と歯髄狭窄を呈する. (第 28 回日本有病者歯科医療学会総会, 2019 年 3 月, 千葉)
2. 山川智之, 清原秀一, 飯田和章, 岡松伸明, 坂井信裕, 稲垣克記, 木内祐二, 古賀貴子, 高見正道破骨細胞に高発現する未同定遺伝子の解析. (第 65 回昭和大学学士会総会, 2018 年 12 月, 東京)
3. Chatani M, Mitsuhashi A, Dodo Y, Azetsu Y, Sakai N, Kudo A, Takami M. Effects of gravity change on medaka fish hard tissues. (29th Australian and New Zealand Bone and Mineral Society (ANZBMS) ANNUAL SCIENTIFIC MEETING, 2018-Sept, New Zealand)
4. N. Sakai, N. Okamatsu, T. Negishi-Koga, A. Karakawa, M. Chatani, Y. Kiuchi, M. Takami. Administration of anti-RANKL antibody to pregnant mice results in impaired development of mammary gland and death of newborns. (18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, 2018-July, Tokyo)
5. 飯田和章, 清原秀一, 山川智之, 坂井信裕, 唐川亜希子, 木内祐二, 古賀貴子, 高見正道, 稲垣克記 パーキンソン病モデルマウスにおける骨代謝制御の解析 (第 20 回日本骨粗鬆症学会, 2018 年 10 月, 長崎)
6. 黒滝優太朗, 坂井信裕, 唐川亜希子, 茶谷昌弘, 根岸(古賀)貴子, 高見正道 脂質異常症モデルマウスは骨量減少と歯髄狭窄を発症する (第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 2018 年 9 月, 福岡)
7. 山川智之, 清原秀一, 飯田和章, 岡松伸明, 坂井信裕, 稲垣克記, 木内祐二, 古賀貴子, 高見正道 破骨細胞に高発現する未同定遺伝子の解析 (第 4 回日本骨免疫学会、2018 年 6 月, 沖縄)
8. 坂井信裕, 黒滝優太郎, 丸岡靖史, 宮崎拓郎, 宮崎章, 高見正道 レドックスに関連する脂質代謝調節分子が細胞機能に及ぼす影響の解析 (平成 29 年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究成果報告会・シンポジウム、2018 年 3 月、東京)
9. Sakai N, Okamatsu N, Karakawa A, Koga T, Takami M Administration of anti-RANKL antibody to pregnant mice results in impaired development of mammary gland and death of newborns. (The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (第 65 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会), 2017 年 11 月, 東京)
10. Kuritani M, Sakai N, Isawa M, Karakawa A, Koga T, Chatani M, Funatsu T, Takami M Anti-RANKL Antibody Administration Suppresses Bone Destruction Induced by LPS in Mice. (The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (第 65 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会), 2017 年 11 月, 東京)
11. Isawa M, Karakawa A, Sakai N, Koga T, Chatani M, Kuritani M, Shimada Y, Takami M Effects of Anti-RANKL Antibody and Zoledronate on Growth and Tooth Development in Young Mice. (The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (第 65 国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会), 2017 年 11 月, 東京)
12. 茶谷昌宏, 高見正道, 工藤明 宇宙環境利用生物学-重力・放射線の生物影響- 硬組織の恒常性維持における重力の生物学的作用 メダカの微小重力実験と加重力実験 (2017 年度生命科学系学会合同年次大会, 2017 年 11 月, 東京)
13. 栗谷未来, 坂井信裕, 根岸(古賀)貴子, 唐川亜希子, 茶谷昌宏, 高見正道, 船津敬弘 歯周病モデルマウスを用いた炎症性骨破壊に対する抗 RANKL 抗体の作用解析 (第 64 回昭和大学学士会総会, 2017 年 11 月, 東京)
14. 岡松伸明, 坂井信裕, 根岸貴子, 唐川亜希子, 高見正道, 稲垣克記, 木内祐二, 小口勝司 : 抗 RANKL 抗体が妊娠

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 妊娠マウスに与える影響. 第63回昭和大学学士会総会プログラム・抄録集 p31. (2016年11月26日, 昭和大学, 東京)
15. 佐藤ゆり絵, 坂井信裕, 唐川亜希子, 茶谷昌宏, 根岸貴子, 高見正道: 骨吸収抑制活性をもつ抗RANKL抗体を投与した妊娠マウスおよびその新生仔の解析. 第23回日本歯科医学会総会プログラム抄録集 p157 (2016年10月21~23日, 福岡国際会議場/福岡サンパレス, 福岡)【デンタル・スクーデント・プレゼンテーション 優秀賞受賞】
16. 仁科早貴, 唐川亜希子, 坂井信裕, 井澤基樹, 茶谷昌宏, 根岸貴子, 佐藤昌史, 井上美津子, 高見正道: 骨吸収抑制剤ゾレドロネートが幼若マウスの骨代謝に与える影響. 第23回日本歯科医学会総会プログラム抄録集 p157 (2016年10月21~23日, 福岡国際会議場/福岡サンパレス, 福岡)
17. 渋谷 熊, 高見正道, 上條竜太郎, 中村 茂: 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫における破骨細胞形成機序の解析. 第31回日本整形外科学会基礎学術集会抄録集 S1795 (2016年10月13~14日, 福岡国際会議場, 福岡)
18. 茶谷昌宏, 青野一志, 高見正道, 工藤 明: c-fms トランスジェニックメダカとc-fms ノックアウトメダカの駆使により明らかになった生体内破骨前駆細胞の動態. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p173 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
19. 茶谷昌宏, 北島未紀, 菊池和也, 高見正道, 工藤 明: TRAP ノックアウトメダカが示すALP活性化と骨形成の促進. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p195 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
20. 栗谷未来, 坂井信裕, 古賀(根岸)貴子, 船津敬弘, 高見正道: ラットの骨髄・骨芽細胞の共存培養系において破骨細胞分化が抑制されるメカニズム. 第2回日本骨免疫学会 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
21. 岡松伸明, 古賀(根岸)貴子, 稲垣克記, 木内祐二, 小口勝司, 高見正道: 破骨細胞分化に伴って発現する未命名遺伝子の機能解析. 第2回日本骨免疫学会 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
22. 渋谷 熊, 高見正道, 安井哲郎, 日高 亮, 上條竜太郎, 中村 茂: 骨巨細胞腫における自然免疫機構を介した破骨細胞形成抑制機序の解析. 第2回日本骨免疫学会抄録集 p103 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
23. 茶谷昌宏, 高見正道: 遺伝子改変メダカを用いた研究. 第330回昭和学士会例会(歯学部主催)プログラム p4 (2016年6月25日, 昭和大学, 東京)
24. 鈴木啓明, 望月文子, 吉村健太郎, 宮本洋一, 金子児太郎, 近津大地, 高見正道, 上條竜太郎: Bropirimineはinterferon- β の産生を介して破骨細胞分化を抑制する. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p207 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
25. 平沼克洋, 山田 篤, 鈴木 大, 長濱 謙, 高見正道, 上條竜太郎: Nephronectinは活性型ビタミンD3により発言が誘導される. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p210 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
26. 斎藤愛美, 鈴木 大, 望月文子, 須澤徹夫, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: LysM-Cre/loxPによるIrf8欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p220 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
27. 坂井信裕, 唐川亜希子, 根岸貴子, 高見正道: 抗RANKL抗体が妊娠マウスに及ぼす影響: 骨吸収抑制剤デノスマブの薬理作用解明を目的として. 第36回歯科薬物療法学会・総会 (2016年6月18日, 日本歯科大学新潟校, 新潟)
28. 森澤絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛乳頭とバルジ領域由来の神経堤細胞を用いた骨芽細胞の分化誘導. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウムプログラム・抄録集, 2016 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム, 東京, 2016年3月12日)
29. 松永朗裕, 高見正道, 入江太朗, 美島健二, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による骨補填材β-TCPの吸収メカニズム. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウムプログラム・抄録集, 2016 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム, 東京, 2016年3月12日)
30. 高見正道『破骨細胞と病態の接点～骨吸収抑制剤デノスマブの新たな可能性を含めて～』金沢大学医学系医薬保健研究域セミナー (2016年3月23日, 金沢)
31. 渋谷 熊, 高見正道, 榎本拓哉, 松永朗裕, 中村 茂, 上條竜太郎: 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫におけるCD11b陽性細胞の意義. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会 抄録集 日整会誌 (J. Jpn. Orthop. Assoc.) 89 (8) pS1668, 2015 (富山国際会議場, 富山)
32. 渋谷 熊, 高見正道, 榎本拓哉, 上條竜太郎, 豊根知明: 骨巨細胞腫細胞培養系におけるゾレドロン酸とデノスマブの作用機序の相違. 第48回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 抄録集 日整会誌 (J. Jpn. Orthop. Assoc.) 89 (6) pS1379, 2015 (かがわ国際会議場, 高松, 2015年7月9~10日)
33. 甲山尚香, 佐藤ゆり絵, 唐川亜希子, 坂井信裕, 古賀貴子, 高見正道: 抗RANKL抗体が若齢マウスの骨に及ぼす影響: ゾレドロネートとの比較. 第132回日本薬理学会関東部会 (明海大学, 千葉 2015年7月4日)
34. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄・脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム プログラム・抄録集, p34, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム, 東京,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2015年3月)

35. 須澤徹夫, 高橋正皓, 小野美樹, 浦野絵里, 高見正道, 山田 篤, 宮本洋一, 馬場一美, 横 宏太郎, 上條竜太郎: 顎口腔組織の神経堤由来細胞を応用了した骨再生法の開発. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム プログラム・抄録集, p57, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム, 東京, 2015年3月)
36. 森澤絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛包由來の神経堤細胞を用いた骨芽細胞分化誘導. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム プログラム・抄録集, p60, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム, 東京, 2015年3月)
37. 秋山智人, 宮本洋一, 吉村健太郎, 山田 篤, 高見正道, 安原理佳, 今村隆寿, 秋山知恵, 星野真理江, 幸田 力, 田中和生, 美島健二, 馬場一美, 上條竜太郎: 歯周病原菌毒素プロテアーゼによる炎症性骨破壊. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム プログラム・抄録集, p75, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム, 東京, 2015年3月)
38. 松永朗裕, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による象牙質およびβ-TCP製人工骨補填剤の吸収. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム プログラム・抄録集, p76, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム, 東京, 2015年3月)
39. 高見正道『破骨細胞の科学』第67回昭和大学学士会総会 教育講演 (2015年11月28日)
40. 榎本拓哉, 高見正道, 上條竜太郎, 山本松男: 骨髄, 脾臓および血液に存在する破骨前駆細胞の解析. (第317回昭和大学学士会例会, 東京, 2014年6月)
41. 森澤(浦野)絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 上條竜太郎, 馬場一美: 毛包の神経堤由来細胞を用いた骨芽細胞分化誘導. (第317回昭和大学学士会例会, 東京, 2014年6月)
42. 松永朗裕, 高見正道, 上條竜太郎, 稲垣克記: 培養破骨細胞によるβ-TCP製人工骨補填剤オスマリオの吸収. 第32回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p247, 2014 (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
43. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄, 脾臓, 血液中に存在する破骨細胞分化能をもつ細胞の解析. 第32回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p257, 2014 (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
44. 渋谷 勲, 高見正道, 松本光史, 榎本拓哉, 松永朗裕, 浦野絵里, 上條竜太郎: 骨巨細胞腫細胞に対するDenosumabの効果. 第32回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p318, 2014 (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)【三共(株)ニュースレターに紹介】
45. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄, 脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. 第56回歯科基礎医学会学術大会・総会プログラム抄録集, p55, 2014 (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014年9月)【優秀ポスター賞受賞】
46. 唐川亜希子, 坂井信裕, 栗谷未来, 高見正道, 諸橋富夫: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈および骨出血に対するヘムコンデンタルドレッシング(R)の止血効果. 第56回歯科基礎医学会学術大会・総会プログラム抄録集, p58, 2014 (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014年9月)
47. 松永朗裕, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による象牙質およびβ-TCP製人工骨補填剤の吸収. 口腔組織培養学会誌, 24 (1) : 3-4, 2014 (第51回日本口腔組織培養学会学術大会, 福岡, 2014年11月)
48. 浦野(森澤)絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 大隅典子, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛包内神経堤由来細胞は骨芽細胞様細胞への分化能を持ち破骨細胞の分化を支持する. 第37回日本分子生物学会年会プログラム, p238, 2014 (第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月)
49. 唐川亜希子, 坂井信裕, 栗谷未来, 井澤基樹, 船津敬弘, 井上美津子, 高見正道, 諸橋富夫: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈および骨出血に対するヘムコンデンタルドレッシング(R)の止血効果. 第37回日本分子生物学会年会プログラム, p348, 2014 (第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月)
50. 唐川亜希子, 坂井信裕, 諸橋富夫, 高見正道: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈出血および骨出血に対するキトサン含有止血材の効果. 第61回昭和大学学士会総会プログラム抄録集, p45, 2014 (第61回昭和大学学士会総会, 東京, 2014年12月)
51. 松永朗裕, 高見正道, 入江太郎, 美島健二, 上條竜太郎, 稲垣克記: 破骨細胞によるβ-TCP製人工骨補填剤の吸収機構. 第61回昭和大学学士会総会プログラム抄録集, p57, 2014 (第61回昭和大学学士会総会, 東京, 2014年12月)
52. 松永朗裕, 高見正道, 山田 篤, 上條竜太郎, 稲垣克記: 骨形成タンパク質BMP-2,4,6,7が有する異所性骨形成誘導活性の解析. 第61回昭和大学学士会総会プログラム抄録集, p57, 2014 (第61回昭和大学学士会総会, 東京, 2014年12月)
53. 高見正道: 中部大学応用生物学部応用生物化学科公開セミナー「破骨細胞制御による骨疾患治療の最前線」(中部大学, 春日井市, 2014年4月)
54. 高見正道: 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門公開講座「骨吸收抑制剤と顎骨壞死」(昭和大学, 東京, 2014年6月)
55. 高見正道, 榎本拓哉, 山本松男, 上條竜太郎: 破骨細胞の前駆細胞形成における骨芽細胞と炎症性刺激の役割. 第56回歯科基礎医学会学術大会・総会サテライトシンポジウム プログラム抄録集, p39, 2014 (第56回歯

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

科基礎医学学会学術大会・総会、福岡、2014年9月)

《プロジェクト2》

2-1

1. *L Osakabe, B Saito, A Utsumi, T Nakamaki, S Hironaka: Detection of Microbial Substitution in the Oral Cavity of Patients Undergoing Hematopoietic Stem Cell Transplantation with Vitek Mstm : 2017 BMT Tandem Meetings; Biology of Blood and Marrow Transplantation 23(3):S193-94 Orlando, Florida, USA February 2017
2. シンポジウム1 大学病院で行う周術期口腔機能管理：演者3 内海明美 「昭和大学における周術期口腔機能管理」、口腔衛生学会雑誌 67巻増刊号：p64-67, 2017.5月,山形
3. 刑部 月、内海明美、斎藤文護、弘中祥司、中牧 剛：VITEK MS で同定した造血幹細胞移植前後の口腔内細菌叢の変化と口腔粘膜障害の関連、第39回日本造血幹細胞移植学会総会プログラム集 p194,2017.3月,島根
4. 市田賀子、大田千央、鶴澤 建、石原弘基、肥田翔吾、弘中祥司、石川健太郎、内海明美：咬筋を指標とした新たな口腔機能評価法の試み、日本歯科医師会雑誌 ,69 (5) ,517,2016.10月,福岡
5. 弘中祥司：筋萎縮性側索硬化症患者に対する多職種連携による経口摂取の試み、日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 27回 Page274, 2016.6月,徳島
6. 中野 学、森田 優、石川健太郎、大岡貴史、若林裕之、山内恒治、阿部文明、弘中祥司：抗菌成分ラクトフェリン+ラクトパーオキシダーゼ配合食品の口腔衛生改善効果の検討、日本歯科衛生学会雑誌 10巻 1号 Page121, 2015.9月札幌
7. 内海明美、木ノ内ひろ子、路川 環、山崎卓磨、森下美智子、佐藤恭子、依田光正、弘中祥司：大学病院における嚥下ケアチームの現状と口腔ケアセンター連携への課題、第21回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術学会プログラム Page150 2015.9月,京都
8. 枝広あや子、平野浩彦、渡邊 裕、小原由紀、白部麻樹、本川佳子、高城大輔、弘中祥司：認知症高齢者の摂食嚥下機能と栄養状態の変化—FAST ステージ別の検討—、第21回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術学会プログラム Page164,2015.9月,京都
9. 高城大輔、村上浩史、弘中祥司：アルツハイマー型認知症高齢者の口腔・嚥下機能と骨格筋量の関係、昭和学士会雑誌(2187-719X)75巻 4号 Page499(2015.08),2015.6月,東京
10. 桑澤実希、村山隆夫、長崎理佳、吉田佳織、横塚あゆ子、久保田一見、石川健太郎、石崎晶子、関谷弥千、岡田 征彦、石川万里子、小川貴正、椿田健介、西内智紀、松村圭祐、寺澤真祐美、丸岡靖史、佐藤裕二、弘中 祥司：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院における口腔ケアセンター活動報告(2014年度)、昭和学士会雑誌 75巻 4号 Page494-495, 2015.6月東京
11. 高城大輔、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、白部麻樹、大渕修一、吉田英世、藤原佳典、河合 恒、金憲経、井原一成、弘中祥司：地域在住高齢者の食欲減退がサルコペニアに及ぼす影響 食欲指標(SNAQ)を用いた検討、老年歯科医学(0914-3866)30巻 2号 Page104-105(2015.09)横浜
12. 高城大輔、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、白部麻樹、大渕修一、吉田英世、村上浩史、弘中 祥司：地域在住高齢者における食欲減退の関連因子に関する検討 基本チェックリストを用いた検討、老年歯科医学(0914-3866)30巻 2号 Page149-150(2015.09)横浜
13. 枝広あや子、平野浩彦、渡邊 裕、弘中祥司、小原由紀、森下志穂、高城大輔、白部麻樹：認知症高齢者の口腔機能の経時変化 FAST を基準にした縦断調査からの検討,老年歯科医学(0914-3866)30巻 2号 Page194-195(2015.9)横浜
14. 山口麻子、日山邦枝、丸岡靖史、佐藤裕二、上杉雄大、野末真司、原田由香、弘中祥司、高橋浩二：精神科病棟における窒息と誤嚥性肺炎予防の取り組み,老年歯科医学(0914-3866)30巻 2号 Page216(2015.09)横浜
15. 大岡貴史、弘中 祥司、向井美恵：周術期患者における転帰と口腔衛生状態との関連、口腔衛生学会雑誌 65巻 2号 Page241, 2015.5月つくば市
16. 村山隆夫、八十篤聰、吉田佳織、横塚あゆ子、長崎理佳、中村泰介、石川健太郎、久保田一見、石崎晶子、石田 圭吾、鈴木恵美、弘中祥司、鳴根俊和、丸岡靖史：当院頭頸部悪性腫瘍治療における口腔ケアのプロトコールとその効果,昭和学士会 74巻 6号 Page706, 2014.12月東京
17. 石崎晶子、久保田一見、柴田由美、桑澤実希、野村佳世、村上浩史、小出洋子、横塚あゆ子、日山邦枝、鈴木恵美、向井美恵、弘中祥司：歯科室のない大学附属病院における5年間の入院患者への口腔ケアに関する実態、障害者歯科 35巻 3号 Page293, 2014.9月仙台
18. 大岡貴史、弘中祥司：口腔保湿剤の除去方法に関する基礎的研究、障害者歯科 35巻 3号 Page562, 2014.9月仙台
19. 石川健太郎、村山隆夫、中川量晴、久保田一見、石崎晶子、村上浩史、吉田佳織、横塚あゆ子、向井美恵、弘中 祥司：口腔ケアクリニカルパスを用いた周術期の口腔衛生管理 対象者の口腔内の実態老年歯科医学 29巻 2号 Page195-196, 2014.6月福岡
20. 吉田佳織、石川健太郎、村山隆夫、久保田一見、石崎晶子、村上浩史、横塚あゆ子、鈴木恵美、弘中祥司：多職種協働による周術期口腔機能管理 頭頸部悪性腫瘍患者における歯科衛生士の取り組み 老年歯科医学 29巻 2号 Page224, 2014.6月福岡
21. 大岡貴史、森田 優、高城大輔、渡邊賢礼、内海明美、久保田一見、弘中祥司、向井美恵：周術期における口腔衛生状態の問題と病原微生物叢の変化、口腔衛生学会雑誌 64巻 2号 Page234, 2014.5月熊本
22. 高城大輔、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、村上正治、村上浩史、弘中祥司：地域在住高齢者の咀嚼機能低下と咀嚼困難感の背景因子の検討,老年歯科医学(0914-3866)29巻 2号 Page140(2014.09)
23. 高城大輔、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、大堀嘉子、村上浩史、弘中祥司：アルツハイマー型認知症高齢者の摂食嚥下機能と栄養状態に関する報告 低栄養リスク因子の検討,老年歯科医学

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

(0914-3866)29巻2号 Page178-179(2014.09)

24. 石川健太郎, 内海明美, 久保田一見, 石崎晶子, 石田圭吾, 中川量晴, 向井美恵, 弘中祥司: 周術期口腔機能管理の保険導入による大学病院口腔ケアセンターの活動の変化, 口腔衛生学会雑誌 64巻2号 Page234, 2014. 5月熊本
25. 吉田佳織, 石川健太郎, 村山隆夫, 久保田一見, 石崎晶子, 村上浩史, 橋塚あゆ子, 鈴木恵美, 弘中祥司: 多職種協働による周術期口腔機能管理 頭頸部悪性腫瘍患者における歯科衛生士の取り組み, 老年歯科医学(0914-3866)29巻2号 Page224(2014.09)
26. 大岡貴史, 森田 優, 高城大輔, 渡邊賢礼, 内海明美, 久保田一見, 弘中祥司, 向井美恵: 周術期における口腔衛生状態の問題と病原微生物叢の変化, 口腔衛生学会雑誌(0023-2831)64巻2号 Page234(2014.04)
27. 石川健太郎, 内海明美, 久保田一見, 石崎晶子, 石田圭吾, 中川量晴, 向井美恵, 弘中祥司: 周術期口腔機能管理の保険導入による大学病院口腔ケアセンターの活動の変化, 口腔衛生学会雑誌(0023-2831)64巻2号 Page234(2014.04)
28. 遠藤由美子, 大岡貴史, 弘中 祥司, 杉山智美, 松橋一彦, 阿部祥英, 田角 勝, 向井美恵, 井上美津子: 小児における呼吸器疾患患者の口腔内病原微生物の検討, 小児歯科学雑誌 52巻2号 Page301, 2014.5月東京

2-2

1. 角 保徳 口腔乾燥症の方が快適に使える新しい義歯安定剤「ピタッと快適ジェル」 (ワールドデンタルショーセミナー 2018.10.7 横浜市)
2. 角 保徳 歯科衛生士が実施できるフッ化ジアンミン銀を用いた残根処理方法 (日本歯科衛生学会 第13回学術大会 セミナー 2018.9.17 福岡市)
3. 角 保徳 口腔乾燥患者が快適に使用できる新しい義歯安定剤 (日本老年歯科医学会 第29回学術大会 セミナー 2018.6.22 東京都)
4. 板津遼子, 大野友久, 守谷恵未, 佐藤裕二, 角 保徳. 口腔乾燥症患者のために新たに開発した義歯安定剤の物性評価. (一般社団法人日本老年歯科医学会第29回学術大会. 2018.6.22-23. 品川)
5. 西澤有生、守谷恵未、大野友久、松山美和、角 保徳；歯科衛生士が実施できる新たな残根処理方法の開発：(一般社団法人日本老年歯科医学会第29回学術大会 2018.6.22.東京都)
6. 角 保徳 口腔乾燥患者が快適に使用できる新しい義歯安定剤 (日本補綴歯科学会第127回学術大会 セミナー 2018.6.16 岡山市)
7. 角 保徳、大野友久、守谷恵未；実践！「水を使わない口腔ケア」口腔ケア中に誤嚥が心配な患者さんへ (第15回日本口腔ケア学会総会・学術大会ハンズオンセミナー 2018.4.29 福岡市)
8. 角 保徳 医師・看護師・コメディカルスタッフに知ってほしい口腔の知識と口腔ケア (第3回患者家族メンタル支援学会 会長講演 2017.10.28 名古屋市)
9. 角 保徳 化粧・整容療法による要介護高齢者の口腔機能、認知機能とQOLの維持・向上. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)
10. 角 保徳 超高齢社会の到来と歯科医療の将来展望 (日本歯科保存学会 2016年度秋季学術大会(第145回) 特別講演 2016.10.27 松本市)
11. 藤沢汐里、三澤美幸、田中春菜、秋枝俊江、石原紀彰、黒田たまき、木村莉子、那須小夢樹、植松紳一郎、河瀬瑞穂、藤田恵未、岡田芳幸、大野友久、角 保徳、小笠原正；粘膜清拭による細菌減少状態. (第34回日本障害者歯科学会総会および学術大会. 2017.10.27-28.福岡市)
12. 角 保徳 超高齢社会の到来と歯科医療のパラダイムシフト (第23回 日本歯科医学会総会 セミナー 2016.10.23 福岡市)
13. 角 保徳 「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア (日本デンタルショー2016 福岡 2016.10.22 福岡市)
14. 守谷恵未、角 保徳 口腔ケア時の誤嚥予防を考慮した「水を使わない口腔ケア」～誤嚥が心配な患者さんへの対応～ ランチョンセミナー (第22回摂食嚥下リハビリテーション学会 2016.9.23 新潟市)
15. 守谷恵未、松山美和、大野友久、小笠原 正、松尾 浩一郎、道脇幸博、岩渕博史、角 保徳；口腔ケア時の誤嚥予防の試み—口腔ケア用ジェルの新規開発 除去性の評価—. (第23回摂食嚥下リハビリテーション学会. 2017.9.15. 千葉市)
16. 梶原美恵子、松山美和、守谷恵未、松尾貴央、大野友久、角 保徳；口腔ケア用ジェルと吸引嘴管を使用した専門的口腔ケアによる口腔細菌数の変化: 第3報 口腔衛生不良者の変化. (第23回摂食嚥下リハビリテーション学会. 2017.9.15. 千葉市)
17. 宮原康太、秋枝俊江、伊沢正行、西山孝宏、脇本仁奈、島田茂、大野友久、角 保徳、長谷川博雅、柿木保明、岡田芳幸、小笠原正. ジェル使用の粘膜ケアによる剥離上皮膜の形成予防効果. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)
18. 石原紀彰、宮原康太、小島広臣、高井経之、松村康平、伊沢正行、島田茂、大野友久、角 保徳、長谷川博雅、柿木保明、岡田芳幸、小笠原正. 口腔ケアで咽頭の付着物を予防できるか. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)
19. 木下絵里加、松尾浩一郎、松木里沙、鈴木瞳、坂本仁美、中川量晴、谷口裕重、守谷恵未、大野友久、角 保徳. 持続的吸引を行った口腔ケア中の口腔内細菌数の変化. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)
20. 松木里沙、松尾浩一郎、木下絵里加、鈴木瞳、藤田未来、中川量晴、谷口裕重、守谷恵未、大野友久、角 保徳. 急性期病院で口腔衛生管理を行った患者の口腔環境に経口摂取の有無が与える影響. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

21. 澤田しのぶ, 守谷恵未, 大野友久, 角 保徳, 岩渕博史. 誤嚥リスクの高い患者に対する口腔ケアジェルを用いた超音波スケーラーによる口腔管理の探索的検討. (第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017.6.15 名古屋市)
22. 梶原美恵子, 松山美和, 守谷恵未, 松尾貴央, 大野友久, 角 保徳. 経管栄養高齢患者に対する口腔ケア用ジェルと吸引嘴管を使用した専門的口腔ケアによる口腔細菌数の変化 —第2報 ランダム化比較研究—. (第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2016.9.23 新潟市)
23. 角 保徳, 守谷恵未; 口腔管理の実際 1 専門的口腔ケアの標準化 『水を使わない口腔ケア』実技. (第27回日本老年歯科医学会学術大会. ハンズオンセミナー. 2016.6.18. 徳島市)
24. 松木里沙, 松尾浩一郎, 木下絵里加, 渡邊理沙, 鈴木瞳, 藤田未来, 中田悠, 守谷恵未, 大野智久, 角 保徳. 急性期病院における経口摂取の有無と口腔衛生状態との関連性. (日本歯科衛生学会第11回大会. 2016 広島市)
25. 澤田しのぶ, 守谷恵未, 角 保徳, 岩渕博史. 口腔ケアジェルを用いた周術期口腔機能管理の検討. (第13回日本口腔ケア学会学術大会. 2016.4.23)
- 2-3
- Shimada K, Masuo Y, Fujita K, Sasaki Y, Kato Y. Cytotoxic effects of tyrosine kinase inhibitors in keratinocytes and their possible relevance to ABC transporters (International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX Kanazawa, October, 2018)
 - Al-shammari A H, Masuo Y, Fujita K, Kubota Y, Sasaki Y, Kato Y. Accumulation of active metabolite of anticancer agent regorafenib involves nonlinear hepatic distribution after repeated dose (International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Kanazawa, October, 2018)
 - Ohba M, Toya E, Arata S, Yamaoka T, Irie K, Sasaki Y. 10-methyl-aplog-1 enhances the cytotoxic effects of HDAC inhibitor in esophageal squamous carcinoma cells (第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, Kobe, July, 2018)
 - Fujita K, Mori D, Ishida H, Mizuno T, Maeda K, Sasaki Y, Kusuhara H. Assessment of paclitaxel-induced OATP1B inhibition in patients with non-small cell cancer by using endogenous substrates (第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, Kobe, July, 2018)
 - Nakatani K, Yamaoka T, Ohmori T, Ohba M, Fujita K, Taki I, Kamei D, Iwai S, Sasaki Y. Resistance mechanisms to third-generation epidermal growth factor receptor (EGFR) tyrosine kinase inhibitors in lung adenocarcinoma cells harboring the EGFR-T790M mutation (18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, Kyoto, July, 2018)
 - 藤田健一, Ellawatty W EA, 増尾友佑, 石田博雄, 佐々木康綱, 加藤将夫. 有機カチオントランスポーター1はチロシンキナーゼ阻害薬であるバゾパニブの肝取り込みに関与する (第38回日本臨床薬理学会学術総会, 横浜, 2017年12月)
 - Mori D, Ishida H, Mizuno T, Fujita K, Kusumoto S, Maeda K, Sasaki Y, Kusuhara H. Assessment of drug-drug interaction potency against OATP1B with paclitaxel using an endogenous substrate as an alternative probe (日本薬物動態学会第32回年会, Tokyo, November, 2017)
 - Seba N, Masuo Y, Fujita K, Nakamichi N, Sasaki Y, Kato Y. Characterization of OATP1B1 inhibition by indole metabolites (日本薬物動態学会第32回年会, Tokyo, November, 2017)
 - Hasan A, Masuo Y, Fujita K, Yamazaki E, Kubota Y, Nakamichi N, Sasaki Y, Kato Y. Involvement of ABC drug transporters in disposition of tyrosine kinase inhibitor regorafenib and its active metabolites after repeated oral dose (日本薬物動態学会第32回年会, Tokyo, November, 2017)
 - 島田和弘, 増尾友佑, 藤田健一, 山崎絵里名, 久保田祐太郎, 中道範隆, 佐々木康綱, 加藤将夫 Keratinocyte における膜輸送体の発現とレゴラフェニブ分布に及ぼす影響, (日本薬学会北陸支部第129回例会, 金沢, 2017年11月)
 - 大場基, 外谷衣都子, 荒田悟, 山岡利光, 入江一浩, 佐々木康綱. 10-methyl-aplog-1は、HDAC阻害剤の抗腫瘍効果を増強する (第76回日本癌学会学術総会, 横浜, 2017年9月)
 - 藤田健一, 増尾友佑, 山崎絵里名, 濵谷俊紀, 中道範高, 佐々木康綱, 加藤将夫. レゴラフェニブと活性代謝物の体内動態解析とABC輸送担体の関与 (第37回日本臨床薬理学会学術総会, 米子, 2016年12月)
 - 藤田健一, 増尾友佑, 山崎絵里名, 濵谷俊紀, 中道範高, 佐々木康綱, 加藤将夫. レゴラフェニブと活性代謝物の体内動態解析とABC輸送担体の関与 (第37回日本臨床薬理学会学術総会, 米子, 2016年12月)
 - 佐々木康綱 シンポジウム 16: 本邦における口腔支持療法のこれから: 本邦における口腔支持療法の現状と課題 (第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016年7月)
- 2-4
- 馬場 勇太, 斎藤 文護, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 阿部 真麻, 村井 聰, 藤原 峻, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 中牧 剛: 心タンポナーデで発症し経時に変化する不整脈を伴ったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第9回日本血液学会関東甲信越地方会(2018.07.埼玉)
 - 佐々木 陽平, 服部 憲路, 中田 彩香, 島田 翔太郎, 馬場 勇太, 阿部 真麻, 綿貫 めぐみ, 村井 聰, 川口 有紀子, 藤原 峻, 荒井 奈々, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 斎藤 文護, 原田 浩史, 中牧 剛: 節外性Diffuse large B cell lymphoma 118例の蛋白発現の検討. 第80回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
 - 馬場 勇太, 斎藤 文護, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 阿部 真麻, 村井 聰, 藤原 峻, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 中牧 剛: 低リスク骨髄異形成症候群における予後因子としてのC反応性蛋白. 第80回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
 - 川口 有紀子, 服部 憲路, 中田 彩香, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 村井 聰, 阿部 真麻, 綿貫 めぐみ, 馬場 勇太, 藤原 峻, 荒井 奈々, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 斎藤 文護, 原田 浩史, 中牧 �剛: 低悪性度リンパ腫およびマントル細胞リンパ腫におけるベンダムスチン投与後のリンパ球数推移の検討. 第80回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
 - 島田 翔太郎, 斎藤 文護, 中田 彩香, 佐々木 陽平, 阿部 真麻, 馬場 勇太, 村井 聰, 綿貫 めぐみ, 荒井 奈々,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 川口 有紀子, 藤原 峻, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 中牧 剛: 同種造血幹細胞移植後、腸管気腫症を発症した急性骨髓性白血病. 第 80 回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
6. 藤原 峻, 原田 浩史, 中田 彩香, 佐々木 陽平, 島田 翔太郎, 阿部 真麻, 馬場 勇太, 村井 聰, 綿貫 めぐみ, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 斎藤 文護, 中牧 剛: レナリドマイドとデキサメサゾンで治療した重度の末梢神経障害を伴った POEMS 症候群. 第 80 回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
7. 蒲澤 宣幸, 斎藤 文護, 中田 彩香, 佐々木 陽平, 島田 翔太郎, 阿部 真麻, 村井 聰, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 川口 有紀子, 荒井 奈々, 藤原 峻, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 本間 まゆみ, 塩沢 英輔, 矢持 淑子, 原田 浩史, 瀧本 雅文, 中牧 剛: 急速に進行し致死的転帰を辿った TAFRO 症候群. 第 80 回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
8. 村井 聰, 服部 憲路, 中田 彩香, 佐々木 陽平, 阿部 真麻, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 藤原 峻, 蒲澤 宣幸, 宇藤 唯, 塚本 裕之, 柳沢 孝次, 斎藤 文護, 原田 浩史, 中牧 剛: 原発および再発中枢神経系びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者における MYD88 L265P 変異. 第 80 回日本血液学会学術集会(2018.10.大阪)
9. 馬場 勇太, 斎藤 文護, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 村井 聰, 阿部 真麻, 藤原 峻, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 中牧 剛: 骨髄異形成症候群における鉄代謝障害の指標として赤血球容積分布幅. 第 42 回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会 (2018.09.金沢)
10. 馬場 勇太, 斎藤 文護, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 村井 聰, 阿部 真麻, 藤原 峻, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 中牧 剛: 骨髄異形成症候群における赤血球容積分布幅と臨床経過の関係. 第 345 回昭和大学学士会例会(2018.05.東京)
11. 川口 有紀子, 服部 憲路, 佐々木 陽平, 島田 翔太郎, 綿貫 めぐみ, 阿部 真麻, 村井 聰, 馬場 勇太, 藤原 峻, 荒井 奈々, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 斎藤 文護, 柳沢 孝次, 中牧 剛: 予後不良因子を有する慢性型成人T細胞性白血病にレナリドマイドが著効した 1 例. 第 8 回日本血液学会関東甲信越地方会(2018.03.東京)
12. 川口 有紀子, 塩沢 英輔, 岡本 奈央子, 蒲澤 宣幸, 本間 まゆみ, 斎藤 文護, 矢持 淑子, 中牧 剛, 瀧本 雅文: 濾胞性リンパ腫における画像解析ソフトを用いた Ki-67 発現の計測と予後の関連についての検討. 第 344 回昭和大学学士会例会(2018.02.東京)
13. 藤村 真理, 遠藤 佑香, 立石 裕子, 功刀 早沙, 小山 彩子, 岩村 ちなみ, 内田 宏美, 斎藤 文護, 中牧 剛: 血液製剤由来の移行抗体により HBs 抗体および HBe 抗体が陽性化した 1 症例. 第 66 回日本輸血・細胞治療学会総会 (2018.05.栃木)
14. 馬場勇太、斎藤文護、島田翔太郎、佐々木陽平、村井 聰、阿部真麻、綿貫めぐみ、藤原峻、荒井奈々、川口有紀子、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤 唯、有泉裕嗣、柳沢孝次、服部憲路、原田浩史、中牧 剛: ALL に対する CBT 後 14 年目に発症した古典的ホジキンリンパ腫型移植後リンパ増殖性疾患. 第 40 回日本造血細胞移植学会 (2018.02.札幌)
15. Norimichi Hattori, Bungo Saito, Yohei Sasaki, Shotaro Shimada, Yuta Baba, Megumi Watanuki, So Murai, Maasa Abe, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki: Immune reconstitution after KIR ligand incompatibility UCBT for three cases of malignant lymphoma. 第 40 回日本造血細胞移植学会 (2018.02.札幌)
16. 川口有紀子、服部憲路、佐々木陽平、島田翔太郎、綿貫めぐみ、阿部真麻、村井 聰、馬場勇太、藤原 峻、荒井奈々、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤 唯、柳沢孝次、斎藤文護、原田浩史、福地邦彦、中牧 剛: 経過中に髄外腫瘍の再燃を繰り返した c-kit 遺伝子変異を有する t(8;21)白血病の 1 例. 第 40 回日本造血細胞移植学会 (2018.02.札幌)
17. 村井 聰、斎藤文護、阿部真麻、馬場勇太、綿貫めぐみ、荒井奈々、川口有紀子、藤原 峻、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤 唯、有泉裕嗣、柳沢孝次、服部憲路、中牧 剛: 脊髄血移植後早期に中枢神経系再発をした進行期節外性 NK/T 細胞リンパ腫、鼻型の 1 例. 第 40 回日本造血細胞移植学会 (2018.02.札幌)
18. Naoko Okamoto, Mayumi Homma, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Yui Uto, Shohei Yamamoto, Norimichi Hattori, Eisuke Shiozawa, Toshiko Yamochi, Keiichi Isoyama, Tsuyoshi Nakamaki, and Masafumi Takimoto : Differential Expression of IL-17 Correlates with Clinical and Pathological Features of ITP. 59th ASH Annual Meeting (Dec 9-12, 2017, Atlanta, GA)
19. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Yohei Sasaki, Shotaro Shimada, Maasa Abe, So Murai, Yuta Baba, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, and Tsuyoshi Nakamaki : High-Dose Ara-C, Carboplatin, Etoposide, and Steroids (ACES) Is Effective in Relapse and Refractory Non-Hodgkin Lymphoma. 59th ASH Annual Meeting (Dec 9-12, 2017, Atlanta, GA)
20. Yukiko Kawaguchi, Bungo Saito, Yohei Sasaki, Shotaro Shimada, Megumi Watanuki, Maasa Abe, So Murai, Yuta Baba, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Eisuke Shiozawa, Masafumi Takimoto, and Tsuyoshi Nakamaki: Increased C-Reactive Protein Level Is Associated with Poor Prognosis in Patients with Follicular Lymphoma Treated with Rituximab-Containing Regimens. 59th ASH Annual Meeting (Dec 9-12, 2017, Atlanta, GA)
21. 中牧 剛, 島田 翔太郎, 佐々木 陽平, 村井 聰, 阿部 真麻, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 藤原 峻, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 斎藤 文護, 魚住 祥二郎, 下間 祐, 吉田 仁, 塩沢 英輔, 瀧本 雅文 : 胃静脈瘤を合併した JAK2V617F 変異陽性骨髓増殖性腫瘍の 1 例. 第 7 回日本血液学会関東甲信越地方会

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

(2017.07、長野)

22. Shotaro Shimada, Norimichi Hattori, Yohei Sasaki, Yuta Baba, So Murai, Maasa Abe, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Kunihiko Fukuchi, Tsuyoshi Nakamaki : Splenic marginal zone lymphoma uncovered after a 8-year follow up as autoimmune hemolytic anemia. 第79回日本血液学会学術集会 (2017.10.東京)
23. 阿部 真麻, 斎藤 文護, 村井 聰, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 蒲澤 宣幸, 宇藤 唯, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 中牧 剛: 脾帶血移植が有効であった腸管型 Bechet 病を伴う複雑核型の骨髄異形成症候群. 第6回日本血液学会関東甲信越地方会 (2017.03.、東京)
24. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Yohei Sasaki, Shotaro Shimada, Maasa Abe, So Murai, Yuta Baba, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : A case of lymphoid tumor with t(11;14) translocation. 第79回日本血液学会学術集会 (2017.10.東京)
25. Yui Uto, Norimichi Hattori, Yohei Sasaki, Shotaro Shimada, So Murai, Yuta Baba, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : Efficacy of RB therapy in anti-MAG/SGPG neuropathy associated with Waldenstrom macroglobulinemia. 第79回日本血液学会学術集会 (2017.10.東京)
26. Yohei Sasaki, Norimichi Hattori, Shotaro Shimada, Megumi Watanuki, So Murai, Maasa Abe, Yuta Baba, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : Elotuzumab in combination with lenalidomide and dexamethasone for relapsed extramedullary plasmacytoma. 第79回日本血液学会学術集会 (2017.10.東京)
27. Yuta Baba, Hiroshi Harada, Shotaro Shimada, Yohei Sasaki, Maasa Abe, So Murai, Shun Fujiwara, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Bungo Saito, Tsuyoshi Nakamaki : Hyponatremia in multiple myeloma patients treated with bortezomib, lenalidomide and dexamethasone. 第79回日本血液学会学術集会 (2017.10.東京)
28. 松田 留美子, 岩村 ちなみ, 村中 彩子, 田原 佐知子, 家泉 桂一, 中牧 剛 : 寒冷凝集素症を合併した原発性マクログロブリン血症の一例. 第66回日本医学検査学会 (2017.06.、千葉)
29. 中牧 剛 : 20年間、臨床経緯を follow した低悪性度B細胞リンパ腫の1例. 第50回老年者造血器疾患研究会 (2017.07.、東京)
30. 中牧 剛、島田翔太郎、佐々木陽平、村井聰、阿部真麻、馬場勇太、綿貫めぐみ、藤原峻、川口有紀子、蒲澤宣幸、宇藤唯、柳沢孝次、服部憲路、斎藤文護、魚住祥二郎、下間祐、吉田仁、塩沢英輔、瀧本雅文：胃静脈瘤を合併したJAK2V617F変異陽性骨髄増殖性腫瘍の1例. 第7回日本血液学会関東甲信越地方会 (2017.07.、長野)
31. 村中 彩子, 遠藤 佑香, 藤村 真理, 功刀 早沙, 岩村 ちなみ, 内田 宏美, 斎藤 文護, 安原 努, 中牧 剛, 福地 邦彦 : AB型を疑いABO遺伝子解析を行った1症例. 第65回日本輸血細胞治療学会総会 (2017.06.、千葉)
32. 功刀 早沙, 藤村 真理, 村中 彩子, 岩村 ちなみ, 田原 佐知子, 家泉 桂一, 海老原 直樹, 三宅 康史, 山下 智幸, 中牧 剛 : 初療室業務参加より、今後の臨床支援を考える. 第142回日本輸血細胞治療学会関東甲信越支部例会 (2017.09.、東京)
33. Tsuyoshi Nakamaki, Maasa Abe, Yuta Baba, So Murai, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Yosuke Sasaki, Eisuke Shiozawa, Kunihiko Fukuchi : Design and Application of a Novel FISH Probe for the Detection of CD20 Gene in B-cell Neoplasm. The 8th JSH International Symposium (2017.05.、Miyazaki)
34. 塚本 裕之, 斎藤 文護, 阿部 真麻, 村井 聰, 馬場 勇太, 綿貫 めぐみ, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 蒲澤 宣幸, 宇藤 唯, 服部 憲路, 柳澤 孝次, 中牧 剛:骨髄芽球の増加を伴う高リスク骨髄異形成症候群の患者におけるアザシチジン療法の予後予測因子. 第335回昭和大学学士会例会 (2017.02.、東京)
35. H保坂雄太郎、斎藤文護、千賀亜季子、及川雄司、関屋昇、依田光正、中牧剛 : CT-CI を利用した合併症の有無が造血幹細胞移植施行患者の身体機能経過に与える影響. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
36. 本間 まゆみ, 塩沢 英輔, 荒井 奈々, 山口 有紀子, 田澤 咲子, 矢持 淑子, 楠 玄秀, 斎藤 文護, 中牧 剛, 瀧本 雅文: PTCL-NOS 治療後に発症し、多彩の組織像を呈したEBV関連リンパ増殖性疾患の一例. 第106回日本病理学会総会 (2017.04.、東京)
37. 刑部月、内海明美、斎藤文護、弘中祥司、中牧剛 : VITEK MSTM で同定した造血幹細胞移植前後の口腔内細菌叢の変化と口腔粘膜障害の関連. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
38. 荒井奈々、斎藤文護、馬場勇太、村井聰、阿部真麻、綿貫めぐみ、藤原峻、川口有紀子、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤唯、本間まゆみ、柳沢孝次、服部憲路、塩沢英輔、矢持淑子、原田浩史、瀧本雅文、中牧剛 : 急性骨髄性白血病における骨髄免疫染色と移植予後の検討. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
39. 千賀亜季子、斎藤文護、保坂雄太郎、及川雄司、依田光正、川手信行、中牧剛 : 高齢レシピエントの移植後身体機能とADLの特徴. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
40. 鈴木康介、斎藤文護、船越晴喜、伊東那々子、阿部誠治、佐々木忠徳、中牧剛 : 造血幹細胞移植患者の年齢とタクロリムス血中濃度の関係. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
41. 斎藤文護、服部憲路、馬場勇太、村井聰、阿部真麻、綿貫めぐみ、荒井奈々、川口有紀子、藤原峻、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤唯、柳沢孝次、原田浩史、中牧剛 : 当院のhigh risk MDS およびAML with MRCに対する同種移植の成績. 第39回日本造血細胞移植学会総会 (2017.03.、島根)
42. Yukiko Kawaguchi, Bungo Saito, Maasa Abe, Yuta Baba, Sou Murai,, Megumi Watanuki, Nana Arai, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, and Tsuyoshi Nakamaki : Soluble Interleukin-2 Receptor and C-Reactive Protein Levels Are Associated with the Efficacy of Bendamustine As a

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- Salvage Treatment for Indolent Lymphoma. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
43. 齋藤文護、中牧剛：55歳以上の造血器悪性腫瘍患者に対するブルファンを用いた骨髄破壊的移植～移植後早期感染症を中心～昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成28年度シンポジウム（東京、2017.03）
44. Yukiko Kawaguchi, Bungo Saito, Maasa Abe, Yuta Baba, Sou Murai, Megumi Watanuki, Nana Arai, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, and Tsuyoshi Nakamaki : Soluble Interleukin-2 Receptor and C-Reactive Protein Levels Are Associated with the Efficacy of Bendamustine As a Salvage Treatment for Indolent Lymphoma. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
45. Vikas Madan, Lin Han, Norimichi Hattori, Anand Mayakonda, Qiao-Yang Sun, Ling-Wen Ding, Hazimah Binte Mohd Nordin, Su Lin Lim, Weoi Woon Teoh, Pavithra Shyamsunder, Janani Sundaresan, Ngan B. Doan, Masashi Sanada, Aiko Sato-Otsubo, Li-Zhen Liu, Henry Yang, Jonathan W. Said, Seishi Ogawa, Der-Cherng Liang, Lee-Yung Shih, Tsuyoshi Nakamaki, Q. Tian Wang and H. Phillip Koefller : ASXL2 Is Recurrently Mutated in t(8;21) AML and Regulates Hematopoietic Development. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
46. Nana Arai, Bungo Saito, Maasa Abe, Megumi Watanuki, So Murai, Yuta Baba, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Nobuyuki Kabasawa, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Mayumi Homma, Eisuke Shiozawa, Toshiko Yamochi, Masafumi Takimoto, Hiroshi Harada, and Tsuyoshi Nakamaki : Immunohistochemical Expression of CD123 Is Associated with an Inferior Clinical Outcome in Acute Myeloid Leukemia. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
47. NRyunosuke Saiki, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Yuichi Shiraishi, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Yoshiko Atsuta, Makoto Onizuka, Hidehiro Itonaga, Yoshinobu Kanda, Mikael A. Sekeres, Kathryn M. Guinta, Shuichi Miyawaki, Tsuyoshi Nakamaki, Shigeru Chiba, Lee-Yung Shih, Yasushi Miyazaki, Satoru Miyano, Hideki Makishima, Jaroslaw P. Maciejewski and Seishi Ogawa : GS-Based Copy Number Analysis in 1,185 Patients with Myeloid Neoplasms. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
48. Hideki Makishima, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Mikael A. Sekeres, Tomas Radivoyevitch, Hiromichi Suzuki, Bartlomiej P. Przychodzen, Yasunobu Nagata, Manja Meggendorfer, Masashi Sanada, Yusuke Okuno, Cassandra M. Hirsch, Teodora Kuzmanovic, Yusuke Shiozawa, Yusuke Sato, Aiko Sato-Otsubo, Thomas LaFramboise, Naoko Hosono, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Claudia Haferlach, Wolfgang Kern, Hiroko Tanaka, Ines Gómez-Seguí, Holleh Husseinzadeh, Swapna Thota, Kathryn M. Guinta, Brittney Dienes, Tsuyoshi Nakamaki, Shuichi Miyawaki, MD, Yogen Saunthararajah, Shigeru Chiba, Satoru Miyano, Lee-Yung Shih, Torsten Haferlach, Seishi Ogawa and Jaroslaw P Maciejewski : the Impact of Clonal Dynamics on Prognosis and Outcome in Myelodysplastic Syndromes. 58th ASH Annual Meeting (Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
49. Tsuyoshi Nakamaki, Nobuyuki Kabasawa, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Bungo Saito : Successful Treatment with Mogamulizumab Monotherapy for Elderly Patient with Relapsed Peripheral T-cell Lymphoma. The 7th JSH International Symposium (2016.05.淡路)
50. 馬場 勇太, 服部 憲路, 川口 有紀子, 村井 聰, 阿部 真麻, 綿貫 めぐみ, 藤原 峻, 荒井 奈々, 蒲澤 宣幸, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 齋藤 文護, 原田 浩史, 中牧 剛 : VR-CAP 療法が奏効した再発難治性マントル細胞リンパ腫(MCL)の症例. 第49回老年者造血器疾患研究会 (2016.06、東京)
51. 中牧剛、川口有紀子、蒲澤宣幸、荒井奈々、柳沢孝次、服部憲路、齋藤文護：手先指の壞疽性循環障害に副腎皮質ステロイドが著効した寒冷凝集素症の1例. 第5回日本血液学会関東甲信越地方会(2016.07.新潟)
52. Hiroyuki Tsukamoto, Yosaku Watatani, Henichi Yoshida, Yuka Yamashita, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Yuichi Shiraishi, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Norimichi Hattori, Hideki Makishima, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Tsuyoshi Nakamaki, Masashi Sanada : Clonal dynamics in acquisition of resistance to HMA in a case with MDS harboring TP53 mutation. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
53. So Murai, Norimichi Hattori, Yuta Baba, Maasa Abe, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : Effectiveness of mogamulizumab treatment for refractory CD8 positive PTCL-NOS. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
54. Ryunosuke Saiki, Tetsuichi Yoshizato, Bartlomiej Przychodzen, Kenichi Yoshida, Mikael A. Sekeres, Yasunobu Nagata, Masashi Sanada, Yusuke Okuno, Ayana Kon, Hiromichi Suzuki, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Yusuke Shiozawa, Tsuyoshi Nakamaki, Shigeru Chiba, Aotoru Miyano, Lee-Yung Shin, Alan F. List, Seishi Ogawa, Jaroslaw P. Maciejewski, Hideki Makishima : Genetic lesions associated with secondary chronic myelomonocytic leukemia. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
55. Yuta Baba, Norimichi Hattori, So Murai, Maasa Abe, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Bungo Saito, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : Lenalidomide reduces MDS clone with 17p deletion. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
56. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Maasa Abe, So Murai, Yuta Baba, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Tsuyoshi Nakamaki : Primary cardiac anaplastic large cell lymphoma, ALK-positive. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
57. Yotaro Ochi, Keisuke Kataoka, Yasunobu Nagata, Akira Kitanaka, Junichiro Yasunaga, Masako Iwanaga, Yuichi Shiraishi, Masashi Sanada, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Kisato Nosaka, Masakatsu Hisizawa, Hidehiro Itonaga, Yoshitaka Imaizumi, Wataru Munakata, Kotaro Shide, Yoko Kubuki, Tomonori Hidaka, Takuro Kameda, Tsuyoshi Nakamaki, Ken Ishiyama, Shuichi Miyawaki, Kenesei Tobinai, Yasushi Miyazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Tatsuhiko Shibata, Satoru Miyano, Masao Mitsuoka, Kazuya Shimoda, Toshiki Watanabe, Seishi Ogawa : Prognostic relevance of integrated molecular profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

58. Bungo Saito, Hidetoshi Nakashima, Maasa Abe, Megumi Watanuki, Yuta Baba, So Murai, Shun Fujiwara, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : Single-dose palonosetron for prevention of CHOP induced nausea and vomiting: a phase II study. 第78回日本血液学会学術集会(横浜、2016.10)
59. 村中彩子, 尾坂竜也, 藤村真理, 功刀早沙, 岩村ちなみ, 坂本大, 斎藤文護, 中牧剛 : Spectra Optia を用いた当院での末梢血幹細胞採取の現状報告. 第64回日本輸血・細胞治療学会総会(2016.04.京都)
60. 斎藤文護、柳沢孝次、山本晃平、荒井奈々、川口有紀子、藤原峻、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤唯、有泉裕嗣、服部憲路、中牧剛 : 脘帶血移植における tacrolimus と very-short-term methotrexate による GVHD 予防. 第38回日本造血細胞移植学会総会(2016.03.名古屋)
61. 保坂雄太郎、千賀亜季子、浜辺峻弥、及川雄司、関屋昇、斎藤文護、中牧剛、佐藤恭子、依田光正、水間正澄 : 造血幹細胞移植後の活動性と身体機能の回復経過について. 第38回日本造血細胞移植学会総会(2016.03.名古屋)
62. 藤原峻、斎藤文護、山本晃平、荒井奈々、川口有紀子、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤唯、柳沢孝次、服部憲路、中牧剛 : CML に対して使用したダサチニブが奏効した重症筋無力症. 第4回日本血液学会関東甲信越地方会(東京、2016.03)
63. Keisuke Kataoka, Yasunobu Nagata, Akira Kitanaka, Jun-ichi Nagata, Masako Iwanaga, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Aiko Sato-Otsubo, Masashi Sanada, Hiroko Tanaka, Hiromichi Suzuki, Yusuke Sato, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Hideki Makishima, Kisato Nosaka, Masakatsu Hishizawa, Hidehiro Itonaga, Yoshitaka Imaizumi, Wataru Munakata, Kotaro Shide, Yoko Kubuki, Tomonori Hidaka, Takuro Kameda, Tsuyoshi Nakamaki, Ken Ishiyama, Shuichi Miyawaki, Kensei Tobinai, Yasushi Miyazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Tatsuhiro Shibata, Satoru Miyano, Masao Matsuoka, Kazuya Shimoda, Toshiki Watanabe, Seishi Ogawa : Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
64. Hideki Makishima, Kenichi Yoshida, Thomas LaFramboise, Tetsuichi Yoshizato, Matthew Ruffalo, Mikael A. Sekeres, Bartlomiej Przychodzen, Hiromichi Suzuki, Masashi Sanada, Yasunobu Nagata, Yusuke Okuno, Yusuke Sato, Aiko Sato-Otsubo, Michael J. Clemente, Naoko Hosono, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Hiroko Tanaka, Yusuke Shiozawa, Ines Gomez-Segui, Holleh Husseinzadeh, Swapna Thota, Kathryn Guinta, Brittney Dienes, Tsuyoshi Nakamaki, Shuichi Miyawaki, Yogen Saunthararajah, Shigeru Chiba, Satoru Miyano, Lee-Yung Shih, Seishi Ogawa, Jaroslaw P. Maciejewski : Serial Sequencing in Myelodysplastic Syndromes Reveals Dynamic Changes in Clonal Architecture and Allows for a New Prognostic Assessment of Mutations Detected in Cross-Sectional Testing. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
65. Yosaku Watanabe, Yasunobu Nagata, Vera Grossmann, Yusuke Okuno, Tetsuichi Yoshizato, Yusuke Shiozawa, Genta Nagae, Kenichi Yoshida, Keisuke Kataoka, Susanne Schnittger, Masashi Sanada, Ayana Kon, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Hiroko Tanaka, Tsuyoshi Nakamaki, Shuichi Miyawaki, Shigeru Chiba, Tamara Alpermann, Niroshan Nadarajah, Phillip Koeffler, Hans-Ulrich Klein, Martin Dugas, Hiroyuki Aburatani, Claudia Haferlach, Wolfgang Kern, Satoru Miyano, Lee-Yung Shih, Seishi Ogawa, Torsten Haferlach, Hideki Makishima : Two Novel Distinct Subtypes of Myeloid Neoplasms Molecularly Associated with Histone H3K36 Methylation. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
66. Keisuke Kataoka, Yasunobu Nagata, Akira Kitanaka, Yuichi Shiraishi, Yasushi Totoki, Jun-ichi Nagata, Yasunaga, Kenichi Chiba, Aiko Sato-Otsubo, Masashi Sanada, Hiroko Tanaka, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Hideki Makishima, Masakatsu Hishizawa, Hidehiro Itonaga, Yoshitaka Imaizumi, Wataru Munakata, Nakamura Hiromi, Natsuko Hama, Kotaro Shide, Yoko Kubuki, Tomonori Hidaka, Takuro Kameda, Tsuyoshi Nakamaki, Kensei Tobinai, Yasushi Miyazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Masao Matsuoka, Tatsuhiro Shibata, Satoru Miyano, Kazuya Shimoda, Seishi Ogawa : Next-Generation Sequencing Reveal Proviral Genome and Transcriptome in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
67. Keisuke Kataoka, Yasunobu Nagata, Akira Kitanaka, Yuichi Shiraishi, Jun-ichi Nagata, Yasushi Totoki, Kenichi Chiba, Aiko Sato-Otsubo, Shinichi Kotani, Masashi Sanada, Hiroko Tanaka, Hiromichi Suzuki, Yusuke Sato, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Kenichi Yoshida, Hideki Makishima, Guangyong Ma, Kisato Nosaka, Masakatsu Hishizawa, Hidehiro Itonaga, Yoshitaka Imaizumi, Wataru Munakata, Nakamura Hiromi, Natsuko Hama, Kotaro Shide, Yoko Kubuki, Tomonori Hidaka, Takuro Kameda, Tsuyoshi Nakamaki, Ken Ishiyama, Shuichi Miyawaki, Kensei Tobinai, Yasushi Miyazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Toshiki Watanabe, Tatsuhiro Shibata, Masao Matsuoka, Satoru Miyano, Kazuya Shimoda, Seishi Ogawa : Frequent Activating Somatic Alterations in T-Cell Receptor / NF- κ B Signaling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
68. June Takeda, Kenichi Yoshida, Hideki Makishima, Tetsuichi Yoshizato, Yusuke Shiozawa, Yuichi Shiraishi, Yusuke Okuno, Ayana Kon, Yasunobu Nagata, Keisuke Kataoka, Kenichi Chiba, Hiroko Tanaka, Masashi Sanada, Mamiko Sakata-Yanagimoto, Naoshi Obara, Tsuyoshi Nakamaki, Ken Ishiyama, Akira Haigaishi, Shigeru Chiba, Hiraku Mori, Norio Asou, Hitoshi Kiyoi, Chikara Hirase, Kiyotoshi Imai, Nobuaki Dobashi, Toru Kiguchi, Yasushi Miyazaki, Tomoki Naoe, Satoru Miyano, Kensei Usuki, Shuichi Miyawaki, Yoichiro Kamatani, Yukihide Momozawa, Michiaki Kubo, Chantana Polprasert, Jaroslaw P. Maciejewski, Seishi Ogawa : Genetic Predispositions to Myeloid Neoplasms Caused By Germline DDX41 Mutations. 57th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting and Exposition(2015.12.Orlando)
69. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Kohei Yamamoto, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : A case of senile EBV associated B-LPD developed DLBCL after ten years follow up. 第77回日本血液学会学術集会(金沢、2015.10)
70. Yui Uto, Shun Fujiwara, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Hirotugu Ariizumi,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- Norimichi Hattori, Bungo Saito, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Eisuke Shiozawa, Tsuyoshi Nakamaki : Age and BM cellularity are associated with response to eltrombopag in Japanese adult ITP patients. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015.10)
71. Shun Fujiwara, Norimichi Hattori, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Bungo Saito, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : Analyses of IgM-monoclonal gammopathy. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015.10)
72. Hirotugu Ariizumi, Hiraku Mori, Hiroshi Harada, Bungo Saito, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Akiko Sakashita, Tsuyoshi Nakamaki : Non-inferiority of vindesine vs vincristine R-CHOP in propensity score-modified retrospective study. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015.10)
73. Nana Arai, Bungo Saito, Kohei Yamamoto, Sun Fujiwara, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotugu Ariizumi, Norimichi Hattori, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : Successful treatment with ACES regimen of relapsed HIV-negative plasmablastic lymphoma. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015.10)
74. 綿貫 めぐみ, 服部 憲路, 山本 晃平, 蒲澤 宣幸, 川口 有紀子, 藤原 峻, 柳沢 孝次, 齋藤 文護, 中牧 剛 : アドセトリス投与が奏効した血球食食症候群合併のALK陰性未分化大細胞型リンパ腫の症例. 第 3 回日本血液学会関東甲信越地方会(2015.07.つくば)
75. 齋藤文護 : 造血幹細胞移植の概要と血液内科医の立場から薬剤師に期待すること. 第 25 回日本医療薬学会年会(2015.11.横浜)
76. Bungo Saito, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Kouji Yanagisawa, Ariizumi Hirotugu, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : The Peripheral Blood WT1 mRNA Expression Predicts Early Achievement of Hematological Improvement in Myelodysplastic Syndrome Patients Treated with Azacitidine. The 6th JSH International Symposium (2015.05.軽井沢)
77. 蒲澤 宣幸, 齋藤 文護, 川口 有紀子, 荒井 奈々, 藤原 峻, 塚本 裕之, 宇藤 唯, 有泉 裕嗣, 柳沢 孝次, 服部 憲路, 原田 浩史, 森 啓, 中牧 剛 : 高齢者の難治性 PTCL に少量 busulfan を用いた前処置による臍帶血移植が奏効した 1 例. 第 2 回日本血液学会関東甲信越地方会(2015.03.東京)
78. 馬場勇太、服部憲路、川口有紀子、村井聰、阿部真麻、綿貫めぐみ、藤原峻、荒井奈々、蒲澤宣幸、塚本浩之、宇藤唯、有泉裕嗣、柳沢孝次、齋藤文護、原田浩史、中牧剛 : VR-CAP 療法が奏功した再発難治性マントル細胞リンパ腫(MCL)の症例. 第 49 回老年者造血器疾患研究会(2015.07.東京)
79. Harada Hiroshi, Arai Nana, Kawaguchi Yukiko, Fujiwara Shun, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Uto Yui, Ariizumi Hirotugu, Nakashima Hidetoshi, Hattori Kenji, Yanagisawa Kouji, Saito Bungo, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 再発ワルデンストレームマクログロブリン血症に対する bendamustine の有効性. 第 76 回日本血液学会学術集会(大阪、2014.10)
80. Fujiwara Shun, Hattori Norimichi, Kawaguchi Yukiko, Arai Nana, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Uto Yui, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 再発性/治療抵抗性有毛細胞白血病日本型に対する bendamustine + rituximab 併用療法. 第 76 回日本血液学会学術集会(大阪、2014.10)
81. Uto Yui, Arai Nana, Kawaguchi Yukiko, Fujiwara Shun, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Ariizumi Hirotugu, Nakashima Hidetoshi, Hattori Norimichi, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 免疫性血小板減少症患者(ITP)における骨髄線維症. 第 76 回日本血液学会学術集会(大阪、2014.10)
82. Yoshida Kenichi, Makishima Hideki, Okuno Yusuke, Shiraishi Yuichi, Kon Ayana, Nagata Yasunobu, Shiozawa Yusuke, Kataoka Keisuke, Sanada Masashi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Obara Naoshi, Sakata-Yanagimoto Mamiko, Nakamaki Tsuyoshi, Ishiyama Ken, Mori Hiraku, Miyawaki Shuichi, Chiba Shigeru, Miyano Satoru, Maciejewski Jaroslaw P., Ogawa Seishi : DDX41 の胚性突然変異は家族性および散発性 MDS/AML 発症の素因である. 第 76 回日本血液学会学術集会(大阪、2014.10)
83. Hattori Norimichi, Fukuchi Kunihiko, Yamochi Toshiko, Fujiwara Shun, Kawaguchi Yukiko, Arai Nana, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Uto Yui, Ariizumi Hirotugu, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Takimoto Masafumi, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : T-LBL 由来の新たな 2 つのサブクローン(SY0806 と SY0810)の異なる特徴. 第 76 回日本血液学会学術集会(大阪、2014.10)
84. 中牧 剛, 宇藤 唯, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 藤原 峻, 塚本 裕之, 有泉 裕嗣, 服部 憲路, 中嶋 秀人詞, 柳沢 孝次, 齋藤 文護, 原田 浩史, 森 啓 : Nilotinib 投与後に顕著な骨髓低形成を合併した慢性骨髓性白血病の 1 例. 第 1 回日本血液学会 関東甲信越地方会(埼玉、2014.04.26)
- 2-5
1. 岸本裕充 : 【教育講演】ICU における口腔ケア. (第 16 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 名古屋, 2019 年 4 月)
 2. 岸本裕充 : 歯科医師からみた口腔ケア実践ガイドのポイント. (第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019 年 3 月)
 3. 岸本裕充 : 【ビデオセッション】ICT が見ておきたい手技 : 口腔ケア. (第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2019 年 2 月)
 4. 岸本裕充 : 【パネルディスカッション】口腔ケアをオーラルマネジメントにアップグレード. (第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2019 年 2 月)
 5. 岸本裕充 : 【ミニレクチャー】最新 ! 周術期口腔機能管理. (第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018 年 11 月)
 6. 岸本裕充 : VAP 予防のために緊急手術直前に手術室で口腔ケアを行う試み. (第 31 回日本外科感染症学会, 大阪,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2018年11月)

7. 岸本裕充 : 【認定医研修セミナー】最新！周術期の口腔ケア・オーラルマネジメント. (第32回日本リハビリテーション学会学術大会, 神戸, 2018年11月)
8. 岸本裕充 : 【シンポジウム】顎骨壊死に関する医科歯科連携の取り組みの実際. (第20回日本骨粗鬆症学会, 長崎, 2018年10月)
9. 岸本裕充, 高岡一樹, 玉岡丈二 : 口腔インプラント医が知っておくべき骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の知識. (第48回日本口腔インプラント学会学術大会, 大阪, 2018年9月)
10. 岸本裕充 : 【シンポジウム】インプラント治療 高齢患者に対する外科的対応基準. (第48回日本口腔インプラント学会学術大会, 大阪, 2018年9月)
11. 岸本裕充 : 【ランチョンセミナー】口腔インプラント医が知っておきたい骨粗鬆症・顎骨壊死の話題 (第48回日本口腔インプラント学会学術大会, 大阪, 2018年9月)
12. 岸本裕充 : 【ランチョンセミナー】骨吸収抑制薬関連顎骨壊死を予防するための医歯薬連携. (第9回日本アブレイド・セラピューティクス (実践薬物治療) 学会学術大会, 名古屋, 2018年9月)
13. 岸本裕充 : 病院でのインフェクションコントロールに役立つ口腔ケア・オーラルマネジメント. (国公立大学附属病院感染対策協議会, 大阪, 2018年8月)
14. 岸本裕充 : 今だから知りたい口腔衛生管理の基礎知識 経口気管挿管患者に対する口腔ケア・オーラルマネジメントのポイント 口腔のバイタルサインを意識する. (第33回日本環境感染学会総会, 東京, 2018年2月)
15. 岸本裕充 : 【ランチョンセミナー】VAP予防のための口腔ケア実践テクニック. (第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018年2月)
16. 岸本裕充 : 【シンポジウム】周術期の口腔ケアを口腔機能管理に高める. (第30回日本外科感染症学会, 東京, 2017年11月)
17. 岸本裕充 : 【シンポジウム】医科歯科連携によるARONJのマネジメント. (第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月)
18. 岸本裕充 : 【ミニレクチャー】化学療法を受ける患者に対するオーラルマネジメント～ARONJも含めて～. (第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月)
19. 岸本裕充 : 【ランチョンセミナー】口腔外科専門医だからこそ周術期オーラルマネジメント. (第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月)
20. 岸本裕充, 高岡一樹 : 口腔インプラント医が知っておくべき骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の知識. (第47回日本口腔インプラント学会学術大会イブニングセミナー, 仙台, 2017年9月)
21. 岸本裕充 : 【コンセンサスカンファレンス】セルフケア困難な患者に対する口腔ケアにおける使用物品. (第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 宜野湾, 2017年4月)
22. 岸本裕充 : 骨粗鬆症に用いるビスホスホネートの休薬の是非 (第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 宜野湾, 2017年4月)
23. 岸本裕充 : 術後感染予防抗菌薬使用のための実践ガイドライン. (第71回NPO法人日本口腔科学会学術集会, 松山, 2017年4月)
24. Horii N, Hasegawa Y, Sugahara K, Sakuramoto A, Saito S, Nanto T, Nakao Y, Kishimoto H: Reliability of the Dysphagia Test Following Resection for Head-Neck Cancer. (95th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Los Angeles, March 2017)
25. Sadakane A, Hasegawa Y, Kishimoto H: Preference for taste change the cerebral blood flow by chewing. (95th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Los Angeles, March 2017)
26. 岸本裕充 : がんの手術・化学療法におけるオーラルマネジメントの意義と実際. (第26回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢, 2017年3月)
27. 岸本裕充 : 薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)の最新の話題. (第29回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2016年12月)
28. 岸本裕充 : 食道癌の術後肺炎を予防するための周術期オーラルマネジメント. (第29回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2016年11月)
29. 岸本裕充 : 化学療法を受ける患者に対するオーラルマネジメント～MRONJ予防も含めて. (第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月)
30. 岸本裕充, 首藤敦史, 川邊睦記, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬 : 当科における薬剤関連顎骨壊死Stage3に対する治療法の検討 (第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016年11月)
31. 岸本裕充 : 骨吸収抑制薬を使用中の患者への対応の実際. (日本有病者歯科医療学会 第6回学術教育セミナー, 東京, 2016年11月)
32. 岸本裕充 : 人工呼吸器関連肺炎予防のための口腔ケアのポイント. (第18回日本救急看護学会学術集会, 千葉, 2016年10月)
33. 岸本裕充 : 薬剤関連顎骨壊死に対するオーラルマネジメント. (第23回日本歯科医学会総会, 福岡, 2016年10月)
34. 岸本裕充 : 周術期の合併症を予防するためのオーラルマネジメント. (第54回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016年10月)
35. 岸本裕充 : 気管挿管患者に対する標準的な口腔ケア. (第25回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 神戸, 2016年10月)
36. 岸本裕充 : 口腔と全身との関わり～口腔ケア・オーラルマネジメントの効果～. (第457回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2016年10月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

37. 岸本裕充：薬剤関連顆骨壊死への対応の最近の動向. (第 18 回日本骨粗鬆症学会, 仙台, 2016 年 10 月)
38. Tamaoka J, Takaoka K, Ueta M, Araki H, Noguchi K, Kishimoto H: The Effect of TGF- β 1 on osteoclast precursors in the bone microenvironment. (23rd Congress of the European Association for Crano Maxillo-Facial Surgery, London, September 2016)
39. 岸本裕充：口腔インプラント治療における周術期全身管理. (第 46 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 名古屋, 2016 年 9 月)
40. 岸本裕充：骨吸収抑制薬を使用中の患者に対する歯科治療 ~インプラントも含めて~. (第 46 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 名古屋, 2016 年 9 月)
41. 岸本裕充：薬剤関連顆骨壊死 (MRONJ) に関する最新情報. (第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会, 神戸, 2016 年 7 月)
42. 岸本裕充：VAP 予防ための最新の口腔ケア. (第 61 回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016 年 7 月)
43. 岸本裕充：わが国における薬剤関連顆骨壊死の現状と最新の対応策. (日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 東京 2016, 東京, 2016 年 5 月)
44. 岸本裕充：薬剤関連顆骨壊死(MRONJ)に対する保存療法. (第 13 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 千葉, 2016 年 4 月)
45. 岸本裕充：VAP を予防するための口腔ケア・オーラルマネジメント -Q・Care を使いこなす-. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
46. 門井謙典, 岸本裕充, 木崎久美子, 薫田希世和, 岡崎理絵, 坂田寛之, 宮脇淳志, 小谷穰治：人工呼吸器関連肺炎の予防を目的とした経口挿管患者に対するディスポーザブル口腔ケアキットの有用性. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
47. 岸本裕充：経口気管挿管患者に対する口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
48. 岸本裕充：NHCAP の予防・治療のための口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 39 回日本嚥下医学会学術講演会, 大阪, 2016 年 2 月)
49. Fujiwara M, Yasuda E, Honda K, Hasegawa Y, Matsumura E, Kishimoto H: Prevalence of temporomandibular disorders among junior high school students who play wind instruments. (4th Asian Academic Congress for Temporomandibular Joint, Manila, November 2015)
50. 岸本裕充, 坂本 春生, 金子 明寛：術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 歯科口腔外科領域. (第 24 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 11 月)
51. 川邊睦記, 首藤敦史, 森寺邦康, 河田尚子, 藤原正識, 門井謙典, 野口一馬, 岸本裕充：近畿の歯科口腔外科施設を対象とした予防抗菌薬投与の使用に関するアンケート調査. (第 24 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 11 月)
52. 岡崎史枝, 森寺邦康, 首藤敦史, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充：ベバシズマブとデノスマブに関連して顆骨壊死を生じた 1 例. (第 27 回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2015 年 11 月)
53. 岸本裕充：口腔外科専門医だからこそその周術期オーラルマネジメント. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
54. 岸本裕充, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬：口腔乾燥症に対するオーラルマネジメント. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
55. 山村倫世, 高岡一樹, 川邊睦記, 荒木華子, 玉岡丈二, 野口一馬, 岸本裕充：骨微小環境における TGF- β の破骨前駆細胞への影響. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
56. 首藤敦史, 岸本裕充, 川邊睦記, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬：下顎骨切除の回避を目的とした Stage3 薬剤関連顆骨壊死に対する治療的休薬. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
57. 岸本裕充：薬剤関連顆骨壊死の予防と治療を再考する. (第 45 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 岡山, 2015 年 9 月)
58. Noguchi K, Kishimoto H, Hashimoto-Tamaoki T, Nakano Y: In vitro differentiation of cells from keratinocytic odontogenic tumor. (Developmental Cell conference Embo Meeting, Birmingham, September 2015)
59. Tamaoka J, Takaoka K, Nishida M, Araki H, Noguchi K, Kishimoto H: Effect of TGF- β 1 on osteoclast precursors in the bone microenvironment. (IADR ANZ Division 55th Annual Scientific Meeting, Dunedin, August 2015)
60. 岸本裕充：周術期・高齢期のオーラルマネジメント. (日本補綴歯科学会九州支部 生涯学習公開セミナー, 北九州, 2015 年 8 月)
61. 岸本裕充：周術期オーラルマネジメントの実際. (日本口腔外科学会 第 44 回教育研修会(2015 年口腔四学会合同研修会), 京都, 2015 年 7 月)
62. 岸本裕充：VAP 予防のための効果的な口腔ケア. (第 37 回日本呼吸療法医学会学術集会, 京都, 2015 年 7 月)
63. Moridera K, Noguchi K, Takaoka K, Kawabe M, Kishimoto H: Retrospective clinical analysis of salivary gland carcinoma. (第 39 回日本頭頸部癌学会・4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology, Kobe, June 2015)
64. 岸本裕充：口腔機能管理による合併症予防のポイント (第 12 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 下関, 2015 年 6 月)
65. 岸本裕充：緩和医療におけるオーラルマネジメント -口腔のバイタルサインを意識する-. (第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2015 年 6 月)
66. 岸本裕充：薬剤誘発性顆骨壊死の最新情報. (日本口腔外科学会 第 92 回歯科臨床医リフレッシュセミナー, 西宮, 2015 年 6 月)
67. 岸本裕充：口腔の清浄性を高めるためのオーラルマネジメント. (第 15 回日本抗加齢医学会総会, 福岡, 2015)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

年 5 月)

68. 岸本裕充: MRONJに対するシタフロキサシンの有効性について. (日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 神戸 2015, 神戸, 2015 年 5 月)
69. 岸本裕充: 兵庫医科大学病院歯科口腔外科における卒後臨床研修プログラム オーラルマネジメントの修得と実践. (第 69 回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015 年 5 月)
70. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死の予防・治療における臨床的課題. (第 69 回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015 年 5 月)
71. 岸本裕充: 誤嚥性肺炎に対する口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 55 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015 年 4 月)
72. 岸本裕充: 周術期オーラルマネジメントの実際. (日本口腔外科学会 第 43 回教育研修会(2015 年口腔四学会合同研修会), 京都, 2015 年 3 月)
73. 首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平: 兵庫県病院歯科における BRONJ アンケート調査. (第 26 回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014 年 12 月)
74. 頭司雄介, 首藤敦史, 川邊睦記, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 当科における経口ビスフォスフォネート薬関連顎骨壊死の臨床的検討. (第 26 回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014 年 12 月)
75. 櫻本亜弓, 首藤敦史, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 特異な骨吸収像を呈した下顎骨骨髓炎の 1 例. (第 26 回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014 年 12 月)
76. 岸本裕充: 術前のオーラルマネジメントで VAP を予防する. (第 27 回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2014 年 12 月)
77. 岸本裕充: 周術期のオーラルマネジメント・口腔ケアで医科歯科連携を深めよう. (第 56 回長崎県歯科医学大会, 島原, 2014 年 11 月)
78. 藤原正識, 野口一馬, 長谷川陽子, 岸本裕充: 介護老人保健施設入所中にビスフォスフォネート関連顎骨壊死を生じた 1 例. (第 31 回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台, 2014 年 11 月)
79. 岸本裕充: がん治療・災害時の口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 5 回愛媛県歯科医学大会, 松山, 2014 年 11 月)
80. 河田尚子, 蔵下 舞, 川邊睦記, 首藤敦史, 藤原正識, 森寺邦康, 野口一馬, 岸本裕充: HLA 半合致移植患者に対するオーラルマネジメントによる口腔粘膜障害の予防. (第 23 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 伊丹, 2014 年 10 月)
81. 首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平: 兵庫県病院歯科における薬剤誘発性顎骨壊死患者の臨床統計. (第 23 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 伊丹, 2014 年 10 月)
82. 岸本裕充: がん化学療法を受ける患者に対するオーラルマネジメント. (第 59 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014 年 10 月)
83. 岸本裕充: 口腔外科専門医だからこそ周術期オーラルマネジメント. (第 59 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014 年 10 月)
84. 川邊睦記, 吉川恭平, 首藤敦史, 山村倫世, 頭司雄介, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 歯槽骨の炎症性骨吸収における新規サイトカイン IL-34 の関与. (第 59 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014 年 10 月)
85. 高岡一樹, 西岡稔浩, 阿部徹也, 山村倫世, 瀬川英美, 野口一馬, 浦出雅裕, 岸本裕充: 自然発症 2 型糖尿病ラットにおけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死. (第 59 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014 年 10 月)
86. Takaoka K, Yamamura M, Nishioka T, Abe T, Segawa E, Noguchi K, Urade M, Kishimoto H: Bisphosphonates-related osteonecrosis of the jaws using Spontaneously Diabetic Torii rats. (AAOMS 96th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Honolulu, September 2014)
87. Kawabe M, Urade M, Noguchi K, Takaoka K, Zushi Y, Yoshikawa K, Kishimoto H: IL-34 plays a role for differentiation of osteoclasts in inflammatory bone destruction of alveolar bone. (AAOMS 96th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Honolulu, September 2014)
88. 岸本裕充: 周術期の口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 28 回日本手術看護学会年次大会, 福岡, 2014 年 10 月)
89. 岸本裕充: 口腔外科の立場から: 薬剤誘発性顎骨壊死 (DIONJ) に対するオーラルマネジメント. (第 11 回日本乳癌学会中部地方会, 岐阜, 2014 年 9 月)
90. 頭司雄介, 川邊睦記, 首藤敦史, 岸本裕充: 当科における経口ビスホスホネート薬による顎骨壊死(BRONJ)の臨床的検討 -抜歯を避けねば BRONJ にならない?- (第 30 回兵庫県歯科医学大会, 神戸, 2014 年 7 月)
91. 岸本裕充: 人工呼吸器関連肺炎を予防するための口腔ケア Q・Care を使いこなす (第 11 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 旭川, 2014 年 6 月)
92. 岸本裕充: ICU で経口気管挿管中の患者に対する口腔ケアの方法 (第 11 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 旭川, 2014 年 6 月)
93. 岸本裕充: 手術後合併症を低減するための周術期のオーラルマネジメント. (第 34 回日本歯科薬物療法学会総会・学術大会, 大阪, 2014 年 6 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

94. 頭司雄介, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 広範囲の下顎骨壊死を契機に確定診断に至った AIDS 患者の1例. (第45回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 奈良, 2014年6月)
95. 岸本裕充: 周術期オーラルマネジメント“CREATE”で考える. (日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 東京 2014, 東京, 2014年5月)
96. 山村倫世, 高岡一樹, 吉川恭平, 首藤敦史, 頭司雄介, 森寺邦康, 野口一馬, 岸本裕充: 広範なビスフォスフォネート関連上顎骨壊死に対して顎骨再建および顎義歯により口腔機能回復を行った1例. (第68回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014年5月)
97. 岸本裕充: 人工呼吸器関連肺炎を予防するための口腔ケアキット Q•Care の使用法. (第68回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014年5月)
- 2-6
1. 塚原明弘, 池谷賢二, 岩佐文則, 森崎弘史, 福西美弥, 高橋那奈, 桑田啓貴, 馬場一美 「MPC ポリマーコーティングがデンチャーブラーカー細菌叢に及ぼす影響」(第65回昭和大学学士会総会, 東京, 12月, 2018年)
 2. Tsukahara A, Ikeya K, Iwasa F, Morisaki H, Fukunishi M, Takahashi N, Kuwata H, Baba K
 3. 「Analysis of bacterial flora in denture plaque by NGS」 International Association for Dental Research Program book p157, 2018 (International Association for Dental Research, london, England, July 25th-28th, 2018)
 4. 塚原明弘, 池谷賢二, 岩佐文則, 福西美弥, 久志本那奈, 馬場一美 「デンチャーブラーカー細菌叢の 16S rRNA メタゲノム解析」 日本老年歯科医学会第29回学術大会プログラム・抄録集, p22, 2018 (日本老年歯科医学会 第127回学術大会, 東京, 2018年6月22~23日)
 5. 塚原明弘, 池谷賢二, 岩佐文則, 森崎弘史, 福西美弥, 高橋那奈, 桑田啓貴, 馬場一美 「次世代シークエンサーによるデンチャーブラーカー細菌叢の解析」 第127回学術プログラム・抄録集, p56, 2018 (日本補綴歯科学会 第8回学術大会, 岡山, 2018年6月15~17日)
 6. 久志本那奈, 岩佐文則, 池谷賢二, 福西美弥, MPC ポリマーによる“汚れない補綴装置”的開発: 第33回歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い抄録集 p11, 2017
 7. 福西美弥, 池谷賢二, 岩佐文則, 馬場一美, MPC ポリマーを用いた汚れない義歯の開発, 第28回日本老年歯科医学会抄録集 p223, 2017
 8. 池谷賢二, 岩佐文則, 福西美弥, 馬場一美, 「MPC ポリマーを用いたデンチャーブラーカー付着抑制の臨床評価」, 第125回日本補綴歯科学会学術大会抄録集 p58, 2016
 9. K.Ikeya, F.Iwasa, M.Fukunishi, Y.Inoue, K.Ishihara, K.Baba Inhibition of plaque accumulation on complete denture surface by MPC polymer coating : 16th International College of Prosthodontists Biennial Meeting, Seoul, September, 2015 (P.62)
 10. 池谷賢二, 岩佐文則, 福西美弥, 高橋那奈, 塚原明弘, 馬場一美 「MPC ポリマーを用いたバイオフィルム抑制効果の臨床試験」第62回昭和大学学士会総会, 東京, 2015年11月
 11. M.Fukunishi, K.Ikeya, K.Baba 「PMBPAz Coating on PMMA Surface to Inhibit Bacterial Plaque accumulation.」 93rd General Session & Exhibition of the IADR Program Book P.227, 2015.
 12. M.Fukunishi, Y.Inoue, F.Iwasa, K.Ikeya, K.Ishihara, K.Baba 「PMBPAz coating on PMMA surface to inhibit bacterial plaque accumulation.」第88回日本細菌学雑誌1 第70巻 第1号 p.199
 13. M.Fukunishi, K.Ikeya, K.Baba 「MPC polymer coating Inhibits bacterial plaque accumulation on PMMA surface.」 2015 Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP, program p.33 , 2015)
 14. 福西美弥, 岩佐文則, 池谷賢二, 桑田啓貴, 馬場一美 「MPC ポリマーによる PMMA 表面上のバイオフィルム抑制効果」第322回昭和大学学士会例会, 東京, 6月, 2015年
 15. Fukunishi M, Ikeya K, Baba K 「MPC polymer coating inhibits bacterial plaque on PMMA surface」 第63回国際歯科研究学会日本部会・学術総会プログラム・抄録集, p.111,2015
 16. Fukunishi M, Iwasa F, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K 「Inhibition of plaque accumulation on PMMA denture surface by MPC polymer coating.」 Indonesian prosthodontics society and Japan prosthodontics society joint meeting, program p.76, 2014
 17. Fukunishi M, Iwasa F, Morisaki H, Inoue Y, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K 「PMBPAz coating on PMMA surface to inhibit bacterial plaque accumulation」 第62回国際歯科研究学会日本部会・学術総会プログラム・抄録集, p.104, 2014 :

2-7

 1. *降旗真由, 鳴嶋絢, 北はるな, 横宏太郎: 口腔内圧測定装置の開発および測定した口腔内圧と顎顔面形態の関連 -第1報-. (第77回日本矯正歯科学会大会, 横浜, 2018年10月31日-11月1日)
 2. Koutaro Maki : Panel session: Consideration from Refractory Case (The 11th Congress of Asian Pacific Craniofacial Association, Nara, Japan, December, 3,2016)
 3. 横宏太郎: モデレーター: 上顎犬歯による前歯部歯根吸収症例の診断と対応(東京矯正歯科学会秋季セミナー, ベルサール飯田橋ファースト, 2016年11月17日)
 4. 横宏太郎: (特別講演) 矯正治療の意義と未来 (第59回中・四国矯正歯科学会, 高知, 2016年7月7日)
 5. 横宏太郎: (シンポジウム講演) 先端技術の歯科医療への応用と展望.矯正治療における CBCT、CAD/CAM、ロボット、FEM の応用.第74回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集,p94 (第74回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2015年11月19日)
 6. 横宏太郎: (特別講演) どうする? バイオメカニクス.(第23回顎顔面バイオメカニクス学会, 福岡, 2015年11月17日)
 7. 横宏太郎: (教育講演) 外科矯正における矯正診断の基本とシミュレーション技術. (第33回日本頭蓋顎顔面外科

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

学会学術集,宝塚,2015年11月13日)

8. Maki K:(invited Speaker) Future of computer assisted technology in orthodontics. (8th International Orthodontic Congress, London, September.28th.2015)
 9. Maki K : (招待講演)Topic of research : Advanced technology in orthodontic including follows.(Taiwan International Orthodontic Forum 2014,Taipei, Nov.2014)
 10. 古谷亮子,木村仁,山口徹太郎,伊能教夫,楳宏太郎:電動スライダーによるボタンプル計測と顎顔面形態との関係.(第73回東京矯正歯科学会学術大会優秀発表賞受賞. 第73回東京矯正歯科学会大会, 東京, 2014年7月)
 11. 楳宏太郎:(シンポジウム講演) 呼吸と顎顔面形態形成のバイオメカニクス. (第52回日本小児歯科学会大会, 東京, 2014年5月)
 12. 楳宏太郎:(講演) (技術活用セミナー4) 歯科領域「歯科領域におけるコーンビームCTの応用」. (第70回日本放射線技術学会総会学術大会,横浜,2014年4月)
- 2-8
1. 高橋浩二、伊原良明、野末真司 昭和大学歯科病院口腔リハビリテーション科における平成29年度の患者統計. (第32回日本口腔リハビリテーション学会, 神戸, 2018年11月)
 2. 野末真司、伊原良明、高橋浩二 精神科病棟における窒息事故の実態調査. (第32回日本口腔リハビリテーション学会, 神戸, 2018年11月)
 3. 高橋浩二:(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際—各種嚥下障害スクリーニング法も含め一. (昭和大学医学部同窓会千葉県支部会総会学術講演会, 千葉, 2017年2月)
 4. 高橋浩二:(講演) 延ばそう健康長寿食べる幸せ、生きる力は健口から. (鹿屋市市民公開講座, 鹿児島, 2017年2月)
 5. 高橋浩二:(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下障害の取り組み. (昭和大学医学部同窓会・歯学部同窓会鹿児島県支部主催講演会, 鹿児島, 2017年2月)
 6. 高橋浩二:(講演) 構音・摂食嚥下機能障害に対する外来がんリハビリテーションの取り組み. 第6回日本がんリハビリテーション研究会, 東京, 2017年1月)
 7. 高橋浩二:(講演) 大学専門診療科における頭頸部癌治療後嚥下障害リハビリテーションの展開. (第4回「頸補綴・摂食嚥下リハビリテーション」講習会, 東京, 2016年12月)
 8. 高橋浩二:(講演) 介護予防と口腔ケア～お口のトレーニングを紹介しましょう～延ばそう健康長寿食べる幸せ、生きる力は健口から. (昭和大学歯科病院市民講座, 東京, 2016年10月)
 9. 高橋浩二:(講演) 地域で「口から食べること」を支えるために「皆でやってみよう！頸部聴診」. (第10回大きな森勉強会 大田区地域保健医療勉強会, 東京, 2016年8月)
 10. 高橋浩二:(講演) 歯科からアプローチする認知症予防. (睡眠と歯科からアプローチする認知症予防シンポジウム, 名古屋, 2016年8月)
 11. 高橋浩二:(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際 —各種嚥下障害スクリーニング法も含め一. (千葉県歯科医師会障害福祉委員会主催セミナー, 千葉, 2016年4月)
 12. 高橋浩二:大学専門診療科における口腔機能障害の対応—口腔癌術後患者を中心に—. (第61回日本口腔外科学会総会・学術大会第10回歯科衛生士研究会, 千葉, 2016年11月)
 13. 高橋浩二:大学専門診療科における嚥下障害のアプローチ. (第33回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 埼玉, 2016年9月)
 14. 高橋浩二:口腔機能障害の症状から原疾患を探る. (第26回日本口腔内科学会総会・学術大会, 岡山, 2016年9月)
 15. 高橋浩二:オバマケア導入後の米国における嚥下障害治療の実態 (第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016年9月)
 16. 高橋浩二:歯科大学専門診療科における在宅摂食嚥下医療の実際—頸部聴診法と嚥下内視鏡検査による診断と間接訓練・直接訓練の併用—. (第27回日本在宅医療学会学術集会, 横浜, 2016年6月)
 17. 高橋浩二:(講演) 在宅摂食嚥下医療の実際—頸部聴診法と嚥下内視鏡検査を中心とした診断と間接訓練と直接訓練の併用—. (世田谷歯科医師会摂食嚥下プロジェクトチーム準備委員会講習会, 東京, 2015年12月)
 18. 高橋浩二:(講演) 嚥下障害の臨床最前線から～大学専門診療科の今～. 嚥下を見て、聞いてみよう～嚥下内視鏡検査ライブと頸部聴診実習～. (品川福祉カレッジ口腔機能向上・ケア研修 ステップアップ講座, 東京, 2015年12月)
 19. 高橋浩二:(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際 (第8回湘南地区PDNセミナー, 神奈川, 2015年12月)
 20. 高橋浩二:(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下障害への取り組み. (第55回全国国保地域医療学会 教育セミナー, 埼玉, 2015年10月)
 21. 高橋浩二:(講演) 摂食嚥下の評価. (公益社団法人日本歯科衛生士会 平成27年度 認定歯科衛生士セミナー 在宅療養指導(口腔機能管理)・摂食嚥下リハビリテーションコース, 東京, 2015年8月)
 22. 高橋浩二:(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下リハビリテーションの展開—頭頸部癌術後嚥下障害例を中心にして. (がん研有明病院看護部勉強会, 東京, 2015年7月)
 23. 高橋浩二:摂食嚥下障害の診断・評価のツボ「ベッドサイドでの診かた」. (第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会ポストコングレスセミナー, 京都, 2015年9月)
 24. 高橋浩二:医系総合大学での摂食嚥下障害への取り組み. (日本外科代謝栄養学会第52回学術集会, 東京, 2015年7月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

25. 高橋浩二：(講演) スクリーニング検査と精密検査—頸部聴診法を中心にして。(第 10 回長野摂食・嚥下リハビリテーション研究会, 長野, 2014 年 12 月) 高橋浩二：上顎切除後の顎義歯の効果。(6 回日本頭頸部癌学会教育セミナー, 神戸, 2015 年 6 月)
26. 高橋浩二：(講演) 介護予防と口腔ケア～お口のはたらき～延ばそう健康長寿～食べる幸せ、生きる力は健口から～介護予防と口腔ケア。(世田谷歯科医師会主催市民講座, 東京, 2015 年 4 月)
27. 高橋浩二：(講演) 摂食・嚥下の評価。(公益社団法人日本歯科衛生士会平成 26 年度 認定歯科衛生士セミナー, 東京, 2014 年 11 月)
28. 高橋浩二：(講演) 摂食・嚥下障害の基礎知識。(評価医養成研修, 東京, 2015 年 9 月)
29. 高橋浩二：(講演) 摂食・嚥下障害の治療法。(がん研有明病院看護部研修会, 東京, 2014 年 10 月)
30. 高橋浩二：(講演) 摂食・嚥下の基礎知識(摂食・嚥下機能支援推進事業評価医及びリハビリチーム養成研修, 東京, 2014 年 10 月)
31. 高橋浩二：大学専門診療科における頭頸部癌治療後嚥下障害リハビリテーションの展開。(第 38 回日本頭頸部癌学会学術集会, 東京, 2014 年 6 月)
32. 高橋浩二：口腔癌治療後構音障害と嚥下障害の対応—大学専門診療科の取り組み—。(第 68 回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014 年 5 月)

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

1. 研究成果発表会

<既に実施しているもの>

1) 平成 26 年度発表会

(平成 27 年 3 月 28 日 (土) (別添資料 3 参照)

(1) 特別講演①:『日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望』

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野 教授 古谷野 潔 先生

(2) 特別講演②:『メダカを用いた骨代謝機構の解明: 宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常』

東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻 教授 工藤 明 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

2) 平成 27 年度発表会

(平成 28 年 3 月 12 日 (土) (別添資料 3 参照)

(1) 特別講演①:『神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力』

東北大学大学院医学系研究科 属創生応用医学研究センター長 脳神経科学コアセンター長 大隅 典子 先生

(2) 特別講演②:『粘膜マルチエコシステムによる共生と排除』

東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター長 炎症免疫学分野 教授 清野 宏 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

3) 平成 28 年度発表会

(平成 29 年 3 月 4 日 (土) (別添資料 3 参照)

(1) 特別講演①:『定量プロテオミクスから展開する分子プロファイリング』

慶應義塾大学医学部長 岡野 栄之 先生

(2) 特別講演②:『癌治療における支持療法としての口腔ケア: その原理と効果、そして展望』

九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座口腔細胞工学分野 教授 九州大学大学院歯学研究院長

平田 雅人 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

4) 平成 29 年度発表会

(平成 30 年 3 月 17 日 (土) (別添資料 3 参照)

(1) 特別講演①:『再生技術を用いた近未来の再建及び細胞治療』

JR 東京総合病院 病院長 高戸 賢 先生

(2) 特別講演②:『未診断疾患イニシアチブ: 患者・臨床医・研究者が垣根と国境を越えて協力する枠組み』

慶應義塾大学 医学部 臨床遺伝学センター センター長・教授 小崎 健次郎 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

5) 平成30年度発表会

(平成31年3月16日(土)(別添資料3参照)

(1) 特別講演①:『口腔細菌叢の育成と管理を介した歯科医療の新戦略』

九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進学講座 口腔予防医学分野 教授 山下 喜久 先生

(2) 特別講演②:『睡眠覚醒の謎に挑む』

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIS) 機構長・教授 柳沢 正史 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表(ポスター形式)15題

2. 雑誌等での公開(別添資料4参照)

1) 研究成果発表会関連

1. 宮本洋一:昭和大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム News & Report,歯界展望, 126(2): 399, 2015
2. 宮本洋一:昭和大学歯科病院で私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成26年度合同シンポジウム開催 NEWS Q, the Quintessence, 34(5): 203, 2015
3. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成27年度シンポジウム開催されるNEWS Q, the Quintessence, 35(5): 240, 2016
4. 中村史朗:昭和大(歯)が文科省支援事業の平成27年度シンポジウムを開催 Random Note,日本歯科評論, 76(5), 2016
5. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成27年度シンポジウム News & Report,歯界展望, 127(6): 1217, 2016
6. 中村史朗:昭和大(歯)が文科省支援事業の平成28年度シンポジウムを開催 Random Note,日本歯科評論, 77(5), 2017
7. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成28年度シンポジウム News & Report,歯界展望, 129(5): 1010, 2017
8. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成29年度シンポジウム開催されるNEWS Q, the Quintessence, 37(5): 222, 2018
9. 中村史朗:昭和大学歯学部が文科省支援事業の平成29年度シンポジウムを開催 Random Note,日本歯科評論, 76(5), 2018
10. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成29年度シンポジウム News & Report,歯界展望, 131(6): 1266, 2018
11. 中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成30年度シンポジウム開催されるNEWS Q, the Quintessence, 38(5): 189, 2019
12. 中村史朗:昭和大学歯学部が文科省支援事業の平成30年度シンポジウムを開催 Random Note,日本歯科評論, 79(5), 2019
13. 中牧 剛:「血液腫瘍患者のいのちを見つめて」大日本住友製薬、ドクターからのメッセージ, 医療情報サイト
14. 横宏太郎:歯の矯正をして「美しい笑顔」で自信を! (株)祥伝社.からだにいいこと, 2015年9月号, p102-103.
15. 横宏太郎:「大人の歯列矯正-最新情報-」日経ヘルス, 92-95, 2016年11月
16. 横宏太郎:「マウスピースでなぜ歯が動く?」クインテッセンス出版, nico 8-23, 2016年7月

3. インターネットでの公開

・本プロジェクトに関するホームページを昭和大学のホームページで公開している。

(URL: <http://www10.showa-u.ac.jp/~d-common/index.html>)

<これから実施する予定のもの>

該当なし

14 その他の研究成果等

1) 新聞等での公開(別添資料4参照)

1. 美島健二:「ES細胞から唾液腺」日本経済新聞, 2018年10月12日
2. 美島健二:「マウスES細胞から機能的な唾液腺器官の再生に成功 ー唾液分泌障害への応用に期待ー」プレスリリース 文部科学省 2018年10月12日
3. 美島健二:「唾液腺再生に成功」日本歯科新聞 2018年10月23日 1面
4. 阪井丘芳:「科学、「眠気ホルモン」臓器形成を調整」朝日新聞, 2015年5月28日
5. 角 保徳:「口腔ケアに専用ジェル」山口新聞, 徳島新聞 他多数 2015年9月28日
6. 角 保徳:「ジェルで安全口腔ケア」日本歯科新聞 2015年6月23日
7. 高見正道:「拓く研究人(121)昭和大学薬理学研究センター助教・茶谷昌宏氏(32歳)」日刊工業新聞に分担者高見正道(歯科薬理学講座)の助教の茶谷昌宏氏が紹介。2016年5月25日
8. 横宏太郎:「マウスピース 根気と努力」読売新聞, 2016年10月21日

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

9. 横宏太郎：「出っ歯の早期治療は不要…永久歯後でも効果同じ」 読売新聞，2016年10月6日
 10. 岸本裕充：「手術前後 口の中を清潔に 「口腔機能管理」合併症予防に効果」 朝日新聞【医療】，2018年6月13日

2) テレビ・ラジオ等での公開

1. 横宏太郎：「子供の鼻づまりについて（口呼吸と歯並び） NHK「おはよう日本」2015年6月21日 07:00
2. 横宏太郎：「患者ロボット「昭和花子2」」 日本テレビ「スクール革命！」2015年8月9日 11:45 - 12:45
3. 横宏太郎：「患者ロボット「昭和花子2」」 日本テレビ「月曜から夜ふかし」 2016年7月11日 23:59 - 24:54
4. 横宏太郎：「患者ロボット「昭和花子2」」 フジテレビ「NONFI X」，2016年3月23日 26:20 – 27:20
5. 岸本裕充：「放置しないで 骨粗しょう症」 NHK Eテレ TVシンポジウム 2018年2月17日 14:00 - 15:00

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

特記事項なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特記事項なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

特記事項なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

特記事項なし

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

16

(千円)

年度・区分	支出額	内訳						備考
		法人 負担	私 助	学 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	59,782	23,102	36,680	0	0	0	0
	研究費	30,000	15,000	15,000	0	0	0	0
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	42,993	15,772	27,221	0	0	0	0
	研究費	30,000	15,000	15,000	0	0	0	0
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	28,965	9,727	19,238	0	0	0	0
	研究費	30,000	15,000	15,000	0	0	0	0
平成29年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	30,000	15,000	15,000	0	0	0	0
平成30年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	34,000	17,000	17,000	0	0	0	0
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	131,740	48,601	83,139	0	0	0	0
	研究費	154,000	77,000	77,000	0	0	0	0
総計		285,740	125,601	160,139	0	0	0	0

法人番号

131026

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設の名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。) (千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h h h h h			
(研究設備)							
ImageQuant LAS 4010システム	H26年度	Amersham Imager 600 RGB	1式	150.0 h	8,856	5,904	私大助成
2光子レーザー光刺激システム	H26年度	FNI-AI対物ビエゾ450-M25/M32他	1式	1003.5 h	15,120	10,080	私大助成
DNA自動分離装置	H26年度	PI-480	1台	200.0 h	6,070	4,046	私大助成
組織細胞分取システム	H26年度	autoMACS Pro Separator	1台	104.0 h	6,390	4,260	私大助成
微生物分類同定分析装置	H26年度	バイテックMS	1式	6503.0 h	27,216	18,144	私大助成
先端的疾患遺伝子解析システム	H27年度	PROTON-C20B	1式	54.0 h	33,711	22,474	私大助成
Accuri C6 マウス免疫細胞解析パッケージ	H27年度	Accuri C6	1台	107.0 h	6,150	4,100	私大助成
オールインワン蛍光顕微鏡	H27年度	BZ-X700	1台	531.0 h	5,861	3,907	私大助成
ImagEM-1Kカメラセット	H28年度	C9743-24B	1式	105.0 h	7,500	5,000	私大助成
超深度マルチアングルレンズマイクロスコープ	H28年度	VHX-5000シリーズ	1台	102.5 h	14,985	9,990	私大助成
ウェアラブル光トポグラフィー	H28年度	WOT-220-22D	1台	2586.0 h	6,480	4,320	私大助成
(情報処理関係設備)				h h h h h			

18

研究費の支出状況

(千円)

年 度		平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	20,579	試薬、実験器具	1,683	試薬
光熱水費	0			
通信運搬費	0			
印刷製本費	0			
旅費交通費	41	シンポジウム旅費	41	
報酬・委託料	111	シンポジウム講演謝金	111	
(会議費)	12	シンポジウムお弁当代	12	
(雜費)	3,688	標本作製代、実験機器修理代	1,930	データ解析代
計	24,431			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	5,454	内視鏡ビデオカメラ、遠心機	3,035	実験器具洗浄機、臨床科学分析装置
図 書	115	歯科関連図書	115	
計	5,569			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

年 度		平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	22,416	試薬、実験器具	1,166	試薬
光熱水費	0			
通信運搬費	0			
印刷製本費	5	学会ポスター印刷代	5	
旅費交通費	27	学会旅費	27	
報酬・委託料	0			
(雜費)	2,928	実験器具修理代、学会参加費	2,291	アライー矯正解析料、細菌検査代
計	25,376			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,624	超音波骨々	3,424	圧力分布測定システム、顕微鏡用左右同時伸展装置
図 書	0			
計	4,624			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	0			
研究支援推進経費	0			
計	0			

法人番号

131026

年 度	平成 28 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	18,145	試薬、実験器具	1,080	試薬
光熱水費	0			
通信運搬費	3	シンポジウム関係書類郵送代	3	
印刷製本費	5	ポスター印刷代	5	
旅費交通費	123	シンポジウム旅費、学会旅費	123	
報酬・委託料	111	シンポジウム講演謝金	111	
(会議費)	14	シンポジウムお弁当代	14	
(雑費)	5,355	実験器具修理代、細菌検査代	3,155	ライナー矯正解析料、分析装置点検代
計	23,756			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	6,244	蒸気圧法オスマーメーター	4,197	凍結切片作成装置、耳鼻咽喉ビデオスコープ
図 書	0			
計	6,244			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

年 度	平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	18,255	試薬、実験器具	1,672	試薬
光熱水費				
通信運搬費	8	シンポジウム関係書類郵送代	8	
印刷製本費	121	シンポジウムプログラム印刷代	121	シンポジウムプログラム・抄録印刷代
旅費交通費	809	学会旅費	809	
報酬・委託料	111	シンポジウム講演謝金	111	
(会議費)	19	シンポジウムお弁当代	19	
(雑費)	6,549	実験器具修理代、学会参加費	2,200	ライナー矯正解析料
計	25,872			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,073	リーンベンチ	752	ボ用オートクレーブ、滅菌器
図 書	55	歯科関連図書	55	
計	4,128			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号

131026

年 度	平成 30 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	22,195	試薬、実験器具	718	試薬
光熱水費				
通信運搬費	9	シンポジウム関係書類郵送代	9	
印刷製本費	114	学会ポスター作成代	114	
旅費交通費	2,064	学会旅費	2,064	
報酬・委託料	111	シンポジウム講演謝金	111	
(会議費)	30	シンポジウムお弁当代	30	
(雑費)	4,292	学会参加費、英文校正代	2,500	アライナ-矯正解析料
計	28,815			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	5,079	ビニールアイソレーター	1,404	音響鼻腔測定器
図 書	106	歯科関連図書	106	
計	5,185			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			